

地域社会で育む『輝く女性研究者』支援

平成22年度～平成24年度活動報告書



C contents

地域社会で育む『輝く女性研究者』支援 平成22年年度～平成24年度活動報告書

ご挨拶	01
ミッションステートメント	04
活動実績	07
平成22年度活動報告	34
平成23年度活動報告	39
平成24年度活動報告	50
付録	60



ご挨拶

国立大学法人大分大学長 北野 正剛

大分大学では、平成22年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択されて、これまでの3年間、女性研究者の研究活動支援の取組を鋭意進めて参りました。

正直なところ、すべてがゼロからの出発と申し上げても過言ではなく、それだけに、全学を挙げて取り組んでいくという意気込みは、先行する大学に引けを取るものではなかったと自負しております。

初年度は推進体制づくりから始まり、男女共同参画推進宣言及び宣言実行のための行動計画の策定、さらには女性研究者の研究活動支援事業に学内経費を措置することの学内合意を得ました。

こうした取組は、女性研究者支援にとどまらず、本学に在職するすべての教職員にとっても働きやすい職場環境づくりに寄与していると確信しておりますが、女性研究者を増やすという本事業の目標を達成することは大変厳しいということも実感しました。

このため、2年度目からは、インセンティブ付与等本学独自のポジティブアクションを模索しており、事業終了後の平成25年度からは新たなミッションコンプライト案(女性教員採用枠の新設)も実行に移す予定です。

採択後3年が経過しましたが、まだまだ、本学の取組は緒についたばかりというべきかもしれません。この3年間の取組を踏まえ、地域における『知の拠点』、『研究・教育の拠点』として、今後一層取組を発展させていきたいと考えております。

最後になりましたが、本事業に御支援、御協力をいただきました文部科学省、(独)科学技術振興機構及び関係者各位に深く感謝申し上げますとともに、今後も、皆様と連携しながら、本事業を推進して参りますので、一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。



ご挨拶

大分大学女性研究者サポート室長 松浦 恵子

平成22年度文部科学省科学技術振興調整費による女性研究者支援モデル育成事業(現 女性研究者研究活動支援事業)に採択され、大分大学に男女共同参画推進本部と女性研究者サポート室が設立されて3か年がたちました。今回、補助金事業終了にあたり、取り組んで参りました事業につきまして、ここにご報告することとなりました。

設立当初は草藪のなかをかきわけながら、はるかかなた先を歩いている先行大学の灯りを目当てに、少しずつ手探りで前に進んでいるようでした。まず体制を整え、事業開始を知らせていくことから始めましたが、全くの異分野からの室長拝命でもあり、戸惑うことばかりでした。2年目になると、ほんの少し視界が開けてきましたが、それゆえにかえてこの事業の難しさもひしひしと感じられるようになりました。意識の変化や効果は目に見えず、それでも研究者の方々から時折いただく「有難い」という言葉に励まされる毎日でした。3年目に入るとすぐに、事業終了後の体制づくりに取り掛かりました。草藪が更地となり、これからの基盤となれそうだという手ごたえが少しずつ生まれてきました。この地にこれから芽生えていく男女共同参画社会の礎だけは確かに出来たのではないかと思います。

この3か年を支えてくださったのは、文部科学省、JSTの方々、先行大学の関係者等の皆様でした。力強い手を数多く差し伸べていただきました。一大学では歩みだせなかった背中を、何度も押していただきました。基調講演、特別講演、トップセミナー、キャリア交流会等での数々の貴重なお話は、大分大学教職員・学生にとっての命の水でありました。九州・沖縄アイランド女性研究者シンポジウムにおける各大学の方々と手を携えて来られたことは何よりの糧でありました。大分県内の自治体関係者、医師会、地域連携コンソーシアムを含めた大学関係者の方々にも、たくさんの機に助けていただきました。

大分大学の男女共同参画推進は、平成22年がキックオフの年、そして平成25年が真のスタートの年であり、これからが新たな出発であると思っております。

どうかこれからも変わらずご指導ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

文部科学省科学技術人材育成費補助金
女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)

地域社会で育む『輝く女性研究者』支援

平成22年度～平成24年度活動報告書

平成25年3月 国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室“FAB”

ミッションステートメント

○提案課題名 「地域社会で育む『輝く女性研究者』支援」

○総括責任者名 「羽野 忠」

○提案機関名 「大分大学」

(実施予定期間：平成 22 年度～平成 24 年度)

(1) 計画構想の概要

① 現行組織の問題点

平成 21 年 5 月段階で、学部学生 5,063 名、修士・博士課程学生 718 名のうち女性比率はそれぞれ 39%、29.4%であり、若手女性研究者を育成する点で極めて不十分である。また、女性教員の比率は全学部の教員 581 名のうち 86 名で全体の 14.8%を占めるにすぎず、男性と比べ圧倒的人数比率の低さが顕著である。このことは、国立大学協会における女性教員比率を 20%に上げるという目標達成に遠く、また、潜在的な女性研究者の研究キャリア継続に対するモチベーションに支障を与える現況となっている。大分大学が男女の区別なく研究・教育活動を積極的に行う場であるために、女性研究者の育成及び維持に関する改善策を早急に講じることが必要である。大分大学における女性研究者が少数である理由として、研究環境において産休・育休などの円滑な運用や研究助成金などによる研究支援が不足していることが挙げられる。また、潜在的若手研究者がロールモデルとすべき女性研究者が乏しいこと、基本的な男女共同参画社会に対する認識の低さやキャリアをもつ女性に対する物理的、精神的サポートシステムの遅れなどを指摘せねばならない。

② 女性研究者支援の具体的な方策及び期待される効果

1) 全学的な支援体制として女性研究者支援が円滑かつ効率的に運用できるように「女性研究者支援サポート室（仮称）」及び男女共同参画室を設置する。本組織は学長直属の機関とし、学長補佐を室長に充てることによって、女性研究者に関する問題点の改善を迅速かつ確に実施することを目的とする。構成スタッフとして副室長1名と室員2名を置き、女性研究者に対する研究・キャリアアップ支援の整備と運用や女性研究者に関する広報誌の作成を行なう。また、女性研究者の全学的な実態調査や女性研究者データベース構築など行ない、女性研究者に関する環境整備と情報発信を行う。

2) 研究支援として、学内経費で研究促進を目的とした女性枠を設け、国際学会また海外研修などへの研究助成を行い、国際的に活躍する研究者養成を促進する。また、医学部においては女性医師の積極的な研究活動を奨励し、研究者数を拡大してさらなる医学の発展を促進する。

3) キャリア支援として、第一に大学に女性採用枠を設け、大学における女性研究者の増員を実施する。また、女性の積極的な管理職への登用を推進する。医学部においては結婚・出産などにより離職した女性医師のデータベースを構築し、医療現場や研究の場において当該データベースの活用により女性医師の復職支援を促進する。

4) 研究環境整備では男女の区別なく産休・育休などの取得しやすい組織づくりを行なうほか、保育園の拡充と整備や柔軟な勤務体制の整備により、女性研究者の早期の職場復帰を促進する。また、若手研究者の育成や女性研究者の研究・キャリア上の相談をサポートするメンター制を導入し、精神面においての女性研究者サポートシステムを強化する。

5) 男女共同参画社会の推進に向けては、大分大学における女性研究者の環境と問題点を提示し、それらの改善にむけて女性問題専門の講師によるセミナーや研究会などを定期的に開催し啓発活動を行なう。また、大分大学と他大学及び県や市における女性支援プログラムとのタイアップにより、地域社会と連携し、女性研究者のキャリアアップを支援する。

（２）実施期間終了時における具体的な目標

- １）女性教員の比率を現在の 14.8% から 20% に引き上げる。
- ２）修士および博士課程学生の女性比率を 35% 以上にすることを目標とする。
- ３）挾間キャンパスの「なかよし保育園」において、病児保育を実現する。
- ４）旦野原キャンパスにおいて、保育園設立要望調査を行ない、ニーズがあれば保育室を設置して専任の保育士を配置するなど、保育園設置のための基盤整備を行なう。
- ５）女性研究者の研究をサポートする研究補助者を配置して、補助者とともに研究できる女性研究者を増やす（挾間キャンパスと旦野原キャンパスに各 2 名）。
- ６）女性枠を設けて、優れた研究に対して研究費を配分する。
- ７）毎年、女性研究者 10 名程度を海外に派遣して、学会活動あるいは共同研究活動の推進を支援する。
- ８）「女性研究者支援サポート室（仮称）」を設置して、室長（学長補佐）を配置し、さらに副室長 1 名ならびに室員 2 名を雇用し配置する。
- ９）女性研究者データベースを作成する。

（３）実施期間終了後の取組

本事業の目的は、現時点において緊急に必要とされている女性研究者支援に止まるものではなく、国全体の目標でもある男女共同参画社会推進に一層寄与するべく、男女を問わず快適な教育研究環境を整備する点にある。従って、本事業で設置される「女性研究者支援サポート室（仮称）」を恒常的組織としてスタッフを更に充実させ、既存の学内委員会である研究戦略・推進部門会議とも密接に連携しつつ、大学全体の研究の質の向上に繋げてゆく。

（４）期待される波及効果

大分大学のリーダーシップのもとで、大学コンソーシアムの場合などを活用して女性研究者拡充キャンペーンチームを結成し、セミナーの実施を通じて大学間交流を推進する。また、県内の企業研究者、社会福祉士や小中高の教員、建築士、医療機関の女性医師などとの交流セミナーを実施し、研究者の裾野を拡大する。

大分県では「大分県庁子育てパパサポートプラン」及び大分県次世代育成支援後期計画「おおいた子ども・子育て支援応援プラン～子育て満足度日本一をめざして～」など、男女共同参画社会の推進に積極的に取り組んでおり、本事業はこの取組とも連携してゆく。更に、大分県消費生活・男女共同参画プラザ（アイネス）などの女性支援関係諸機関とも連携しながら、大分大学が本事業において地域社会における女性研究者支援の先導的役割を果たすことが期待される。

活 動 実 績

大分大学男女共同参画行動計画にもとづいて活動を行いました。



大分大学男女共同参画行動計画

(平成22年10月25日制定)

本行動計画は、大分大学男女共同参画推進宣言(2010年10月25日制定)の基本方針の具体化に向けての様々な取り組みについて明確化するものです。

本行動計画は、平成22年10月から施行し平成25年3月まで取り組むものとし、最終年度には本行動計画の進捗状況を取りまとめ、次期行動計画を策定します。

I 具体的な取り組み

1 男女共同参画推進体制の拡充

- 1) 女性研究者サポート室の設置

2 教育・研究・就業の場における男女共同参の推進

- 1) 大学及び各部局における数値目標の設定及び公表
 - ・新規採用教員の女性比率を向上させる等により女性教員比率を20%、修士及び博士課程女性学生比率を35%に引き上げる。このため、部局ごとに目標を設定し努力する。
 - ・毎年度、部局ごとの比率を調査し、比率向上の進捗状況を公表する。

2) 積極的な改善策の策定

- ・ポジティブアクションの導入
- ・分大方式(インセンティブ付与)の策定

3) 女性研究者の研究活動支援

- ・学長裁量経費等に女性枠を設け、優れた研究に対して研究費を配分する。
- ・毎年、女性研究者10名程度に対し、海外での学会活動、共同研究活動を支援する。
- ・FAB研究賞の制定

4) 女性研究者の研究環境支援

- ・休憩室整備

5) 女性研究者データベースの作成

3 家庭生活と教育・研究・就業との両立支援

1) 男女を問わない育児・介護休業の取得促進

- ・代替要員の措置

2) 女性研究者の研究支援

- ・研究補助員の雇用促進
- ・就業形態の見直しによる研究時間の確保(裁量労働制の活用も含む)
- ・メンター制度の導入
- ・eラーニングの活用促進

3) 育児支援

- ・病児保育の実施(挟間キャンパス)
- ・保育所設置のための環境づくり(旦野原キャンパス)

4 大学運営における意思決定への男女共同参画の推進

- 1) 役職者、教授における女性比率を向上させる。
- 2) 各種委員会における女性委員の比率を向上させる。

5 地域社会との連携を通じた男女共同参画の推進

1) 地域連携サポート

- ・地域連携研究コンソーシアム大分との連携
- ・地域医療学センターとの連携(医療従事者復職支援など)
- ・アイネス等、行政機関との連携

6 男女共同参画に関する啓発活動と教育研究の推進

1) 学長声明その他による学内外への周知

2) 意識啓発

- ・シンポジウム、セミナーの開催

3) 情報の発信

- ・ホームページの開設
- ・広報誌の発行

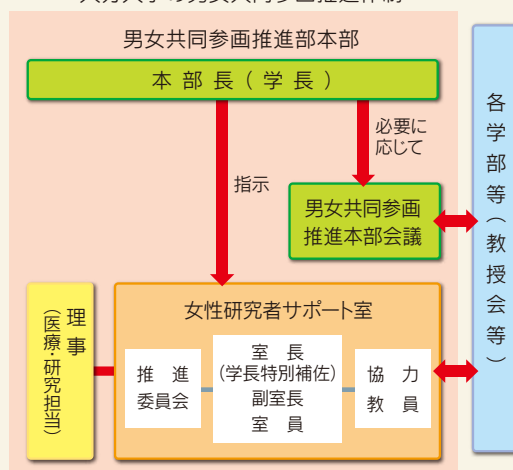
4) 次世代向け啓発活動

- ・サイエンス講座の実施
- ・ロールモデルの提示
- ・オープンキャンパスでの啓発活動

5) 男女共同参画に関する教育・研究の推進

II 推進体制

大分大学の男女共同参画推進体制



III 計画期間

平成22年10月～平成25年3月

IV その他

本行動計画は、女性研究者支援に関わる取り組みを早急に実施する必要があることから、当面これらを中心に定めているが、今後、それ以外の取り組みについても検討し、必要な改定を行う。



男女共同参画推進体制の拡充

男女共同参画推進本部会議実施記録

平成22年度

第1回:平成22年8月30日

- 議題1 国立大学法人大分大学男女共同参画宣言(案)について
- 2 女性研究者サポート室を中核とした大分大学の男女共同参画推進体制について

第2回:平成22年10月5日

- 議題1 国立大学法人大分大学男女共同参画社会推進宣言(案)及び行動計画(案)について

第3回:平成23年3月1日

- 議題1 次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画(第2期)達成に伴うくるみんマークの申請について
- 2 次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画(第3期)(案)について
- 3 女性研究者比率上昇のためのポジティブアクションについて

平成23年度

第1回:平成23年9月6日

- 議題1 「各学部、研究科への男女共同参画の推進についての照会」の回答について
- 2 ポジティブアクションについて
- 3 研究サポーター事業について
- 4 任期付大学教員等の出産・育児・介護に生じる休業期間の雇用期間への算入除外について
- 5 職員対象の男女共同参画に関するアンケート調査の実施について

第2回:平成23年11月28日

- 議題1 部局長裁量経費(女性教員比率対応分)の傾斜配分について

第3回:平成24年1月18日

- 議題1 本学の男女共同参画体制について

平成24年度

第1回:平成24年11月6日

- 議題1 平成25年度からの男女共同参画実施体制と予算確保について
- 2 病児保育室規程及び病児保育室運営委員会細則の策定について

第2回:平成25年2月19日

- 議題1 男女共同参画行動計画(第2期案)について
- 2 男女共同参画推進体制(案)について
- 3 次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画(第4期案)について

第3回:平成25年3月5日

- 議題1 男女共同参画推進体制(案)及び男女共同参画推進に係る規則の制定について

女性研究者サポート室推進委員会実施記録

平成22年度 第1回

日時:平成22年8月2日

場所:旦野原キャンパス事務局第2会議室

議題:

1. 副室長について
2. ロゴマークおよびサポート室の名称について

平成22年度 第2回

日時:平成22年9月16日

場所:(旦野原キャンパス)事務局棟第1会議室
(挾間キャンパス)医学部管理棟多目的会議室

議題:

1. 活動内容(案)について
2. タイムテーブルについて
3. 副室長(研究職)について
4. シンポジウムの開催について

平成22年度 第3回

日時:平成23年2月17日

場所:(旦野原キャンパス)事務局棟第2会議室
(挾間キャンパス)病院第1会議室

議題:

1. 意識調査の実施について
2. 来年度のスケジュールについて
シンポジウム開催等の啓発活動について
3. 奨励賞等の募集について

平成23年度 第1回

平成23年4月26日

場所:(旦野原キャンパス)事務局棟第2会議室
(挾間キャンパス)病院第1会議室

議題:

1. 今年度の事業等について
2. 奨励賞および秋季学会派遣支援について
3. ポジティブ・アクションについて

平成23年度 第2回

平成23年6月29日

場所:(旦野原キャンパス)事務局棟第2会議室
(挾間キャンパス)病院第1会議室

議題:

1. 奨励賞および秋季学会派遣支援について
2. 研究補助員事業の実施について
3. 育児休業取得教員の任期延長について
4. ポジティブ・アクションについて

平成23年度 第3回

平成23年8月11日

場所:(旦野原キャンパス)事務局棟第2会議室
(挾間キャンパス)病院第1会議室

議題:

1. 奨励賞の採択について
2. 学会派遣支援の採択について

平成23年度 第4回

平成23年10月21日

場所:(旦野原キャンパス)事務局棟第1会議室
(挾間キャンパス)医学図書館多目的室

議題:研究サポーター事業の実施について

平成23年度 第5回

平成23年12月20日

場所: (旦野原キャンパス)事務局棟第2会議室
(挾間キャンパス)医学図書館多目的室

議題:

1. 研究サポーター事業の運用について

平成23年度 第6回

平成24年2月9日

場所: (旦野原キャンパス)事務局棟第2会議室
(挾間キャンパス)病院第1会議室

議題:

1. 来年度の研究サポーター事業および奨励賞等の運用について
2. メンター制度の創設について
3. 旦野原キャンパスでの育児支援について

平成24年度 第1回

平成24年5月10日

場所: (旦野原キャンパス)事務局棟第2会議室
(挾間キャンパス)病院第1会議室

議題:

1. 今年度の事業等について
2. メンター事業の実施について
3. 研究サポーター事業の運用について

平成24年度 第2回

平成24年7月19日

場所: (旦野原キャンパス)事務局棟第2会議室
(挾間キャンパス)病院第3会議室

議題:

1. 旦野原キャンパスにおける保育環境の整備について
2. 学会派遣支援の審査について
(国際・国内学会への重複応募の取扱いについて)

平成24年度 第3回

平成24年10月18日

場所: (旦野原キャンパス)事務局棟第2会議室
(挾間キャンパス)病院第1会議室

議題:

1. 在校生に対するアンケート調査の実施方法について
2. 来年度以降の推進委員会の体制について

平成24年度 第4回

平成25年1月25日

場所: (旦野原キャンパス)事務局棟第1会議室
(挾間キャンパス)病院第1会議室

議題:

1. 来年度以降の推進体制について

平成24年度 第5回

平成25年3月26日

場所: (旦野原キャンパス)事務局棟第2会議室
(挾間キャンパス)病院第3会議室

議題:

1. 来年度の推進体制について

経済学部 安岡 正義 委員

米国国立衛生研究所は健康の維持・改善に尽力する世界最大の組織で、20ヶ所の研究所と2万人強の従業員を擁し、2012年度予算は320億ドルにのぼります。この組織で女性研究者の地位向上のための対策委員会が1992年に設置され、ヒンダ・クラインマン博士がこの対策委員会の委員長を務めました。

女性科学者の人数や地位向上に配慮する理由として、クラインマン博士は以下の4つを掲げます。

人員の多様化によって技術革新の機会が増加する。複雑な問題を多様な視点から捉えることにより飛躍的な進歩につながる。

個人の貢献を認め、評価する包括的で多様な人員の方が、均質な要員よりも良い結果を生む。

問題の複雑性が増すにつれて、各分野に渡る学際的チームを組んでその中で協同する必要性が増加する。女性は、複雑な問題を解決する包括的チームの構築に長けている。

卒後教育には莫大な資金が投資されるのだから「教育機関や国家がこのような科学技術分野の貴重な人的資本を十分に活用しないのは無駄遣いと言える」。

これらの論点は日本にもそっくりあてはまると思われます。また博士自身は、4人のお子さんを育てながら多くの研究業績を挙げてきたかたです。しかしながら、たとえば時間の節約のために1週間分の料理をまとめて作って冷凍保存しておき、家族との夕食ののちに研究室に戻って深夜まで研究する、という生活を何十年も続けてきたことを知り、文字通りスーパー・ウーマンだ(実際には悲壮感のない、とても温厚なかたですが)との印象を禁じえませんでした。時間の節約は確かに大事ではあるでしょう。けれどもスーパー・ウーマンではない普通の女性が研究者としてキャリア・アップできるような支援体制こそが必要なのではないか、と私は考えています。

医学部 井上 亮 委員

サポート室メンバーとしての活動を通じ、あらためて男女共同参画を考えるよい機会となりました。理想とされる体制造りはすぐには困難と思いますが、まずは身近な所から、可能な限り女性研究者支援を行っていきたいと思います。

経済学部 雲 和子 委員

この取り組みが分大で始まったとき、同性でありながら、今更アフーマティブ・アクションが必要なのか、というのが正直な思いでした。しかし、FABが設立され、制度・施設の整備や意識の啓発活動などがなされる中、さまざまな成果が生まれ確実に前進しています。とりわけ、各自が問題意識を持ち、それを共通認識とするためには、こうしたプロセスを踏み、また常に発信していくことが重要なのだと痛感しています。1日も早く、女性研究者もイクメンもあたりまえの、ジェンダーバランスのとれた社会が築けますように。

福祉社会科学研究科 高島 拓哉 委員

男女共同参画というと女性の処遇を改善するという意味で理解されているところが多いと思いますが、女性の無権利状態は男性にとっても問題であるという認識がジェンダー研究の到達点です。育児・介護等を女性の仕事と観念させることで家族責任のうちに縛り付けてきた制度ですが、女性の介護力が限界に達してくると今度は男性を引きずり込みつつあります。家族のアンペイドワークに依存した政策から、社会が負担を担う政策への転換が求められています。

教育福祉科学部 山崎 栄一 委員

これまで、委員をさせていただいた中で行ったアクションは、2つありました。一つは、コラムの中で自然災害と女性に関する指摘をさせていただいたことです。もう一つは、私が開講している「日本国憲法」の授業に、山岸治男先生をお招きして「男女共同参画」について講義をさせていただいたことです。これからも、自分の研究・教育スタイルを生かした、男女共同参画への貢献が出来ればと思います。

医学部 前田 知己 委員

私がかねてより周産期医療人材育成事業で病児保育の開設要望に関わっていた関係でFABの委員に推薦いただいたものと思います。病児保育は狭間キャンパスに於いて、児の急な発病に対応できる形で開始されることになりました。急性期の感染症から対応する病児保育は、他にあまり例をみない画期的なことで、女性研究者のみならず育児をしながら研究、仕事を継続する人に対する支援として、すぐに効果が実感できる有効な方策と思います。最初は規模小さく始まりますが、うまく軌道に乗せてより多くの人の支援に役立つように発展していくことを期待していますし、支援していこうと思っています。

教育福祉科学部 荻野 千砂子 医員

私がこの職場に赴任する一年ほど前の話です。なかなか専門にあった就職先がないときに、恩師から「これからは対等の業績を持っていたら女性を積極的に採用しましょう、という時代になるから。」と励まされ、本当にそんな時代がくるのだろうかと思っていました。研究者側も、本気で女子学生を研究者に育てようと決心したときに、従来の意識が変わるのかもしれない。女子学生を研究者に育てることができるかどうか、ポイントとして加算する制度はいかがでしょうか？

教育・研究・就業の場における男女共同参画の推進

女性比率の推移(各年度5月1日現在)

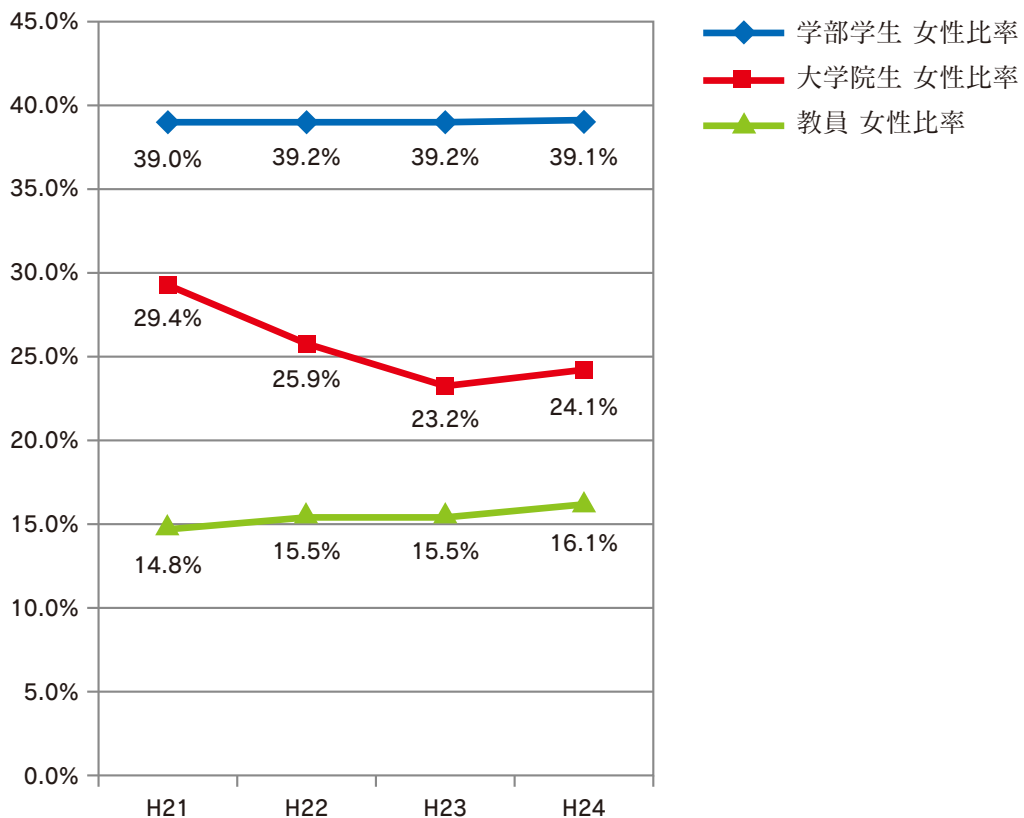
積極的な改善策の策定 ・ 女性教員増員のためのポジティブアクションの導入

平成22年10月 「大分大学男女共同参画推進宣言」を行うとともに、「大分大学男女共同参画行動計画」を策定し公表した。この中で女性教員比率20%、修士および博士課程女性学生比率を35%に引き上げることを明記。

平成23年12月 部局長裁量経費(女性教員比率対応分)の傾斜配分基準決定。

平成24年 2 月 国立大学法人大分大学における教員選考の基本方針の一部改正。

平成24年 6 月 人事政策会議において、女性教員採用枠の確保について議論され、大学が掲げた「数値目標のためのミッションコンプリート案」を了承。



女性教員は事業申請前の平成21年度の14.8%から16.1%と増加した。今後、長いスパンで増加させていく。

平成22年度～平成24年度 奨励賞授賞実績

平成22年度 女性枠研究奨励賞		
	受賞名	所属・職名等
研究者部門	最優秀賞	医学部・診療教授
	優秀賞	工学部・准教授
	優秀賞	全学研究推進機構・助教

平成23年度 女性枠研究奨励賞		
	受賞名	所属・職名等
研究者部門	最優秀賞	教育福祉科学部・講師
	最優秀賞	医学部・助教
	優秀賞	医学部附属病院・助教
	優秀賞	医学部附属病院・助教
大学院生部門	最優秀賞	工学研究科
	優秀賞	医学系研究科

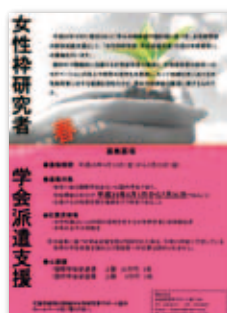
平成24年度 女性枠研究奨励賞		
	受賞名	所属・職名等
研究者部門	最優秀賞	工学部・助教
	優秀賞	医学部・助教
	優秀賞	医学部・助教
	優秀賞	医学部・助教
	優秀賞	医学部・研究支援者
	優秀賞	工学部・准教授
大学院生部門	最優秀賞	医学系研究科
	優秀賞	医学系研究科
	優秀賞	工学研究科

平成22年度～平成24年度 学会派遣支援実績

平成22年度 女性枠学会派遣支援		
	所 属	職 名
国 内 学 会	工学部	准教授
	医学部	医員
	全学研究推進機構	助教

平成23年度 女性枠学会派遣支援			
		所 属	職 名
春 季	国 際 学 会	教育福祉科学部	講師
		教育福祉科学部	講師
		医学部	技術補佐員
	国 内 学 会	教育福祉科学部	技術補佐員
秋 季	国 際 学 会	工学部	技術職員
		医学部	医員
		工学研究科	大学院生
	国 内 学 会	医学部	助教
		医学部	助教
		医学部	医員
		工学部	准教授
		全学研究推進機構	助教
		教育学研究科	大学院生
		教育学研究科	大学院生
		医学系研究科	大学院生

平成24年度 女性枠学会派遣支援			
		所 属	職 名
春 季	国 内 学 会	医学部	助教
		医学部	研究支援者
		医学部	研究補助員
		工学研究科	大学院生
秋 季	国 際 学 会	医学部	教授
		経済学研究科	大学院生
		工学研究科	大学院生
	国 内 学 会	医学部	助教
		教育学研究科	大学院生
		医学系研究科	大学院生
		医学系研究科	大学院生
		工学研究科	大学院生



家庭生活と教育・研究・就業との両立支援

研究補助員の雇用促進 研究サポーター事業利用実績

平成23年度 研究サポーター事業利用者		
所属・職名等	性別	申請理由
医学部医学科 助教	女性	育児
医学部医学科 助教	女性	育児
医学部看護学科 助教	女性	育児
医学部看護学科 助教	女性	育児

平成24年度前期 研究サポーター事業利用者		
所属・職名等	性別	申請理由
医学部医学科 助教	女性	育児
医学部看護学科 助教	女性	育児
医学部附属病院 助教	女性	育児
教育福祉科学部 講師	女性	育児
医学部医学科 助教	男性	育児
医学部看護学科 准教授	女性	育児

平成24年度後期 研究サポーター事業利用者		
所属・職名等	性別	申請理由
医学部看護学科 講師	女性	介護
医学部看護学科 准教授	女性	育児
経済学部 准教授	男性	育児
医学部附属病院 助教	女性	育児

1. 病児保育の実施(挾間キャンパス)

平成23年5月から担当となる職員(看護職)を雇用し、開室準備

実施年月	実施内容
平成 23 年 5 月～平成 24 年 11 月	・ 他大学、病院病児保育室の視察 ・ 職員研修（保育施設・小児病棟）
平成 24 年 6 月	・ 第 1 回病児保育室開室準備 WG
平成 24 年 7 月	・ 第 2 回病児保育室開室準備 WG
平成 24 年 10 月	・ 病児保育に関するアンケート調査 （対象：挾間キャンパスの全教職員）の実施
平成 24 年 12 月	・ 第 3 回病児保育室開室準備 WG
平成 25 年 1 月	・ 病児保育に関するアンケート調査報告書作成・配付
平成 25 年 3 月	・ 病児保育室の名称の公募 ・ 第 4 回病児保育室開室準備 WG
平成 25 年 6 月	・ 病児保育室開室予定

2. 保育所設置のための環境づくり(旦野原キャンパス)

研究者に対する意識調査等、数回のニーズ調査の実施

実施時期	調査結果及び対処等
平成 23 年 3 月	（研究者（研究に携わる技術系職員を含む）及び大学院生に対する意識調査） 『保育所ができれば利用するか（旦野原キャンパス勤務者に限定）』の質問
平成 24 年 5 月	（女性研究者に対する詳細なニーズ調査） 研究を続ける上で、『今すぐに支援・サポートが必要なもの』について
平成 24 年 7 月	（推進委員会） 将来的には望ましいサポートではあるが、上記2つの調査により、現時点でのニーズがあるという結果が得られず、即来年度予算に反映させることは難しいという結論。

地域社会との連携を通じた男女共同参画の推進

アイネス等、行政機関との連携

1. 県との連携

- ・大分大学生を対象とした男女共同参画講義の共催
- ・アイネス男女共同参画ウィーク行事の活動パネル展へのポスター出展、トークセッションへのパネリスト出演協力
- ・大分県男女共同参画審議会委員に室長が就任
- ・大分県第3次DV対策基本計画策定委員会会長に室長が就任

2. 教育機関との連携

- ・県内大学へのセミナー等の案内
- ・大分県教育委員会及び市町村教育委員会を通じた中高校への啓発誌等の配付
- ・大分県立大分舞鶴高等学校(S S H指定校)と連携した特別講演会の実施
- ・高校生の意識調査実施

3. 大分労働局等との連携

- ・セミナー講師の依頼
- ・人材バンクへの登録について協力依頼

4. 市町村との連携

- ・豊後大野市主催の「女性の市政講座」受講者を対象とした男女共同参画講義の実施
- ・大分市主催の「男女共同参画推進関係団体懇談会」における講演の実施

医師会等各種団体との連携

1. 本学同窓会組織との連携

- ・教育福祉科学部、経済学部、医学部医学系、医学部看護学系、工学部のそれぞれの同窓会に対し、本事業の取組紹介及び協力要請

2. 地域医療学センターとの連携

- ・「第2回地域医療を理解するセミナー」で講演

3. 大分県医師会男女共同参画委員会との連携

- ・「女子医学生、研修医等のためのシンポジウム」で講演
- ・女性医師への実態調査についての協議
- ・「先輩と語ろう！！男女共同参画シンポジウム」のトークセッションで講演

4. その他

- ・大分県女性精神科医の会での講演
- ・大分県商工会議所女性部会へ各種公開セミナーへの参加依頼

男女共同参画に関する啓発活動と教育研究の推進

シンポジウム、セミナーの開催

- ・一般公開のシンポジウム、セミナーの開催(6回)
- ・学内者を対象としたセミナーの開催
 - 1) トップセミナーの開催(3回)
 - 2) 学部別セミナーの開催(6回)
 - 3) 教員を対象としたキャリアアップセミナーの開催(5回)

情報の発信

- ・ホームページの開設、広報誌の発行(付録参照)

次世代向け啓発活動

- ・オープンキャンパスでの啓発活動
 - 1) 旦野原・挾間の両キャンパスで、パネル展示説明
 - 2) 「女性研究者と語ろう」及び「女性研究者の研究室を覗こう」の実施
- ・啓発誌の発行
 - 1) ロールモデル誌の提示(2号)
 - 2) 啓発本『ママの研究室』

研究・研究者に関心をもってもらうために、絵本仕立てで作成し、県内の全高校及び中学校に配付するとともに、市町村の図書館に寄贈。

なお、文・画ともに本学の教職員の協力による。
 - 3) 高校生向け啓発誌

研究者という職業があること、誰でも研究者になれることをマンガで紹介しています。
- ・サイエンス講座等の実施
 - 1) 夏休みこどもサイエンスの実施
 - 2) 女性研究者によるサイエンスセミナー

教育・研究の推進

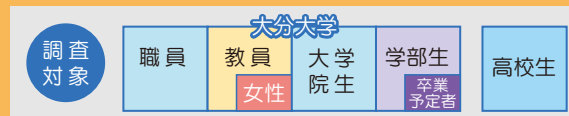
- ・学部新入生への講義(7回)
- ・全学共通科目等での講義(5回)

意識調査

大分大学が、男女の区別なく研究・教育活動を積極的に行える場であるために、学内の関係者を対象にアンケート調査を実施して、ニーズを把握し、施策に活かすことが重要である。このため、事業初年度の研究者を対象とした意識調査をはじめとして、この3年間に本学に在籍する全階層を対象に調査を実施するとともに、施策の成果を検証するため、研究者を対象とした調査を再度実施した。

さらに、次世代育成のために、学外の高校生を対象とした意識調査も実施した。

意識調査等の実施記録



平成22年度			
調査名	対象	実施時期	回答数 または率
国立大学法人大分大学における『女性研究者支援モデル育成』事業に係る研究者の意識調査	大分大学の教員(研究に直接携わる技術系職員を含む)、修士課程以上の大学院生	平成23年 3月14日～28日	教員 38.0% 院生 14.8%
国立大学法人大分大学における『女性研究者支援モデル育成』事業に係る研究者の意識調査(職員の意識調査)	大分大学職員(技術系職員除く)	平成23年 10月11日～21日	128人

平成23年度			
調査名	対象	実施時期	回答数 または率
男女共同参画推進強化のための調査 (女性教員インタビュー)	大分大学の女性教員2名	平成24年 3月14日	—
男女共同参画推進強化のための調査 (平成23年度卒業予定者アンケート調査)	平成23年度学部卒業予定者	平成24年 2月下旬から 3月19日	138名

平成24年度			
調査名	対象	実施時期	回答数 または率
男女共同参画強化のための調査 (女性研究者定量調査)	大分大学の女性教員	平成24年 5月28日～ 6月12日	63.7%
病児保育に関するアンケート調査	大分大学挟間キャンパス職員	平成24年 10月1日～11日	68%
男女共同参画推進強化のための調査 (高校生アンケート調査～次世代の男女共同参画～)	大分舞鶴高校在籍の1年生および2年生	平成24年 10月4日	630名
男女共同参画推進強化のための調査 (インナーヒーリング)	サポート室長および 総務部長	平成24年 10月12日	—
男女共同参画推進強化のための調査 (在校生アンケート)	大分大学在籍の学部学生	平成24年 12月3日～27日	1825名
国立大学法人大分大学における『女性研究者支援モデル育成』事業に係る研究者の意識調査	大分大学の教員(研究に直接携わる技術系職員を含む)、修士課程以上の大学院生	平成25年 1月25日～ 2月8日	教員 37.3% 院生 33.1%

サポート室活動紹介新聞記事一覧(平成22年度～平成24年度)

平成 22年度	8月31日	大分合同新聞	女性研究者の活動を後押し。大分大、サポート室設置。育児との両立、環境整備。
	9月 1日	読 売 新 聞	大分大、女性研究者の支援室設置。保育園設置、助成制度も。
	9月 7日	大分合同新聞	『ひと』地域、大学の活性化に。
	9月10日	毎 日 新 聞	大分大、女性研究者をサポート。育児支援や環境整備など。
	11月14日	日刊工業新聞	女性研究者支援シンポ。
	12月 6日	大分合同新聞	女性研究者を増やそう。16日、大分大がシンポ。
	12月20日	大分合同新聞	「女性研究者の支援育成に力」大分大がシンポ。
	2月26日	大分合同新聞	女性医師が働き続けられる環境を。来月5日、大分大でシンポ。
	3月12日	大分合同新聞	選択肢広げるために臨床継続を。女子医学生・研修医等のためのシンポ。
平成 23年度	4月25日	大分合同新聞	『なるほどサイエンス』多くの女性科学者が活躍。日本では7人のうち一人。
	9月24日	大分合同新聞	女性研究者の活躍願う支援制度の授賞式。大分大で21人に。
	10月10日	大分合同新聞	女性医師の成功法をアドバイス。大分大で講演会。
	1月 7日	大分合同新聞	男女共同参画支援。大分大学が公開講座、19日、大分市で。
	1月20日	大分合同新聞	「視点変える言葉で考え方変わる」大分大が共同参画講座。
	1月27日	大分合同新聞	『四重奏』イメージキャラクター「FAB子ちゃん」発表
	1月28日	大分合同新聞	大分大、女性研究者に焦点。サポート室が冊子発行。
	1月31日	大分合同新聞	家庭と両立へ研究サポート、女性のキャリア向上のモデルに。実験や資料作成手伝う。大分大が補助員を配置。
	2月 1日	西 日 本 新 聞	女性教員で学内活性。大分大新年度から積極採用で予算増。
平成 24年度	4月17日	大分合同新聞	大分大、女性研究者交流の場。男女共同参画推進本部棟が開所。
	4月25日	大分合同新聞	女子よ！目指せ研究者。憧れ育む“手引書”大分大サポート室が出版。
	5月 5日	大分合同新聞	18日に男女共同参画公開セミナー
	5月31日	大分合同新聞	女性はもっと活躍できる！資生堂取締役・岩田喜美枝さん講演。人材の多様化で新しい価値創造「個性を発揮する努力を」
	8月 4日	大分合同新聞	女性研究者セミナー。大分大サポート室
	9月14日	大分合同新聞	大分大男女共同参画公開セミナー
	10月13日	大分合同新聞	育児中の女性医師ら仕事と家庭の両立語る。大分大でシンポジウム
	10月18日	大分合同新聞	朝刊トップ面コラム『東西南北』
	10月19日	大分合同新聞	『四重奏』奨励賞授賞式
	11月 1日	大分合同新聞	大分大・女性研究者サポート室。意識改革の取り組み進む。設置2年、目標達成に課題残るが……。『支援に対する頑張りも』
	12月16日	大分合同新聞	女性研究者が活躍できる環境を協議。大分市でシンポジウム。

平成 24年度	2月8日	大分合同新聞	努力続け夢かなえて 元宇宙飛行士山崎直子さん 高校生にエール
	2月8日	読 売 新 聞	元宇宙飛行士の山崎さん講演 大分舞鶴校生に
	2月9日	毎 日 新 聞	先見えずとも訓練大切 宇宙飛行士・山崎直子さん講演

女性研究者の活動を後押し

大分大学生活の研究者、学生の受ける力を入れる。何となく研究を自立させる。環境の中で取り組み、活動をする。研究者としてのレベルアップを促す。教員や修士・博士課程の女性比率アップの研究を掲げる。県内の人々を前にて「女性研究者のポ・ポ・空」を説く。学校の事情や女性の立場や異なるニーズに対応する仕組みづくりを模索する。

本年度の科学研究費助成事業のうち、女性研究者が受領モデル育成基金の分野で、大分大学のフナギが採択された。事業費は3年間下り、(上図)。

建教員職と女性性比率を、教員 30%、現在15%、博士・博士課程の学生を引き上げるにた。

「地域社会との連携」も、将来は県内卒の連

教 授	10.1%
准教授	12.8%
講 師	17.7%
助 教	19.9%
教員全体	15.6%
学部長などの の校職者	48人中 4人

自5月1日起

大分大、サポ^oート室設置

育児との両立、環境整備



ポイント
科学技術振興機構、文部科学省の調査によると、研究資金確保の一つとして、海外へ出向して研究を行う女性が増えている。女性研究者の海外出張率は、1997年は18.6%、2000年には22.6%と増加している。

サボート学長の秘書馬場千子
医学部准教授は、意思決定
機関の学長室へ出席する
る学長特別補佐に任命され
た。兎の母ともあり、「研
究者」とこのレベルアアップ
とともに、個人としても必
ずな難い女性研究者を増
やせるよう頑張っていく
い」と話している。

2010年(平成22年)8月31日(火)【大分合同新聞(朝刊)】

選択肢広げるために臨床継続を

[illegible]

女子医学生、研修医等のためのシンポジウムを企画して、幅広い分野の知識を蓄積すれば、後進の人生の格上げ」と話し、

国立病院の坂田久富院長は同院の育生医学生研修や在院中の特選奨励や在院中の特選奨励や在院中の特選奨励について説明、研修生連誼会副会長の藤原孝良院長は「ある素晴らしい仕事」と、

2011年(平成23年)3月12日(土)【大分合同新聞(朝刊)】

「女性研究者の
支援育成に力

10



諸国の中では、最低ランクと指摘し、「これからの時代には多様な視点が欠かせない。女性が意思決定の場に進出しやすいようにしなければならぬ」と語った。

2010年(平成22年)12月20日(月)
【大分合同新聞(夕刊)】

大分大 積極採用で予算増
新年度から

り多く活用することで、学内の活性化を狙う。

大分大によると、昨年5月1日現在の全常勤教員（教授、准教授、助教）は579人で、女性性は15・5％の90人。文部科学省の10年度の集計では、女性教員の割合は平均で国立大約13％、公立大約26％、私立大約23％で、国立大の低さが際立っている。

大分大は国立大平均をやや上回っているものを、約1年後の12年度末までに、20％に引き上げる目標を掲げている。11年度に比べて女性教員の

活躍の場が少なかった。とて、より優秀な人材確保に底上げしたい」と話している。

大分大女性研究者サポ
ート室長の松浦恵子・医
学部准教授は「女性研究
者は出産や育児もあり、



男女共同
参画

大分大学の男女共同参画推進本部棟の開所式が16日、大分市の旦野原キャンパスであり、北野正剛

同様に3月26日に完成した。女性研究者サポート室の他、女性研究者が授乳できる休養室など6部署を整備した。女性研究者が集い、情報交換をする場として利用する。

同大学の研究者（昨年5月時点）は男性486人に対し、女性は90人。文部科学省の女性研究者支援センター自成事業として2010年7月に同室を開設し、国の補助を受けなが

る男女共同参画を進めている。長は「学生と研究者が学際を超えて交流し、研究の在り方などについて情報交換すること、大学を交えることで、人材育成につながる」という機会を、松浦恵子同室話した。

2012年(平成24年)4月16日(月)【大分合同新聞(夕刊)】

女性はもっと活躍できる！

資生堂取締役・岩田喜美枝さん講演



「全ての女性が働ける社会を」と話す資生堂取締役の岩田喜美枝さん

いわた・きみえ 1967年、東京都出身。労働省（現厚労省）の官僚を経て現在、資生堂取締役として活躍する岩田喜美枝さんはそう言い切る。

「全ての女性が働ける社会を」。「仕事人が人を育てる」「労働省（現厚労省）の官僚を経て現在、資生堂取締役として活躍する岩田喜美枝さんはそう言い切る。

大分大学男女共同参画推進本部・女性研究者サポーター室が今年、大分市内で開催した公開セミナー「女性はもっと活躍できる」の演題で講演した岩田さんは「ワークライフバランス（WLB）の推進は企業にとっても大きなメリットになる。男勤を継続。夫は東京に

人材の多様化で新しい価値創造

「個性を発揮する努力を」

残り、子どもと子育てをサポートしてくれる実母を連れて転職するなど「当時としては非常識」（岩田さん）なやり方で仕事に挑戦し続けた。異動のたびに1カ月で前任者のレベルに追いつくことを自分に課したという。中でも男女雇用機会均等法の制定に携わったことが「一度むけた経験になった」と話し「困難な仕事を乗り越え、何回も挑戦できるのが大事」と強調した。



岩田さんの講演を聞く参加者＝大分市のレンブラントホテル

働くこと」を免除するの期待し、その気持ちが女性社員に伝わるのが大きい」と、女性社員との「事」と話す一方で「女性社員も個性を発揮する努力をして」とエールを送る。

講演後「自分の価値観に従い、働かない」「選択をする女性もいるのでは」と質問した。岩田さんは「全ての女性が働ける社会が理想」と回答。「結婚して子どもを産んでもそうでなくても、自分の人生は自分でつくるもの」と繰り返した。WLB推進への取り組み方が分からない企業へは「まずはコストがかかるという思い込みを捨てて」とアドバイス。「私は先輩の女性たちの背中を見ながら今日まで来たが、モデルがなければ自分が作ればいい。若い世代にバトンをつないで」と、穏やかな口調に全ての女性が働ける社会への強い期待をのぞかせた。

（小金丸彩子）

2012年（平成24年）5月31日（木）【大分合同新聞（朝刊）】

女子よ！目指せ研究者

小中高生女子を研究の導き手とする。女性研究者が研究と家庭を両立させるよう支援する大分大女性研究者サポート室は「ママの研究室」を出版した。著者は現役の女性研究者いづみさん（ペンネーム）。結婚した母親の神絵は大分市出身・在住で、音楽活動をはじめ幅広い活躍するアーティストのあかしもかき交した。30が熱い。

サポート室は2010年、同書は各種支援の必要を認識し、女性研究者が研究と家庭を両立させるよう支援する大分大女性研究者サポート室は「ママの研究室」を出版した。著者は現役の女性研究者いづみさん（ペンネーム）。結婚した母親の神絵は大分市出身・在住で、音楽活動をはじめ幅広い活躍するアーティストのあかしもかき交した。30が熱い。



「ママの研究室」のいづみさん。研究と家庭を両立させるよう支援する大分大女性研究者サポート室は「ママの研究室」を出版した。著者は現役の女性研究者いづみさん（ペンネーム）。結婚した母親の神絵は大分市出身・在住で、音楽活動をはじめ幅広い活躍するアーティストのあかしもかき交した。30が熱い。

憧れ育む「手引書」

大分大サポート室が出版

られる内容となっている。

主人公の「僕」は、見学に訪れたママの職場（研究室）で働きと意見に満ちた体験をする。実験と考察を繰り返すフタやカエルたちのやりとりは、研究者の仕事の本質を分かりやすく教えてくれる。「研究は性別や年齢、文系理系に関係なく、誰にでも挑戦できる。ワクワクする気持ちを持つてほしい」というのが一番の願い」と松浦恵子同サポート室長。

物語の世界を、写真やイラストをコラージュ（貼り合わせ）した抽象的な挿絵であかしさんが表現。合間に素材の端の紙を使い、「図」の表紙をページいっぱいにはいた。研究へのワクワク感、家庭と仕事を両立するママへの憧れを表現するため、表紙には料理師のイラストも、「研究もイラストや音楽と同じクリエイティブな」と松浦室長。

「ママの研究室」のいづみさん。研究と家庭を両立させるよう支援する大分大女性研究者サポート室は「ママの研究室」を出版した。著者は現役の女性研究者いづみさん（ペンネーム）。結婚した母親の神絵は大分市出身・在住で、音楽活動をはじめ幅広い活躍するアーティストのあかしもかき交した。30が熱い。

2012年(平成24年)4月25日(水)
【大分合同新聞(朝刊)】

「ママの研究室」のいづみさん。研究と家庭を両立させるよう支援する大分大女性研究者サポート室は「ママの研究室」を出版した。著者は現役の女性研究者いづみさん（ペンネーム）。結婚した母親の神絵は大分市出身・在住で、音楽活動をはじめ幅広い活躍するアーティストのあかしもかき交した。30が熱い。

「ママの研究室」のいづみさん。研究と家庭を両立させるよう支援する大分大女性研究者サポート室は「ママの研究室」を出版した。著者は現役の女性研究者いづみさん（ペンネーム）。結婚した母親の神絵は大分市出身・在住で、音楽活動をはじめ幅広い活躍するアーティストのあかしもかき交した。30が熱い。

女性研究者セミナー

大分大サポート室

大分大女性研究者サポート室は同大公開キャンパスで、女性研究者にできることを紹介した。女性研究者の仕事と家庭の両立を促すセミナーを開いた。女性研究者の仕事と家庭の両立を促すセミナーを開いた。女性研究者の仕事と家庭の両立を促すセミナーを開いた。



「ママの研究室」のいづみさん。研究と家庭を両立させるよう支援する大分大女性研究者サポート室は「ママの研究室」を出版した。著者は現役の女性研究者いづみさん（ペンネーム）。結婚した母親の神絵は大分市出身・在住で、音楽活動をはじめ幅広い活躍するアーティストのあかしもかき交した。30が熱い。

が講演した。同大医学部卒業生で、独立行政法人「放射線医学総合研究所」(千葉市)で人工知能性脳細胞(IPS細胞)の研究をしている荒木さん。体を構成するさまざまな細胞になれるIPS細胞の医学応用に向けた基礎研究を進めており、研究の手法や今後の展開、見通しについて説明。会場からの質問に際し、研究者を目指す学生や教職員のほか、モデル(お手本)がほしい。全国的に活躍する女性研究者の話を高校生にも聞いてもらい、理想女子を夢やしたい」といふ。

2012年(平成24年)8月4日(土)【大分合同新聞(夕刊)】

婦医師会男女共同参画委員会（石口邦子委員長）は6日、大分大学校開キキャンパスで「先輩を語るろろ男」をテーマに講演した。

を聞いた。育兒中の女性医師が仕事と家庭の両立について体験を話した。

大分大女性研究者サポート
室の松浦恵子室長（医学部
つた。

分、心理學を専攻し、が「先輩たちの夢を継ぎつづけるために」と断言し、謙遜に、「臨床医に占める女性医師の割合は約15%。特に20代の医学生では小科の4割、」理屈人社の8割が女性。一、仕事と家庭の両立に苦悶を感ずる女性医師が増えたり、産婦医療の崩壊にも関連している」と指し示した。

同大病院は「たまたまの」人々の教養や協力があって今の自分がいる。しっかり働いて社会に貢献すべきと思う。医師として、主婦として、中流下流な気分が、懐ひときもあるが、それと目下、下パーセント頑張ろう。先生方の内々への仕事を。皆大分の医療費削減に貢献し、ほしい」と話した。

女性医師の力を生かすとした

また、重要視されているのは、戦後の男女別セパートの存在、戦後の理解が動きをけることが重要な推進力となること、大切とし話し、「女性陣留が生徒たちと働き続けることができたなら、医師不足の解消や地域医療の強化につながる」と述べた。

女性研究者が研究活動と出帆、育足することを促すこと

同大は戦前戦時体制下で、未だ医師は「自分自身で手術や内服に自分の希望する材料や内服薬を希望する」動き方をしている女性医士がいて、その動き方を、性的支配や病院経営の目的の手段と利用できず、その平準を重視しておくとともに、切「キャリアは必ずしも積み重ねるわけではない」、遅れるの仕方はない」とアドバースした。

女性研究者が研究活動と「るの」は「方ない」とアトハ
出版、育児などを両立でき イスした。

告曰、大分女医会開會キヤハス
聞かば、地産婦科女医共闘参事を目
金のシンガワリ也。夫分女性研
究者サナ、男医同僚ニ對其の操
業を激し、幾いた日本の臨床に占
める女性医師の割合は約15%也。
現代の医師とは史料の如く、婦
人科の80%が女性にして、医療
での女性の存在はかくも大きく
なつてゐる▼一方、仕事と家庭との
両立に苦慮して抱境を離れる女性医
師も増えるといふ。このこととは
「地域医療の問題」に関連してゐ
ると推察するに相違ない。地域医療
の危機は、既に不足がけとなつた
〇地域や診療所に在る医師の偏在
問題、安養施設在りの原因である
そのうち若くは女性医師が離散すれ
ば更に深刻になるべきでない▼
「女性医師の力年が足りなくなつて
来れば、男性医師補助が必要」。地
域医療が救われる」と推察する所
には、著者の因立を讀む女性医
生が安心と感嘆を抱けることがで
きる。國境について欠かれない「大
分の医師への研究者を対象とした
大の調査」は、病歴資料の実用、貧
乏調査と仕事を両立させる必要と
仕事を両立させる必要と求むる
の如く、習得されたものを求め
る声があつた。それに従つて、東
洋女子大学・バース・病院保健事務
長として「大分県」とも、また、
女性医師の支援を講じてほしい。
関係を生かせるべく女性の多くが
持つサブドクターを導き、市民の命
と健康につながるならば、女性医
師を優先して扱ひたいと思ふ。

2012.10.18

◆本年度、大分大学が研究費や学生活動助成費を大幅に増額した。

◆結婚や出産で離職する女性研究者が多い中、大学が研究費を助成し、研究を続けやすい環境をサポートしている。

◆本年度、大分大学の研究費や学生活動助成費が増えた。女性研究者が計画的に研究に取り組む機会が増えたと相談し、参加者が現状を報告した。

(写真)

「女性研究者の活躍は、健康や拡充を求める声が増えたことが大きい。」「ア・マさん、研究者からは「産休・育休中の代わりの講師を探すが難しい」「医学部の保育園の定員が「少ない」など切実な声も。北野学長は「女性が働きやすい環境を整え、優秀な研究者を大学に集めるべきにした」と話した。

30

設置2年、目標達成に課題残るが…

大分大学が2010年8月に女性研究者サポート室を設置してから2年。女性研究者を増やすために掲げた数値目標は課題を残す一方、次世代につなげる意識改革の取り組みが進んでいる。

サポート室は文部科学省科学技術振興調整費のうち、女性研究者支援モデル育成事業で同大学のプランが採択されたのを機に設立。キャリア・環境・情報・地域連携の4つのサポートを活動の柱とし、当時15・0%だった女性教員の割合を、12年度末までに20%引き上げる数値目標を掲げた。

目標達成期限まであと半年と迫った10年9月末現在の女性教員の割合は、1・1倍増の16・1%に上っている。数値目標の達成には「長期的な取り組みが必要」とサポート室長の松浦孝子さん。一方「男女共同参画に対する大学の姿勢が

大分大・女性研究者サポート室 意識改革の取り組み進む



「WLBの実現は子どもの健全な成長に必要」と話す松浦博士の川島隆太氏



大分大学が実施した男女共同参画公開セミナーで川島隆太氏の講演を聞く参加者

「支援に対する頑張りも」

「目標達成期限まであと半年と迫った10年9月末現在の女性教員の割合は、1・1倍増の16・1%に上っている。数値目標の達成には「長期的な取り組みが必要」とサポート室長の松浦孝子さん。一方「男女共同参画に対する大学の姿勢が

情報サポートの一端として10月開催した男女共同参画公開セミナーでは、東北大学教授で医学博士の川島隆太氏が「親世代のワークライフバランス（WLB）が崩れると子どもの睡眠時間や家族そろって朝食を取る機会が減る」と指摘。脳の発達との関連性を説明し（WLBを

Bは仕事を諦めることで、えい、い、こどもも必要。支援を受ける分の頑張りを見せろ」とエールを送った。
（小金丸彩子）

2012年(平成24年)11月1日(木)
【大分合同新聞(朝刊)】

努力続け夢かなえて

元宇宙飛行士 山崎直子さん 高校生にエール

2010年にスペースシャトル・ディスカバリーに搭乗し、国際宇宙ステーションでの業務に就いた元宇宙飛行士、山崎直子さんの講演会が7日、大分市の大分文化会館であった。宇宙飛行士の苦労や宇宙での経験をスライドを交えて説明、「訓練での小さな積み重ねがあつて宇宙飛行が実現した。皆さんも地道な努力を続けて夢をかなえて」と高校生ら約千人にエールを送った。

「宇宙人、夢をつなぐ」と未来へはばたく皆さんへ」と題して講演。宇宙から青い地球を見て、「地球もたくさんある星のうちのひとつだ」とあらためて感じた」と話し、「われわれ人間が地上に住み、生活していることは奇跡。当たり前と思っていないことも、実はそうではないことを忘れないでほしいと呼び掛けた。大分舞鶴高校生徒会長の北山佳恵さん(17)は「山崎さんの努力や訓練の積み重ねの話に励まされた」と話していた。

講演会は大分大学が主催。文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けている大分舞鶴高校の本年度成果発表会へ」と題して講演。宇宙から青い地球を見て、「地球もたくさんある星のうちのひとつだ」とあらためて感じた」と話し、「われわれ人間が地上に住み、生活していることは奇跡。当たり前と思っていないことも、実はそうではないことを忘れないでほしいと呼び掛けた。大分舞鶴高校生徒会長の北山佳恵さん(17)は「山崎さんの努力や訓練の積み重ねの話に励まされた」と話していた。



講演する元宇宙飛行士の山崎直子さん＝7日、大分市の大分文化会館

2013年(平成25年)2月8日(金)
【大分合同新聞(朝刊)】

先見えずとも訓練大切

宇宙飛行士・山崎直子さん講演 大分

「答えは自分で作り出すもの。進路で迷っても二歩踏み出し、間違えば軌道修正すればいい」。宇宙飛行士の山崎直子さんが7日、大分市の大分文化会館で講演した。雪裏。高



もいつ宇宙に行けるか先が見えなかったが、一つ一つの訓練を本番

2013年(平成25年)2月9日(土)
【毎日新聞(朝刊)】

テレビ・ラジオでのサポート室活動紹介

平成24年1月19日	大分大学のラジオ番組 FM大分 「Bundai Radio ACADEMY」	松浦恵子室長が出演し、サポート 室の活動を紹介しました
平成24年2月1日～ 2月29日	TOSテレビ大分 OAB朝日放送	イメージキャラクター「FAB子 ちゃん」によるサポート室紹介 CM放送
平成24年2月25日	OAB大分放送 「れじゃぐる」	「FAB子ちゃん」出演CM紹介
平成24年3月1日	TOSテレビ大分 「TOSスーパーニュース」	松浦恵子室長へのインタビュー 女性研究者、研究サポーター事業 紹介
平成25年12月21日	TOSテレビ大分 「TOSナビ」	「第4回九州・沖縄アイランド女性 研究者支援シンポジウムin大分」 について

平成22年度活動報告

2010.07.27

女性研究者サポート室“FAB”が開室しました

全学部・研究科等を対象とし、研究環境の整備や意識改革など、女性研究者が研究と出産育児等の両立や、その能力を十分発揮しつつ研究活動を行える仕組みを構築することを目的として、女性研究者サポート室が開室しました。

“FAB”とは、Female Academics at Bundaiを表します。

Bundaiは大分大学の略称“分大”です。

“FAB”はfabulous(すばらしい)のダブルミーニングです。



2010.08.04

オープンキャンパスに参加しました

旦野原キャンパスと挾間キャンパスでオープンキャンパスが開催され、女性研究者サポート室は、「めざせ、大分発信の輝く女性研究者!」というタイトルでポスター展示を行いました。

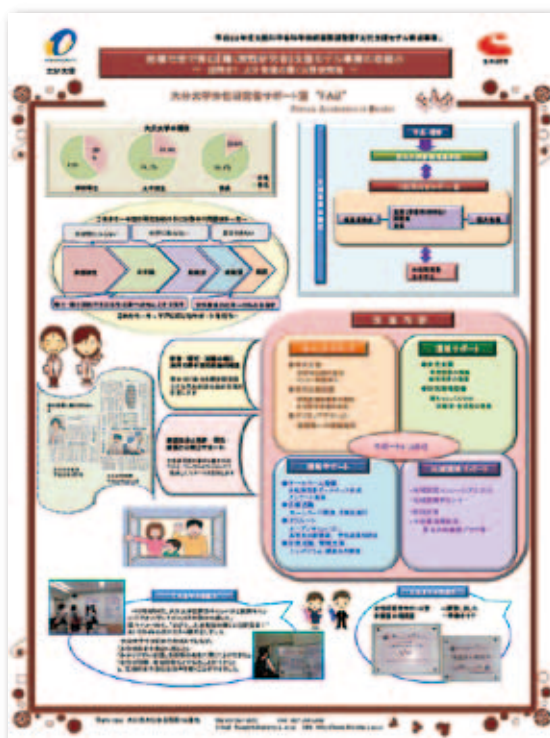
大分大学では初の試みでしたが、訪れた女子高校生からは、「女性研究者を身近に感じた」、「分かりやすい話を現場の先生に聞くことができた」とのコメントをいただきました。



2010.10.05-06

「女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウム」に参加しました

京都大学百周年時計台記念館において、女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウム「未来を築く女性研究者の飛翔に向けて」が開催され、女性研究者サポート室から松浦室長ほか室員が参加しました。ポスターセッションで活動内容の説明を行いました。



2010.10.25

大分大学男女共同参画推進宣言が策定されました

大分大学男女共同参画推進宣言

男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現は、21世紀の我が国における最重要課題です。

大分大学は、大学憲章において、基本理念として、「人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与する」ことを掲げています。この基本理念のもとで、大学としての機能の高度化や地域における「知の拠点」としての役割を果たしつつ、有為な人材の育成と教育研究の発展を目指して取り組んできました。これらの取組の進展が、公正・公平な男女共同参画を必須の前提とするものであることはいうまでもありません。

大分大学は、男女共同参画社会の実現に寄与することを本学に期待されている社会的使命の一つとして受け止め、以下の基本方針に基づき、別に定める具体的な行動計画を全構成員が一丸となって推進することをここに宣言します。

【基本方針】

- ① 男女共同参画推進体制の拡充
- ② 教育・研究・就業の場における男女共同参画の推進
- ③ 家庭生活と教育・研究・就業との両立支援
- ④ 大学運営における意思決定への男女共同参画の推進
- ⑤ 地域社会との連携を通じた男女共同参画の推進
- ⑥ 男女共同参画に関する啓発活動と教育研究の推進

平成22年10月25日 大分大学

2010.12.15

研究者支援セミナーを開催しました

旦野原キャンパス 事務局棟第2会議室において、「研究者支援のためのセミナー ～研究資金制度とその活用について～」を開催しました(挟間キャンパスは映像配信)。

講師の塩満典子氏((独)科学技術振興機構科学技術振興調整費業務室長)からは、利用できる研究資金制度や、採択されるためのポイントについて詳しく説明がありました。



2010.12.16

「女性研究者支援育成キックオフ・シンポジウム」を開催しました



坂東局長



羽野学長



塩満氏



松浦室長

「女性研究者支援育成キックオフ・シンポジウム～地域で育む『輝く女性研究者』支援～」を大分全日空ホテルにおいて開催し、県内自治体、NPO、本学関係者、他大学関係者が参加しました。羽野忠学長の開会挨拶、広瀬勝貞大分県知事(代読:二日市具正副知事)の来賓挨拶の後、板東久美子氏(文部科学省生涯学習政策局長)が「地域における男女共同参画の推進について」と題し、特別講演をされました。

板東局長は、男女共同参画に関する日本の現状や課題、諸外国との比較についての各種データを示し、「これからの社会・組織の活力や持続的発展にとって多様性の推進は不可欠であり、男女共同参画はその基本的で重要な柱となっていること」、また「大学と地域が協働し、男女共同参画の推進を図りながら、地域の活性化・人づくり、地域課題解決への取組を進めることが重要」であることを述べられました。

引き続き、「女性研究者支援モデル育成」事業の紹介として、塩満典子氏((独)科学技術振興機構科学技術振興調整費業務室長)による「事業の背景と現在の取組状況」、松浦恵子大分大学女性研究者サポート室長による「大分大学の取組について」のプレゼンテーションがありました。次に、松浦恵子室長による進行の下、梅木利枝氏(大分県消費生活・男女共同参画プラザ所長)、前田明大分大学理事(総務担当)、塩満典子氏の3名のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。

最後に、藤岡利生理事(医療・研究担当)が閉会の挨拶を述べ、キックオフ・シンポジウムを締めくくりました。



前田理事

梅木所長

塩満氏

2011.01.12

平成22年度女性枠研究者奨励賞の授賞式 および学会参加費助成の通知を行いました

学長室において、羽野学長より女性枠研究者奨励賞の授賞式および学会参加費助成通知書の授与式が行われました。

この賞は、女性研究者に奨励賞や学会参加費を授与することにより、女性研究者の研究の質や意識の向上を目的とするものです。平成22年度公募において、奨励賞には8件、学会参加費には5件の応募がありました。

奨励賞の最優秀賞は、医学部診療教授に、優秀賞は工学部准教授および全学研究推進機構助教にそれぞれ授与されました。また、学会参加費は、工学部准教授、医学部医員および全学研究推進機構助教への助成が通知されました。

授賞式の後、羽野学長を囲んで今後の抱負や女性研究者支援への期待について意見が交わされました。



2011.01.24

「休憩室」を開室しました

勤務中の体調不良時や妊娠・産後などで体調のすぐれない方にご利用いただける『休憩室』を開室しました。



2011.03.17

自己啓発セミナー「アサーティブなコミュニケーションスキルを学ぼう」を開催しました

旦野原キャンパス事務局棟第2会議室において、自己啓発セミナー「アサーティブなコミュニケーションスキルを学ぼう」を開催しました。講師として、NPO法人アサーティブジャパン代表理事の森田汐生氏をお招きし、参加者全員による実践や代表者によるロールプレイを交えながら、2時間のセミナーを行いました。

講演では、

- ・自分の気持ちに誠実になり、相手にも誠実に気持ちを表現すること
- ・自分がどうしたいのかの提案ができること、お互いの立場や意見の違いを認めた上で、建設的な話し合いができること
- ・大切なポイントの一つは、自分のことは自分で決めること、その責任は自分でとること
- ・アサーティブではないコミュニケーションパターンには大きく分けて『ドクカン』、『オロロ』および『ネッチャー』の3タイプがあることなど、アサーティブなコミュニケーションを実践するための重要なポイントを、講師の体験談を織り交ぜながらお話いただきました。



平成23年度活動報告

2011.04.07

医学部新入生を対象とした男女共同参画教育が行われました

大分大学では、平成22年10月に男女共同参画行動計画が策定されました。その行動計画に掲げられた「男女共同参画に関する教育の推進」の最初の取組として、医学部新入生(医学科101名、看護学科70名)を対象に男女共同参画教育が行われました。講師を務めた教育福祉科学部の山岸治男教授は、ご自身の経験やエピソードを織り交ぜながら、「男女共同参画を基にして、今後のキャリア形成・ライフコースの形成を図っていくことが大切である」と話をされました。

参加した新入生からは、「自分で納得のいく、自分の創った人生を歩んでいきたいと思った」や「今後の人生設計の参考になった」など多くの感想や意見を頂きました。



2011.05.20

第1回FAB交流会を開催しました

学部・学科を超えた女性研究者ネットワークを構築するとともに、女性研究者の抱える悩みや問題及び支援に対する要望などを把握することを目的とした“FAB交流会”を開催しました。

第1回目は教育福祉科学部の教員2名、経済学部教員2名、医学部教員1名およびサポート室スタッフ3名が参加し、昼食をとりながら情報交換を行いました。



2011.06.08

工学部男女共同参画セミナーおよび大分大学男女共同参画セミナーを開催しました

男女共同参画推進の取組で先行する、熊本大学の前理事・副学長(人事・労務・男女共同参画等担当)である森光昭氏(現:同大学名誉教授)を講師としてお迎えし、工学部男女共同参画セミナーおよび大分大学男女共同参画セミナーを開催しました。

工学部男女共同参画セミナーでは工学部教授会出席者約70名を対象に、「女性教員を増やす方策」の演題で、男女共同参画社会基本法や第3期科学技術基本計画の内容に触れながら、「今や男女共同参画の推進は、大学の業務実績の評価対象にも組み込まれている」ことを説明され、熊本大学での具体的な取組み内容についてお話いただきました。

大分大学男女共同参画セミナーでは管理職員を中心とした約40名を対象に、「熊本大学の男女共同参画推進の取組み」の演題で講演され、「男女共同参画や女性研究者支援を推進するために全学的推進体制の確立やコーディネーター制度を創設したこと、意識改革・制度改革・保育支援・チャレンジ支援の具体的活動の説明および採択事業終了後の継続策」などについてお話いただきました。



2011.06.25-28

「アイネス男女共同参画ウィーク2011」にポスター参加しました。

H23年6月25日(土)から28日(火)の4日間開催された「アイネス男女共同参画ウィーク2011」(主催:大分県消費生活・男女共同参画プラザ「アイネス」)では、講演会や映画講座、関係団体・グループによるワークショップなど多彩な行事が行われました。

本学は、関連行事の「男女共同参画に関する団体・グループの活動パネル展」で、サポート室の活動パネルを展示し、来場者に、女性研究者の現状や男女共同参画を推進する本学の取組みを説明しました。



2011.07.01

第1回FABキャリア交流会を開催しました

女性研究者サポート室では、企業や研究の現場で活躍されている先輩方を招いて、ご自身のキャリアなどについて語っていただき、気軽に意見交換を行える「FABキャリア交流会」を開催しました。

第1回目は、(株)白石中央研究所事務課の当真瑞代さんと工学部の堤紀子先生を囲み、総勢32名(学生22名)で昼食をとりながらの開催となりました。

當間さんはご自身の経歴を述べられる中で、人生の岐路で何を考え、何を選択してきたか、どのような働き方をしてきたかについて、工学部の堤先生は、研究者の道を選んだ経緯や女性研究者として心がけていることなど、学生へのアドバイスを織り込みながら話をされました。



2011.07.13

経済学部で学部別セミナーを開催しました

経済学部では、教授会出席者60人余を対象に、当室の松浦室長が講師となって、日本の女性研究者の現状や国の取組みをもとに、本学で昨年度から積極的に取り組んでいる男女共同参画推進体制の整備や各種支援策を説明し、今後の事業推進に対する理解と協力を求めました。



2011.07.15

医学部セミナー「女性医療人のキャリア継続のために」を開催しました

九州大学大学院医学研究院 保健学部門の樗木晶子教授を講師としてお招きし、同大学で取り組まれている「九州大学病院きらめきプロジェクト」について、大分大学医学部の教職員及び大学院生・学生を含めた約40名を対象にご講演いただきました。「女性の働く環境を整えるためには、男性医療人も含めた支援が必要であり、また地域社会や外部組織との連携も大切であること、女性医療人への支援は、男性医療人にとっても病院全体にとっても重要である」と説明されました。



2011.07.20

「大学生の今から『男女共同参画』を自覚しよう」というテーマで講義を行いました

経済学部で行っている、新入生対象の基礎演習共通プログラムの一つとして、「大学生の今から『男女共同参画』を自覚しよう」というテーマで講義を行いました。

講師は教育福祉科学部の山岸治男教授が務め、具体的な事例を基に、学生たちに考えさせ、発表させながら講義を行い、男性も女性も将来の自分を見つめ、社会参画し、責任感・使命感の伴う実践を行っていくよう期待を込めて、講義を終えられました。



2011.07.25

教育福祉科学部で男女共同参画教育を実施しました

教育福祉科学部では今回、大分県消費生活・男女共同参画プラザ(アイネス)と連携した「キャリアデザイン講座」を開催しました。

講師に(株)ライフキャリアデザイン・アソシエイツ代表取締役 川端美智子さんを迎え、『男女共同参画の視点を持って自分の未来を創る～自分に気づこう、社会を知ろう、そして仕事と生活の調和について考えよう～』をテーマに、授業は進められました。

講師は、2年生約40名の学生に対し、女子には働き続けることの必要性、男子には育児への積極的な関わりを勧め、さらに、男女ともに、その時々自分の状況に応じたワーク・ライフ・バランスをとりながら生活していくことの大切さについて話すとともに、チェックリストを用いて、各自の生き方や仕事に対する考え方を明確にするワークショップも行いました。



2011.08.10

旦野原キャンパス:「女性研究者と語ろう」・「女性教授の研究室を覗こう」開催 挾間キャンパス:医学科と看護学科で「サポート室紹介コーナー」設置

オープンキャンパス当日、次世代育成のための活動の一環として、旦野原キャンパスでは、「女性研究者と語ろう」と「女性教授の研究室を覗こう」を開催し、挾間キャンパスでは医学科と看護学科でサポート室紹介コーナーを設けました。

「女性研究者と語ろう」では、訪れた女子高校生はサポート室活動紹介動画の視聴後、教育福祉科学部、経済学部及び工学部の女性研究者と語り合いました。女性研究者からは、自身が研究者になったきっかけや、研究の楽しさ、ワークライフバランス等について語っていただき、女子高校生からは進路目標に対してどう歩んでいくべきかなどといった具体的な質問が寄せられました。

また、「女性教授の研究室を覗こう」では全学研究推進機構の一二三恵美教授の研究室を多くの女子高校生が訪れました。研究室所属の学生や大学院生から研究内容の説明や研究のおもしろさについて話を聞き、顕微鏡で細胞を観察するなどの体験をしました。

挾間キャンパスの医学科紹介コーナーでは、松浦恵子サポート室長が多くの女子高校生を前に、医学研究の大切さや大分大学における女性研究者支援体制について説明しました。また看護学科でも丸山サポート室コーディネータが看護学研究の大切さなどについて説明を行いました。



2011.09.03

「男女共同参画頑張ってるで賞」を受賞しました

「第3回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 長崎」において、各大学の女性研究者支援の取り組みを紹介するパネル展示が行われ、シンポジウム参加者による投票の結果、大分大学は『男女共同参画頑張ってるで賞』を受賞しました。



2011.09.16

第2回FAB交流会を開催しました

第2回目FAB交流会を開催しました。全学研究推進機構の一二三教授、教室員1名、大学院3名、学部学生5名および女性研究者サポート室長の計11名の女性研究者が参加し、昼食をとりながら情報交換を行いました。

特に、学会発表のスキルアップの重要性や、研究者として大学に残ることや博士課程に進んでいくことの大切さについて、さらにこれから研究と育児等との両立をすることに関しての不安や具体的対策について話し合いました。



2011.09.20

女性枠研究奨励賞授賞式を行いました

学長室において第2回女性枠研究奨励賞授賞式が行われ、羽野忠学長より奨励賞受賞者に表彰状が授与されました。併せて、平成23年度春季および秋季の学会派遣支援の採択者には採択決定の通知書が渡されました。

第2回女性枠研究奨励賞6名、
春季学会派遣支援 国際学会3名、国内学会1名
秋季学会派遣支援 国際学会3名、国内学会8名



2011.09.20

学長と女性研究者との懇談会を行いました

羽野忠学長と女性枠研究奨励賞授賞式の出席者との懇談会が授賞式後に行われました。

出席者一人ずつ、自身の研究内容の紹介や女性研究者支援への要望について述べました。特に支援に関しては、奨励賞や学会派遣支援の長期継続、病児保育や研究補助員制度の早期実現、若手の育成等の要望が出されました。



2011.09.20

第3回FAB交流会を開催しました

女性枠研究奨励賞授賞式に出席した女性研究者と松浦恵子女性研究者サポート室長による第3回FAB交流会を行いました。

授賞式での学長を前にしての緊張した面持ちとは異なり、同じ研究者同士リラックスした様子で、他の研究者へ質問するなど情報交換しました。



2011.09.27

第4回FAB交流会を開催しました

女性枠研究奨励賞授賞式に出席できなかった医学部所属の女性研究者と松浦恵子女性研究者サポート室長が、奨励賞と学会派遣支援通知書授与も兼ねて、第4回FAB交流会を行いました。交流会では、普段なかなか接する機会がない医学科と看護学科所属の研究者とが情報交換を行い、それぞれの研究内容やワークライフバランスについて、また研究と臨床や教育との両立や将来のキャリアについて意見交換を行いました。



■ 2011.10.08

第9回医学部祭において講演会を開催しました

第9回医学部祭において、女性研究者サポート室主催の講演会を開催しました。

東京医科大学 医学教育学講座 泉美貴教授により、「医師として成功するコツ〜たったの3つ!〜」と題した講演が行われました。

泉教授は、医師として成功するために、

- ①良い師匠につく
- ②卒後最初の4年間は、死にもの狂いで仕事をする
- ③良い伴侶を得る

という3つの秘訣についてご自身の実体験を含めユーモアあふれるお話をいただきました。



■ 2011.11.01

「研究サポーター事業」を始めました

育児(妊娠中を含む)・介護に携わる研究者に対し、研究者の業務を補助する研究サポーターを配置することで、研究者のワーク・ライフ・バランスを支援し、研究活動の活性化を促進することを目的とします。女性研究者に限らず、男性研究者も対象とします。

研究サポーター事業概要

研究補助を希望するもの(利用者)

(利用資格)

- ・妊娠中(産休中を除く)
- ・小学校6年生までの児童を養育している者
- ・家族に要介護者または要看護者がいる者

②研究サポーター利用申請

女性研究者サポート室

人材データバンク

③利用が決定した場合

研究サポーター(サポート室付)を利用者のもとへ派遣

①登録

研究サポーターの取扱いについて

【研究サポーターの業務】

研究活動に必要な実験補助、研究データ分析、統計処理、資料作成、文献調査等の研究補助

【支援期間】

当該年度6ヵ月以内、月72時間以内、週20時間以内

【勤務時間】

利用者の勤務中に、利用者の指示のもと業務を行う。

研究サポーターになることを希望するもの

- ・本学の在学生
- ・卒業生
- ・外部の希望者

研究サポーター利用者のコメント

本年度11月から開始した研究サポーター事業において、女性研究者(医学部)が利用者第一号に決定しました。

12月12日から研究サポーターが配置されており、「子供の迎えや病気に左右されずに実験を進めたいと思っていた。一人より早く、効率的にできるようになった」とのコメントを頂いています。



2011.11.01-02

女性研究者研究支援事業合同シンポジウムに参加しました

女性研究者研究支援事業合同シンポジウム「女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現～『モデル的取組』から『研究とライフイベントの両立』へ～」が筑波大学東京キャンパス文京校舎で開催されました。大分大学からは松浦恵子女性研究者サポート室長、雲 和子推進委員(経済学部)およびサポート室員の3名が参加しました。

シンポジウム1日目は、午前中、参加機関を地域ごとにグルーピングし、女性研究者支援の取組・成果や両立支援策の課題、女性研究者を増やす施策などについてグループディスカッションを行いました。午後からは、各グループの成果発表・質疑応答をとおして、参加機関で取組の共有を行いました。

また、文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長 板倉周一郎氏による「女性研究者支援の主な施策～平成24年度概算要求～」の説明や、各機関のポスター展示も行われました。

シンポジウム2日目は、効果的な取組事例として、九州大学・東京農工大学・東北大学・北海道大学・名古屋大学の5機関が、女性研究者支援の具体的取組内容について発表がありました。午後からは、サイドイベントとして参加機関自由企画として、学童保育・病児保育・ポスドクキャリア支援・ネットワーキングなどについて事例発表および情報交流会が行われました。



2011.11.16-22

『男女共同参画すすめ隊』が各学部長と意見交換を行いました

各学部等における男女共同参画推進を図ることを目的として、嘉目 男女共同参画推進本部 副本部長(総務担当理事)と松浦 女性研究者サポート室長(学長補佐)らが、各学部長を訪問して意見交換を行う、男女共同参画すすめ隊を結成しました。

すすめ隊の最初の活動として、11月16日に野口 医学部長、21日に下田 経済学部長、そして22日に井上 工学部長および柳井 教育福祉科学部長を訪問し、ポジティブ・アクション(女性教員の積極的採用について)についての意見交換を行いました。

男女共同参画すすめ隊は、今後も各学部長等を訪問し、さまざまな課題について意見交換を行うこととします。



教育福祉科学部



経済学部



医学部



工学部

2011.12.06

男女共同参画トップセミナーを開催しました

管理職を中心とした約40名を対象に、長崎大学の大井久美子氏 副学長・男女共同参画推進センター長による「男女共同参画のすすめ―推進する力とたちはだかる壁―」と題した講演が行われました。

長崎大学は平成21年度に文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択されており、大井氏は最終年度となる今年度までの活動を総括して話されました。事業推進体制の構築やポジティブアクションの策定、さらにはテクニカルスタッフ雇用制度や育児支援等の具体的活動に触れながら、活動の成果やいまだ残る課題について詳しく説明していただき、立ちをはだかる壁に對しいかに推し進めていったかということ力を強く述べられました。

また全教職員を対象とした意識調査についても触れ、男女共同参画の推進が長崎大学に与える効果について、多くの教職員が「男女双方にとって働きやすい環境づくりにつながる」と認識しているという結果が出たと説明されました。



2011.12.06

第2回FABキャリア交流会を開催しました

男女共同参画トップセミナーの後、講師の大井久美子氏を囲んで、第2回FABキャリア交流会を開催しました。

長崎大学での女性研究者支援や男女共同参画推進の取組みを参考にしながら、大分大学でもどのように展開しているかをメインテーマに話し合い、参加した理事や協力教員、大学院生が率直な感想を述べるなどして、有意義な交流会となりました。



2012.01.11

経済学部で第2回目学部別セミナーを行いました

経済学部の教員を対象に学部別セミナーを開催、講師として、大分労働局の松永涼子雇用均等室長をお迎えし、「ポジティブアクションのすすめ」と題してご講演いただきました。

松永室長は、ポジティブアクションの必要性や企業の取組状況について説明された上で、他大学での取組みを紹介し、本学でも積極的な取組みが行われることを期待していると述べられました。



2012.01.18

教育福祉科学部で女性研究者支援に関するセミナーを開催しました

教育福祉科学部の教員を対象に女性研究者支援に関するセミナーを開催し、松浦恵子女性研究者サポート室長が講師を務めました。

まず、日本における女性研究者の状況や女性研究者が少ない理由を説明しました。さらに、当大学における女性研究者支援事業の背景には国の方針および当大学の掲げた目標があり、この支援事業によって女性研究者が活躍することは大学にとってプラスになると述べ、さらなる支援活動への協力を求めました。

聴講された教員の方からは、貴重な意見やアドバイスを頂きました。



2012.01.19

大分大学男女共同参画公開講座「女性研究者の活躍とワークライフバランス」を開催しました

大分全日空ホテルにおいて、大分大学男女共同参画公開講座「女性研究者の活躍とワークライフバランス」を開催し、県内の自治体や団体、本学および他大学関係者、一般市民が参加しました。

松浦恵子女性研究者サポート室長による、大分大学の女性研究者支援事業についての説明の後、中川幹子診療教授(医学部)と都甲由紀子講師(教育福祉科学部)が、奨励賞等受賞の対象となった研究について発表を行いました。

特別講演では、国際ジャーナリスト・キャスターであり明治大学国際日本学部教授・学部長でもある蟹瀬誠一氏が「幸せはワークライフバランスから」と題し、講演されました。蟹瀬氏は、夫婦で働きながら子育てした経験を織り交ぜながら、「育児」ではなく「育自」、「共働き」ではなく「共育」と、視点を変えて言葉を捉えることで人間は意識や考え方が変わる。言葉は非常に重要であると強調されました。



2012.01.24

ロールモデル誌「大分大学の輝く女性研究者」を発行しました

この冊子では、大分大学で活躍する女性研究者90名の中から、19人の方を紹介しています。研究の内容や、進路選択のきっかけ、後輩へのメッセージなどを掲載しています。



2012.02.01

教養教育科目で、男女共同参画の講義を行いました

全学共通科目「職業とキャリア開発」に、下郡恵美子キャリア・コンサルタントを講師に迎え、「少しずつ歩みよりの協働～未来志向の男女共同参画～」という題目で講義が行われました。

下郡氏は、約160名の全学年の学生を対象に、「おおいた若者サポートセンター」等での就職支援業務の経験を踏まえた具体的な内容で、これからの社会を背負う学生たちに、性別や世代にこだわらない生き方の重要性を訴えました。



ポジティブアクション宣言をしました



2012.02.17

英語論文の書き方セミナーを開催しました

医学部において、英語論文の書き方セミナーを開催しました。医学部の教職員と大学院生を中心に約40名が参加しました。

エダンズグループジャパン(株)のWarren Raye講師が、「エディターからの英語論文に関するアドバイス」と題して、Session1、Session2、Workshopの項目に分けて、具体的かつ実践的な英語論文の書き方について説明を行いました。

日本人の英語論文の特徴的な問題点や英語表記で留意すべき点などについて詳しく解説し、さらに単語の使い方や役立つ表現などについても説明していただきました。



2012.03.12

医学部で男女共同参画講義を行いました

大分県消費生活・男女共同参画プラザ(アイネス)との共催により、主に医学部4年生を対象に、男女共同参画講義「デートDV防止セミナー」を開催しました。

講師の佐賀県DV総合対策センターの原健一所長は、「自分も相手も大切に」との演題で、ビデオを使って具体的な事例をあげながら、デートDVについて説明されました。また聴講生に対し、医療者としてDVの視点をもつことが、DVや虐待を発見することにつながると述べられました。

参加者からは、デートDVという言葉をはじめて聞いたという人も多く、「自分自身を見つめ直すいい機会になった」、「将来医療現場で役立てていきたい」など多くの感想をいただきました。



平成24年度活動報告

2012.04.05

第5回FAB交流会を行いました

旦野原キャンパスの女性研究者サポート室において、工学部の堤紀子助教、大学院生および学部生、ならびにサポート室メンバーの計9人で、昼食をとりながら情報交換を行いました。

参加者の自己紹介の後、学生には工学部を選んだ理由や女性が少ないことで感じることを気軽に語ってもらい、理系女子の率直な気持ちや考えを聞くことができました。

また、女性研究者を増やすには、工学部へ進学する女子高校生をまず増やさなければならず、高校生への学部説明の機会やオープンキャンパスの時などに、女子高校生にも工学部の魅力を伝えなければならないという意見なども出されました。



2012.04.06

医学部新入生に男女共同参画講義が行われました

医学部で第2回目となる、新入生(医学科100名 看護学科60名)を対象とした男女共同参画講義が行われました。

初めに松浦恵子女性研究者サポート室より、大分大学での男女共同参画への取組について紹介を行い、続いて、大分大学名誉教授である山岸治男氏による「医学生のキャリア形成と男女共同参画」と題した講義が行われました。

医学部の他、今年度の山岸治男先生による新入生対象の男女共同参画講義は以下のとおりです。

教育福祉科学部:

「男女共同参画社会を実現するには」(6月7日)

「ひとの生涯発達から見た男と女」(11月19日)

経済学部:

「学生のキャリア形成と男女共同参画」(6月25日)

「二十歳からのキャリア教育と男女共同参画」(6月28日)

工学部:

「機能と役割から見た男と女、他」(10月3日)



2012.04.17

看護学科で女性研究者の支援活動について説明しました

松浦サポート室長が医学部看護学科において、看護学科教員の方に日本の女性研究者の現状や国の取組をもとに、女性研究者サポート室の各種支援策を説明しました。今後の事業推進・継続に対する理解と協力を求めました。



2012.04.19-20

第6,7回FAB交流会を開催しました

医学部の女性教員、技術補佐員および研修医等の方が参加して、第6回、第7回FAB交流会を開催しました。

最初に松浦室長がサポート室の取組や支援内容について説明を行いました。その後、それぞれの立場においてどのような支援が必要であるか、また女性研究者を増やすための課題について具体的な意見交換が行われました。

参加者の中からは、先輩女性研究者に対して、将来のキャリアについて、仕事と家庭の両立をどのようにしてきたのかなど積極的な質問が行われていました。

「普段話す機会がない方々と交流することができ、視野が広がった。」などのコメントを頂き、今後もこのような交流会を開催していくことの重要性を再認識しました。



2012.05.14・15・17

第8回、9回および10回FAB交流会を開催しました

5月14日(月)、15日(火)および17日(木)に、且野原キャンパスの複数の学部・センター等の女性研究者が参加し、昼食をとりながら第8回、第9回および第10回FAB交流会を開催しました。

初めに松浦室長がサポート室の取組や支援内容について説明を行い、サポート室の活動への協力をお願いしました。その後参加者が自己紹介を行い、どのような支援が必要であるか、女性研究者を増やすための方策等について率直な意見交換が行われました。

各回とも複数の学部・センター等の研究者に参加していただき、所属による女性研究者の状況の違いを知ることが出来、さらに今後の支援事業推進の参考となるさまざまな考えも伺うことができました。



女性研究者に係るメンター制度の実施について

本学の女性研究者が、研究と生活との調和を図りつつ、研究力を磨きキャリアを築き続けるために、より経験を積んだ先輩研究者に気軽に相談できる体制を提供することを通して、女性研究者の科研費等の採択率を向上させるとともに、本学全体の研究力及び競争力の向上を図ることを目的として、メンター制度を実施します。

2012.05.18

大分大学 男女共同参画公開セミナーを開催しました

「大分大学男女共同参画推進本部棟」の開所を記念して、大分大学男女共同参画公開セミナー「先進的男女共同参画を学ぶ」を開催し、県内の自治体や団体、他大学関係者、本学関係者及び一般市民の方などが参加しました。

北野正剛大分大学長による開会挨拶の後、松浦室長が大分大学における女性研究者支援事業についての説明を行いました。

続いて本学の女性研究者2名が発表を行い、平成23年度春季学会派遣支援に採択された川田菜穂子講師(教育福祉科学部)は、「若者の自立・家族形成と住まい」と題し、若い世代を取り巻く環境が自立や家族形成を遅らせている状況について説明し、住宅政策の観点における課題とその対応策についての考えを述べました。

岸田哲子教授(医学部)は、「9時5時のすすめ、若い研究者へ」と題し、自身のこれまでの研究者生活に触れながら、若い研究者に向けて、時間を有効に使い有意義な一生を送れるような働き方の提案を行いました。

特別講演は、株式会社資生堂の取締役である岩田喜美枝氏を講師としてお招きし、「女性はもっと活躍できる」との題でご講演いただきました。岩田氏は人生の三本柱とする「キャリアをつくる」、「家族をつくる」および「社会と関わる」について、ご自身の人生を振り返りながら話をされました。また、資生堂における女性活躍支援の制度作りやワークライフバランスのための業務改革など企業の先進的な男女共同参画の取組についての説明をしていただきました。



2012.06.01

科研費獲得セミナーを開催しました

久留米大学分子生命科学研究所の児島将康教授を講師にお招きし、『書き方次第でこんなに違う!』と題し科研費獲得セミナーを旦野原、挾間の両キャンパスで開催しました。

児島氏は、ご自分の科研費獲得履歴を含めた自己紹介の後、科研費獲得の厳しい現状を大分大学を例に挙げながら説明されました。

採択される重要なポイントとして、「1. 分かりやすく、読みやすい申請書」、「2. 業績(論文発表)」の2つを挙げ、申請書作成の具体的な方法(研究目的をはっきり書く、これまでの自分の研究成果を十分にアピールする等)について、実際の申請書をもとに説明されました。

また、過去の申請書を閲覧できるようにすることなど、大学でできるいくつかの取組についても提言されました。セミナー終了後は、参加者からの多くの質問に丁寧に答えていただきました。



2012.06.23-26

「アイネス男女共同参画ウィーク2012」に参加しました

6月23日(土)から26日(火)まで、大分県消費生活・男女共同参画プラザ(通称アイネス)で開催された「アイネス男女共同参画ウィーク2012」に、本学も昨年度に引き続き、一部行事に参加しました。

活動パネル展には、昨年度と同様にポスターによる参加、そして、24日(日)の映画講座第2部のトークセッションには、パネラーとして、医学部の森島真幸助教が登壇しました。

森島先生は、「なりたい自分をあきらめない」というサブタイトルのトークセッションで、県内で活躍する女性の消防士や大工棟梁とともに、女性が少ないという職場環境の中での家庭との両立の苦労や研究のやりがいなどを率直に語り、会場の参加者に感動を与えました。



2012.07.27

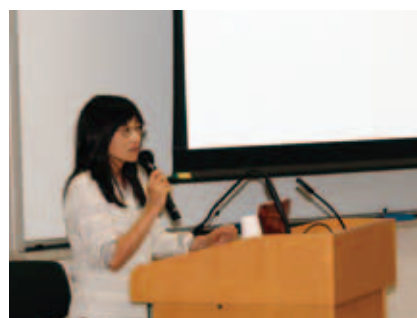
女性研究者によるサイエンスセミナーを開催しました

医学部看護学科棟211講義室において、本学を卒業した、(独)放射線医学総合研究所 研究基盤センター 研究基盤技術部室長の荒木 良子 氏を講師としてお招きし、「人工多能性幹細胞(iPS細胞)の医学応用に向けた基礎的研究 ～点突然変異と免疫原性～」と題して、サイエンスセミナーを開催しました。

このセミナーには、本学の教職員や学生以外に、科学系人材の育成を目指す「大分スーパーサイエンスコンソーシアム」の中心となって活動している大分舞鶴高校の生徒の皆さん25名も参加されましたが、セミナーの開始時刻まで、高校生から大学生へ勉学や学生生活について質問をするという形での交流の時間が持たれ、会場は和やかな雰囲気になりました。

セミナーでは、松浦室長によるサポート室の活動紹介の後、荒木氏が、ご自身が行っているiPS細胞の研究内容と現状について具体的な例をあげながら説明をされました。

iPS細胞の医学応用が期待されている中、安全性を今後基礎的研究で解明していかなければならないことなど、高校生にもわかりやすく説明され、研究とはどういうものか、研究の楽しさや厳しさを教えていただきました。



2012.08.08

「女性研究者と語ろう」を開催しました

大分大学オープンキャンパス開催当日、女性研究者サポート室は、旦野原および挾間キャンパスにおいて、「女性研究者と語ろう」を開催しました。

旦野原キャンパスでは、昨年度同様の教育福祉科学部、経済学部および工学部の女性教員に加え、工学部の女性大学院生も加わり、研究の魅力、大学で研究するという進路があることや自身の進路決定のきっかけなどについて語りました。

訪れた女子高校生の皆さんは、まだ大学卒業後までイメージ出来ない様子でしたが、先輩達の話に興味深く聞いた後、志望学部の教員に進路の相談をしたり、大学院生に大学生活での心構えなど聞くなど、女性の先輩ということで気兼ねなくいろいろな質問をしていました。

また、「女性教授の研究室を覗こう」も開催し、理系女子(リケジョ)に興味のある高校生が一二三恵美教授の研究室を訪れ、学生から研究内容の説明や研究の面白さについて話を聞き、顕微鏡で細胞を観察するなどの体験をしました。

挾間キャンパスでは、医学科と看護学科にそれぞれブースを設け、森島真幸助教、サポート室の松浦室長および丸山コーディネーターから、研究者という進路や研究の大切さ、仕事と家庭の両立、大分大学での女性研究者支援体制などについての説明を行いました。女子高校生だけでなく男子高校生や保護者の方にも興味をもって聞いていただきました。

アンケートでは「大分大学では研究者をサポートする体制があり興味が持てた」、「女性の研究者が少ないようなので、女性が働き続けていける環境をつくっていくことが大切だと思った」、「大学に残って研究するという進路もあることを初めて知った」などのコメントを頂きました。



2012.09.06-10

全学部長から「男女共同参画の推進」についてご意見を伺いました

井上工学部長との面談を皮切りに、大橋医学部長、市原経済学部長、柳井教育福祉科学部長を、松浦室長や各学部選出の推進委員会委員が各学部長室を訪ねて、学部での男女共同参画や女性研究者支援の推進の重要性について議論しました。

なお、学部における女性研究者支援の意気込みや課題、具体的な取組についての詳細は、News Letterに掲載しました。

あわせて、これから実施予定の在校生意識調査や各種行事等への協力をお願いしました。



工学部



経済学部



医学部



教育福祉科学部

2012.09.27

科研費申請に係る学部説明会でメンター制度について説明しました

松浦室長が、科研費申請に係る学部説明会(医学部)で、メンター制度の実施について説明を行いました。

本学の女性研究者が、研究と生活との調和を図りつつ、研究力を磨きキャリアを築き続けるために、より経験を積んだ先輩研究者に気軽に相談できる体制を提供することを通して、女性研究者の科研費等の採択率を向上させるとともに、本学全体の研究力及び競争力の向上を図ることを目的として実施します。

このように科研費獲得に特化したメンター制度は全国で唯一です。



2012.10.06

男女共同参画シンポジウムに松浦恵子室長が登壇しました

大分大学医学部祭関連行事として行われた「先輩と語ろう!!男女共同参画シンポジウム」(主催:大分県医師会男女共同参画委員会)のトークセッションに松浦室長が登壇しました。

松浦室長は、「先輩たちの歩む道へつづけるために」というテーマで、女性医師を取り巻く背景や就労継続が難しい現状、そのような現状を打開する具体的取組や大分大学女性研究者サポート室の取組み内容について話をしました。

また、平下有香先生(大分大学医学部総合診療部・消化器内科)、山末まり先生(同総合内科学第三講座・呼吸器内科)の御二方がゲストとして招かれ、先輩医師の立場から、ご自分の経験・現状について話されました。「家庭と仕事の両立はハードで悩みは尽きないが、医師という仕事にはやりがいがある」、「理解し、支えてくれる上司・同僚・家族への感謝は尽きない、それを少しでも恩返しできるよう、社会や大分の医療に貢献したい」ということを研修医や学生へのメッセージとして話されました。



2012.10.09

大分大学 男女共同参画公開セミナーを開催しました

大分大学男女共同参画公開セミナーを開催し、本学関係者、行政関係、一般市民の方など約100名が参加しました。

嘉目克彦理事による開会挨拶の後、松浦室長が大分大学における女性研究者支援事業についての説明を行いました。

続いて本学の女性研究者2名が発表を行いました。

平成23年度研究奨励賞の最優秀賞を受賞した荻野千砂子講師(教育福祉科学部)は、「琉球語に残る日本の古語」と題した発表を行いました。「琉球語は、現代日本では使われなくなった日本古語と、用語や文法における共通点が多く存在するため、さらに琉球語を研究することで日本古語の文法の解明に繋げたい」と述べられました。

平成24年度秋季国際学会派遣支援を受けた寺町芳子教授(医学部)は、「看護実践の質を高めるための研究へのチャレンジ」と題し、「インフォームドコンセントにおける患者・医師・看護師の協働モデル」を、ご自身の看護師としての経験を織り交ぜながら発表され、「医療の場面で三者が協働する必要性だけでなく、研究・教育をとおして、看護の質向上に貢献していきたい」と話されました。この発表は派遣支援により参加した国際学会で、ポスター賞を受賞されました。

「特別講演には、脳機能開発分野の第一人者である東北大学加齢医学研究所教授の川島隆太氏をお招きし、「脳を知り、脳を育み、脳を鍛える ～脳科学から見る男女共同参画の意義～」との題で講演していただきました。川島講師は、「生活習慣が脳の発達に影響する。男女ともにワークライフバランスを大事にすることは、未来に育つ子どもたちのきちんとした人生をつくることに繋がる」と、睡眠や朝食などの生活習慣が脳に与える影響と男女共同参画との関係について詳しく述べられました。



2012.10.18

女性枠研究奨励賞授賞式を行いました

学長室において第3回女性枠研究奨励賞授賞式が行われ、北野正剛学長より奨励賞受賞者に表彰状が授与されました。併せて、平成24年度春季および秋季学会派遣支援採択者に、決定通知書が渡されました。

北野学長は、出席者18名を前に、「今後、ますます研究活動に活躍し、大分大学を盛り立ててください」とあいさつされました。

今年度の研究奨励賞受賞者および学会派遣支援採択者数は次のとおりです。

第3回女性枠研究者奨励賞 9名(教員6名、大学院生3人)

平成24年度春季学会派遣 国内学会 4名

平成24年度秋季学会派遣 国際学会 3名 国内学会5名



2012.10.18

学長と女性研究者との懇談会を行いました

北野正剛学長と女性研究者(女性枠研究奨励賞等授賞式出席者)との懇談会が授賞式後に行われました。

初めに、出席者が自身の研究内容を説明し、北野学長が一人一人に向けてコメントされました。

次に出席者が、女性研究者の現状課題や支援に対する要望などについて述べました。現在行われている奨励賞・学会派遣支援や研究サポーター制度などの支援の来年度以降の継続や、病児保育の早期実現、院内保育園の定数増加などについての要望が出ました。

北野学長は、「皆さんの意見を参考にし、大分大学をあげて支援体制を整備していきたい。優秀な研究者が大分大学を目指し、研究活動が活性化されるよう頑張りたい」と話されました。



2012.10.18

第11回FAB交流会を行いました

女性研究者(女性粋研究奨励賞等授賞式出席者)と松浦室長によるFAB交流会を行いました。
キャンパス・学部等が異なり、普段中々交流することがない研究者同士で、質問や意見交換などを行いました。

出席者からは、「研究奨励賞や学会派遣支援はもとより、研究サポーター制度に本当に助けられた」、「サポーター制度で学会発表数が大幅に増え、成果を得た」という感謝の言葉や、「せっかくの支援制度を知らない人が多いので、更なる広報活動(研究室訪問等)を大学内で行ってほしい」という要望などをいただきました。

さらに、「支援を受けたことで成果を出すことが重要であり、そのことが女性研究者のみならず、大学全体の研究の活性化に繋がる」といった発言もあり、研究者の方の意欲を伺うことができました。



2012.11.20

「女性研究者研究活動支援事業 合同シンポジウム」に参加しました

文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業 合同シンポジウム」
—今後の女性研究者研究活動支援について—

平成24年11月20日 独立行政法人科学技術振興機構東京本部において、文部科学省主催のシンポジウムが開催され、大分大学から総務部総務企画課職員および松浦室長が参加しました。71大学・研究機関の女性研究者支援活動の代表者が集まり、ポスター発表、分科会、パネルディスカッションがありました。

午前中はポスター発表の後、6グループに分かれて、「成果の検証と課題解決のための模索」というテーマで、女性研究者数の増加策、研究業績の増加、女性リーダーの育成、課題と解決策、今後の方策について議論をたたかわせました。

午後、文部科学省担当者による女性研究者支援等の施策説明後、午前中のグループの座長による発表があり、さまざまな規模の大学ごとにもつ問題点や工夫している点、今後の方策について情報を共有しました。

パネルディスカッションでは、郷通子氏(大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事)、小館香椎子氏(JST経営企画部 男女共同参画主監)、後藤俊夫氏(中部大学 副学長)、渡辺美代子氏((株)東芝 イノベーション推進本部 参事)、板倉周一郎氏(文部科学省基盤政策課長)、山村康子氏(JST 科学技術システム改革事業 PO)により、総括的にそれぞれのテーマについての議論がおこなわれました。



2012.11.21

平成24年度後期教養科目で、男女共同参画の講義を行いました

全学共通科目「職業とキャリア開発」の講義には、中津市風の丘葬祭場管理運営グループで場長を務められている宮崎千代氏を講師に迎えました。

宮崎講師は、「男女ともに活躍できる場を開く為に ～2児の母である火葬場場長より～」という演題で、普段、馴染みのない火葬場での仕事内容や場長としての仕事への心構えなど、また、小学生の子ども2人の母親としての奮闘を率直に語ったうえで、約170名の学生に対し、自分を大切に生きてほしいというメッセージを贈りました。

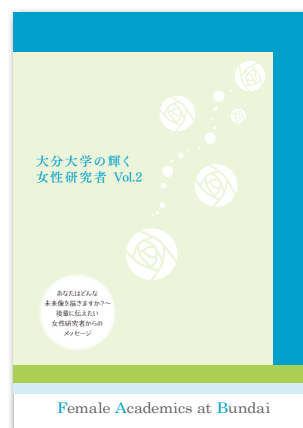
聴講した学生からは、仕事と家庭生活での気持ちの切り替えなどについて、積極的に質問が寄せられました。



2012.11.29

ロールモデル誌 「大分大学の輝く女性研究者Vol.2」を発行しました

ロールモデル誌の2冊目を発行いたしました。この冊子では、25人の女性研究者を紹介しています。1冊目とあわせると、大分大学の女性研究者を44人紹介できたことになります。



2012.12.15

「第4回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin大分」を開催しました

「つづけること、つながること 九州・沖縄の絆のちから ～研究者が能力を発揮して輝くために～」をメインテーマに、九州・沖縄の8国立大学法人の共催によるシンポジウムを大分市のホテルで開催しました。

主催者を代表して北野正剛大分大学長による開会挨拶、来賓紹介、そして来賓を代表して二日市具正大分県副知事にご挨拶をいただきました。

次に、斉藤尚樹文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長による基調講演が行われました。斉藤課長は、「女性研究者の現状と九州・沖縄地区大学への期待」と題して、国際比較による日本の女性研究者の現状を説明したうえで、今後の科学技術の発展に女性研究者の力が必須であること、そのために男性教員の意識改革や他大学のモデル事業を積極的に取り入れていくことを提案されました。

引き続いての特別講演では、大分県竹田市出身で現在は東京銀座で経営者として活躍中の白坂亜紀氏に「銀座のママから学ぶ人間力」と題して、ご講演いただきました。白坂氏は、仕事と家庭の両立が認められなかった職場風土の中で、両立のために経営者の道を選んだことなど、ご自分の経歴を踏まえながら、女性の能力はすばらしく、それを生かさない勿体ないこと、男性対女性という対立構図ではなく、お互いに補い合って活力ある地域をつくっていかねばならないと話されました。

休憩の15分間にサポート室が作成した広報用DVD(平成22年度作成)などをスクリーンに放映しました。

次に、松浦室長から大分大学の3年間の取組と今後の展望を紹介しました。広報用DVD第2弾となる「輝け、明日に！ 一大分大学女性研究者編」も放映されました。

その後、JSTの山村康子氏をコメンテーターに迎え、8大学の理事・副学長・学長特別補佐によるパネルディスカッションを行いました。「女性研究者支援を『続ける』ために必要なこと」をテーマに、各大学の取組を紹介しながら、課題等について率直に意見を出し合いました。

最後に「大分宣言」を採択して、シンポジウムを終了しました



北野学長

斉藤課長



白坂亜紀氏



パネルディスカッションの様子

『文部科学教育通信』に大分大学の女性研究者支援事業の紹介が掲載されました

地域社会で育む『輝く女性研究者支援』—大分大学での女性研究者支援事業—の題で、事業の背景、目的と体制、事業の内容、課題と展望について、4回シリーズで松浦恵子サポート室長がお伝えしました。

第1回「そのとき大分大学は？」

(『文部科学教育通信』ジアース教育新社 2012 August No.298 8月27日号)

第2回「知の拠点」をめざすためにできること」

(『文部科学教育通信』ジアース教育新社 2012 September No.300 9月24日号)

第3回「知ってもらうために」

(『文部科学教育通信』ジアース教育新社 2012 October No.302 10月22日号)

第4回「つながるために必要なこと」

(『文部科学教育通信』ジアース教育新社 2012 November No.304 11月26日号)



2013.01.09

大分市第2回男女共同参画推進関係団体懇談会に参加しました

大分市役所8階大会議室において平成24年度第2回男女共同参画推進関係団体懇談会が開催されました。

懇談会の中で、松浦室長が「大学における女性研究者支援の取組について」と題した講演を行い、大分大学における女性研究者の現状や、これまでの取組み支援活動について具体的に説明し、今後は地域貢献できる大学をめざして男女共同参画を推進し地域自治体・企業などと連携を深めていきたいと述べました。

参加された関係団体のみなさまからは、大分大学を含め地域一丸となってこの男女共同参画の推進に取り組んでいきたいという意見をいただきました。



2013.01.29

男女共同参画トップセミナーを開催しました

国立大学法人北海道大学の副理事で女性研究者支援室長の有賀早苗先生を講師にお招きし、トップセミナーを開催しました。

北海道大学は、文部科学省の補助事業である「女性研究者支援モデル育成」事業を平成18年度に採択された、いわば、本事業の第1期校であり、現在は「女性研究者養成システム改革加速」事業の採択を得て、女性研究者の増員等に取り組んでおられます。

有賀先生は、平成18年度の事業採択当初から、女性研究者支援室長として活動されており、そのパワフルな活躍は、全国的にも傑出されています。

当日は、北野学長以下全理事、全学部長、そして、女性研究者サポート室推進委員会委員の出席も得て、学長挨拶の後、講師の具体的な活動に基づいた講演「大学における男女共同参画、なぜ必要？何が必要？」を聴講しました。

講師は、最後に、北海道大学女性研究者支援室のノベルティを参加者全員に提供し、事業を推進するためにはいろいろなアイデアも必要と述べられるとともに、男女共同参画に関する取組の推進について、役職者の理解を求めました。



2013.02.07

次世代育成のための特別講演会を開催しました

大分県立大分舞鶴高等学校平成24年度スーパーサイエンスハイスクール(SSH)成果発表会が3部構成で行われました(大分文化会館大ホールにて)。

第2部は、大分大学主催で、学長挨拶の後、女性宇宙飛行士の山崎直子氏をお迎えし、「宇宙、人、夢をつなぐ～未来へはばたく皆さんへ～」をテーマに特別講演会を開催しました。

山崎氏は、天体に興味を持った幼少時代のことや、宇宙飛行士と認定されてからの厳しい訓練のこと、実際に滞在した宇宙ステーションでの生活についてなど様々な内容を講演されました。

宇宙飛行士として、実際に宇宙に行くまでには11年間という時間がかかりましたが、「宇宙に行けることを信じて、毎日訓練を重ねました。何事も日々の積み重ねが大事です。」と、話されました。

質疑応答の時間では、山崎氏は壇上から降りて高校生と向かい合いながらお話していただきました。高校生からは「宇宙をはじめに見たときの感想は？宇宙人はいると思いますか？」など様々な質問があり、山崎氏からは、「宇宙人はいてほしい。地球は生きていると思いました。」など神秘的な話を聞くことができました。

講演後、高校生からは「目標をもって努力を続けることの素晴らしさを聞けてよかった」との感想があり大変有意義な講演会となりました。



付 録



ニュースレター創刊に あたり



学長メッセージ

大分大学における女性研究者支援体制の
スタートにあたって

大分大学 学長 羽野 忠

このたび、平成22年度文部科学省科学技術振興調整費(女性研究者支援モデル育成)に申請していました「地域社会で育む『輝く女性研究者』支援」が採択され、本学における女性研究者支援体制がスタートすることとなりました。申請書作成にあたられた全学WGの皆様、心より感謝申し上げます。

申すまでもないことですが、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現は、21世紀の我が国における最

重要課題です。しかるに本学における共同参画の実現、とりわけ女性研究者を取り巻く状況は、十分とは言えません。たとえば、大学院生に占める女性比率は25.9%、学部学生に占める比率は39%とそれなりに高いにもかかわらず、教員に占める女性比率は15.6%と低く、早急な改善が求められています。

本学は今回のプロジェクト採択を機に、男女共同参画推進本部を設置するとともに、そのもとに女性研究者サポート室を設置しました。また「大分大学男女共同参画推進宣言」を定め、男女共同参画社会の実現に向けて、具体的な行動計画を推進することとしました。すなわち、男女共同参画推進体制の拡充、教育・研究・就業の場における男女共同参画の推進、家庭生活と教育・研究・就業との両立支援、大学運営における意思決定への男女共同参画の推進、および地域社会との連携を通じた男女共同参画の推進に取り組みます。これらの改革は一朝一夕に成しとげられるものではありません。女性研究者サポート室の皆さんはじめ全学の力を結集して、早期の実現を図りたいと思います。どうぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。



室長メッセージ

女性研究者サポート室長 松浦 恵子

平成22年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に、大分大学の「地域社会で育む『輝く女性研究者』支援」が採択されたことにより、平成22年年7月26日に大分大学女性研究者サポート室が設置されました。また同じ時期に大分大学男女共同参画推進本部も設置され、大分大学で女性研究者を支援する事業が始まりました。男女共同参画とは何か、なぜ女性研究者支援が必要か、どんな支援がどのキャリアパスに必要なか、研究者としてキャリアアップするためには何が必要か、これから皆様とともに知恵を絞り、さまざまな情報を共有していきたいと思ひます。

大分大学女性研究者サポート室“FAB”では、“fabulous(すばらしい)”な女性研究者を育むために、4つの柱を掲げました。1. キャリアサポートとして、研究を支援し、女性研究者比率の上昇を目指します。2. 環境サポートとして、育児や研究環境を整えていくお手伝いをします。3. 情報サポートとして、広報活動のほか、啓発活動や情報交換につとめます。4. 地域連携サポートとして、地域との連携をはかります。これら4つの柱のもと、学部の垣根を越えて、女性研究者の育成のため、さらには女性だけでなく男性も、大分大学での研究が発展し、輝ける研究者として発信できることを目指していきたいと考えております。大分大学女性研究者サポート室“FAB”は、これから皆様とともに歩み始めます。どうぞあたたかいご指導とご支援を賜りますようお願いいたします。

女性研究者 サポート室 “FAB” とは

大分大学の現状

大分大学は4学部(教育福祉科学部、経済学部、医学部、工学部)および5大学院研究科(教育学研究科、経済学研究科、医学系研究科、工学研究科、福祉社会科学研究科)から構成されています。平成22年5月現在、学部学生のうち女子学生の比率は39%を占めていますが、修士・博士課程での女子学生の比率は25.9%となり、女性教員においては15.6%を占めるにすぎない状況です。

この原因を探るため、平成22年2月に女性研究者を対象に「女性研究者支援に関するアンケート調査」を実施したところ、すべての回答者が女性研究者に対する研究環境整備及びキャリアアップ支援が必要だと記入しています。特に必要な支援として、環境整備では、男女を問わない育児・介護休暇取得の促進や勤務体制の柔軟化、また、研究支援に関しては、研究補助員の雇用や研究中断後の助成を求めています。

開室の背景

平成22年度の文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に、「地域社会で育む『輝く女性研究者』支援」が採択されたことを受けて、大分大学男女共同参画推進本部を設置するとともに、室長には本学で初めて女性の学長特別補佐を任命し、女性研究者支援の取組みに本格的に着手しました。

サポート室の目的

全学部を対象とし、研究環境の整備や意識改革など、女性研究者が研究と出産・育児等の両立や、その能力を十分発揮しつつ研究活動を行える仕組みを構築することを目的とします。

名称FABについて

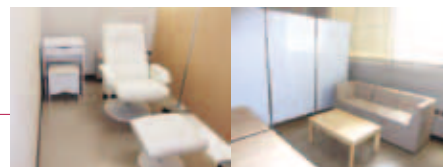
“FAB”とは Female Academics at Bundai です。Bundaiは、大分大学の略称“分大”のことです。また、“FAB”はfabulous(すばらしい)のダブルネーミングです。

旦野原キャンパスおよび挾間キャンパス 休憩室&相談室 開室に向けて

旦野原キャンパスおよび挾間キャンパス内において、『休憩室&相談室』の開室準備中です。開室は平成23年1月を予定しています。

休憩室は、勤務中の体調不良や妊娠・産後等で気分のすぐれない方にご利用いただけます。また、搾乳等もご利用可能です。利用方法等詳細につきましては後日ホームページでご案内いたします。

さらに 研究活動を進めていく上での不安や悩み等を相談できるような相談室の体制を整えていく予定です。



▲旦野原キャンパス



▲挾間キャンパス

サポート室の業務

目的を実現するために、以下の業務を行います。

- (1) 研究助成やロールモデル誌の作成
- (2) 多様なニーズに合わせたキャリアパス支援
- (3) 男女協力体制における仕事と育児等の両立支援
- (4) 地域と連携した男女共同参画社会に向けた啓発活動
- (5) 女性研究者の増員促進と管理職への登用の促進

将来目標

男女を問わない
快適な教育研究環境の整備

活動目標

- (1) 女性教員の比率を20%に引き上げる。
- (2) 修士および博士課程学生の女性比率を35%以上にする。
- (3) 挟間キャンパスの「なかよし保育園」において、病児保育を実現する。
- (4) 旦野原キャンパスでニーズを調査し、要望があれば保育園設置のための基盤整備を行う。
- (5) 女性研究者の研究をサポートする研究補助員を配置する。
- (6) 学長裁量経費に女性枠を設け、優れた研究に対して研究費を配分する。
- (7) 毎年、女性研究者10名程度に海外での学会活動、共同研究活動を支援する。
- (8) 「女性研究者サポート室」を設置する(平成22年7月設置)
- (9) 女性研究者データベースを構築する。

活動の紹介

女性研究者サポート室では、主に右図に示す4つの柱において活動し、本学における女性研究者の支援・育成・発展を目指しています。

キャリアサポート

- 研究支援
研究補助員の雇用、メンター制度導入
- 研究活動支援
研究費補助事業の実施、女性研究者賞の実施
- ポジティブアクション
管理職への積極登用促進

支援内容

環境サポート

- 育児支援
育児相談の実施、病児保育の整備
- 研究環境整備
両キャンパスでの休憩室・相談室の整備

サポート4つの柱

情報サポート

- データベース整備
女性研究者データベース作成、アンケート実施
- 広報活動
ホームページ開設、広報誌発行
- リクルート
オープンキャンパス、高校生出前講座
学生進路相談会
- 啓発活動、情報交換
シンポジウム、講演会の開催

地域連携サポート

- 地域研究コンソーシアム大分
- 地域医療学センター
- 県内企業
- 大分県消費生活-男女共同参画プラザ等

女性研究者サポート室スタッフ

協力教員

荻野 千砂子	教育福祉科学部	講師
河野 伸子	教育福祉科学部	講師
安岡 正義	経済学部	教授
雲 和子	経済学部	准教授
井上 亮	医学部	教授
前田 知己	医学部	准教授
石川 雄一	工学部	教授
園井 千音	工学部	准教授
高島 拓哉	福祉社会科学部	准教授
守山 正胤	全学研究推進機構	教授
一二三 恵美	全学研究推進機構 (室長指名女性教員)	教授

女性研究者サポート室

松浦 恵子	室長 学長特別補佐 (女性研究者支援担当) 医学部 准教授
安岡 正義	副室長 経済学部 教授
安見 美代子	副室長
奥村 千晶	室員
岡本 幸恵	室員



▲女性研究者サポート室スタッフ

ホームページを開設しました

学内の研究者・職員・学生等の皆様へ、女性研究者支援に関する情報提供を行うためにホームページを11月22日に開設しました。本サイトでは女性研究者のワーク支援やライフ支援につながる情報を掲載していく予定です。ぜひ当HPにお越しください。

URL: <http://www.fab.oita-u.ac.jp>



キックオフ・シンポジウム開催のお知らせ ～地域で育む『輝く女性研究者』支援～

平成22年度、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に大分大学の「地域社会で育む『輝く女性研究者』支援」が採択されたことにあたり、キックオフ・シンポジウムを開催することとなりました。

文部科学省生涯学習政策局長 板東 久美子 氏を特別講師として、お招きし、『地域における男女共同参画の推進について』を講演していただきます。このシンポジウムにより、男女共同参画推進への理解をより深めていただけるものと思います。ぜひ皆様の参加をお待ちしております。

日 時 平成22年12月16日(木)
13:30～16:30 (入場無料 託児あり)

会 場 全日空ホテル 孔雀の間

特別講演 『地域における男女共同参画の推進について』

講 師 板東 久美子 氏(文部科学省生涯学習政策局長)



ミニトピックス

オープンキャンパスで サポート室の紹介をしました

平成22年8月4日、大分大学旦野原キャンパスと挾間キャンパスでオープンキャンパスが開かれました。

両キャンパスで、「めざせ、大分発信の輝く女性研究者！」というタイトルのポスター展示をしました。

大分大学では初めての試みでしたが、

「女性研究者を身近に感じた」

「わかりやすいお話を現場の先生に聞くことができた」

「女性の問題、社会問題などを知ることができた」

と、笑顔の女子高校生の声を聞くことができました。



編集後記

まだまだ残暑が厳しい時期にはじめたホームページ開設作業ですが、冬の気配を感じる11月末になってようやくオープンさせることが出来ました。ニュースレター創刊号も発行し、次はキックオフシンポジウム開催です。シンポジウムの様子は第2号で詳しく紹介します。

FABのロゴとバラのマークについて

「女性らしさ、元気を感じられるデザインにしました」

《デザイン》
大分大学 事務局研究協力課 明石 百夏

大分大学 女性研究者サポート室

News Letter

編集・発行元 / 発行日 2010.12月

国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 “FAB” Female academics at Bundai
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 TEL(097)554-8573 FAX(097)554-6039
E-mail:fsupport@ad.oita-u.ac.jp http://www.fab.oita-u.ac.jp

Female academics at Bundai FAB

理事ご挨拶・活動報告	1
なぜ、いま女性研究者支援なのか？	2・3
自己啓発セミナーのお知らせ	2
大分大学の輝く女性研究者紹介	4

国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室“FAB” E-mail fsupport@oita-u.ac.jp URL <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>



理事ご挨拶

大分大学女性研究者支援事業へのメッセージ

藤岡 利生 理事 (医療・研究担当)

私と本学の女性研究者サポート室との係わりは、平成21年9月に宮崎大学で開催された「第1回九州アイランド女性研究者支援シンポジウム」への参加に始まりました。この会で、すでに九州地区の多くの大学で「女性研究者支援モデル育成事業」が具体的かつ熱心に取り組まれていることに大きな刺激を受けました。News Letter 創刊号で羽野学長や松浦室長から紹介されているように、平成22年度の文部科学省科学技術振興調整費の採択により、本学に女性研究者サポート室(Female academics at Bundai ; FAB)が設置され、平成22年12月にはキックオフシンポジウムが盛況のうちに開催されました。

間もなく年度が改まり、将来の「輝く女性研究者」へのポ

テンシャルを持った新入学生を迎えようとしています。本事業の申請に熱心に取り組んで頂きましたワーキンググループの各位に心より感謝致します。

サポート室は大きく4つの事業(1. キャリアサポート 2. 環境サポート 3. 情報サポート 4. 地域連携サポート)を柱として運営される予定であり、この度はキャリアサポート事業の一環として研究奨励賞3件および学会参加賞3件が決定され、表彰式が挙行されました。受賞されました先生方には心よりお祝いを申し上げますと共に今後の益々のご活躍を期待します。また、上記の4事業の順調な展開を心よりお慶び申し上げます。

また、本サポート室の立ち上げを機に、学内に「男女共同参画推進本部」が設置され、「推進宣言」が定められました。このように、本サポート室が今後の大分大学の男女共同参画の推進に大きく貢献されることを心より願っています。

シンポジウム報告

大分大学は、平成22年12月16日に大分全日空ホテルオアシスタワーにおいて、「女性研究者支援育成キックオフ・シンポジウム～地域で育む『輝く女性研究者』支援～」を開催し、県内自治体、NPO、本学関係者、他大学関係者等、約160名が参加しました。はじめに、羽野忠学長の挨拶に続き、広瀬勝貞大分県知事(代読：二日市具正副知事)の来賓挨拶がありました。次いで板東久美子氏(文部科学省生涯学習政策局長)が「地域における男女共同参画の推進について」と題し、特別講演をされました。



▲板東局長

引き続き、「女性研究者支援モデル育成」事業の紹介として、塩満典子氏((独)科学技術振興機構科学技術振興調整費業務室長)による「事業の背景と現在の取り組み状況」、松浦恵子大分大学女性研究者サポート室長による「大分大学の取り組みについて」のプレゼンテーションがありました。次に、松浦恵子室長による進行の下、梅木利枝氏(大分県消費生活・男女共同参画プラザ所長)、前田明大分大学理事(総務担当)、塩満典子氏の3名のパネラーによるパネルディスカッションが行われました。

最後に、藤岡利生理事(医療・研究担当)が閉会の挨拶を述べ、有意義なキックオフ・シンポジウムを締めくくりました。



▲塩満室長

表彰式

女性研究者奨励賞の表彰および学会参加費助成の通知を行いました。

平成23年1月12日に本学 学長室において、羽野忠学長より女性研究者奨励賞の表彰式および学会参加費助成通知書の授与式が行われました。

この賞は、女性研究者に奨励賞や学会参加費を授与することにより、女性研究者の研究の質や意識の向上を目的とするもので、平成22年度公募において、奨励賞には8件、学会参加費には5件の応募がありました。

奨励賞は、最優秀賞を、医学部の中川幹子診療教授が、優秀賞を、工学部の和泉志津恵准教授および全学研究推進機構の福田昌子助教がそれぞれ受賞しました。

また、学会参加費は、工学部の和泉志津恵准教授、医学部の江崎かおり医員および全学研究推進機構の酒井久美子助教への助成が通知されました。

表彰式の後、羽野学長を囲んで今後の抱負や女性研究者支援への期待について意見が交わされました。



▲懇談会



▲記念撮影

なぜ、いま女性研究者支援なのか？

女性研究者支援、その背景

天然資源の乏しい日本が国際社会の中で生き抜いていくためには、「人的資源」を元にした創造的で活力ある経済的發展を目指していかなければなりません。また、少子高齢化が急速に進展し、労働力人口減少が進む中において、社会保障制度を維持・向上させるためには、女性をはじめとする多様多様な人材を活用することによって、経済を活性化していくことが重要です。

科学・技術分野においても、多様多様な個々人が意欲と能力を発揮できる環境を形成することが重要であり、女性研究者がその能力を存分に発揮でき、評価されることは、男女共同参画の観点のもとより、日本が今後国際社会を生き抜いていくために不可欠です。そのためにも、女性研究者も男性研究者と同様に活躍できる状況でなければなりません。

国際社会における日本の現状

しかしながら日本における現状は、研究者数に占める女性の割合が欧米諸国に比べて低い状況にあります。研究者総数に占める女性の割合は13%と、調査対象国の中では最下位です(図1)。

また内閣府「男女共同参画白書」資料によると、大学の分野別の女性教員の割合は、分野によって差はあるものの、全分野において、職階が上がるほど女性教員の割合が低くなっています。特に理工系は女性教員の割合そのものが低い状況です(図2)。

(図1) 研究者に占める女性割合の国際比較



(出展) 内閣府 男女共同参画白書 平成22年版 図表第1部第8章

(図2) 大学教員における分野別女性割合



(出展) 内閣府 男女共同参画白書 平成22年版 図表第1部第8章

自己啓発セミナー

「アサーティブな
コミュニケーションスキルを学ぼう」
開催のお知らせ!!

本セミナーでは自分自身を振り返りながら、より良い人間関係づくりのためのコミュニケーションスキル(聴く、話す)を学びます。

アサーティブとは、

- ◆一人ひとりが自分を大切にする
 - ◆自分の権利も相手の権利も尊重できる
 - ◆多様な価値観の人と対等な関係を築ける
- …そんなコミュニケーション能力です。

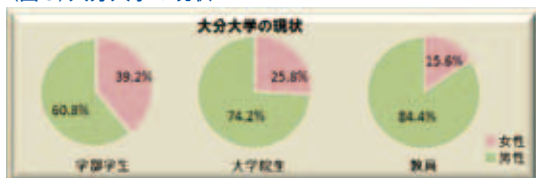
- 講師** 特定非営利法人
アサーティブジャパン代表理事
森田 汐生 氏
- 日時** 平成23年3月17日(木)
13:30~15:30
- 場所** 旦野原キャンパス 事務局棟 第2会議室
(募集人員40名程度)
狭間キャンパス(映像配信)多目的会議室
(募集人員10名程度)
- 対象** 全教職員・全学生
- 申込み** 女性研究者サポート室まで
(電話、ファックス、Eメールで)



大分大学の現状

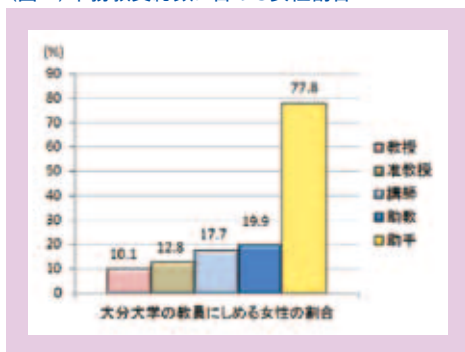
平成22年5月時点の本学の学部、大学院における女性割合は、学部学生39.2%、大学院生25.8%、教員で15.6%となっています(図3)。また、本学の教員に占める女性割合(図4)は、全国の教員総数におけるその割合(図5)と比べると、上位の職階が低くなっています。

(図3) 大分大学の現状



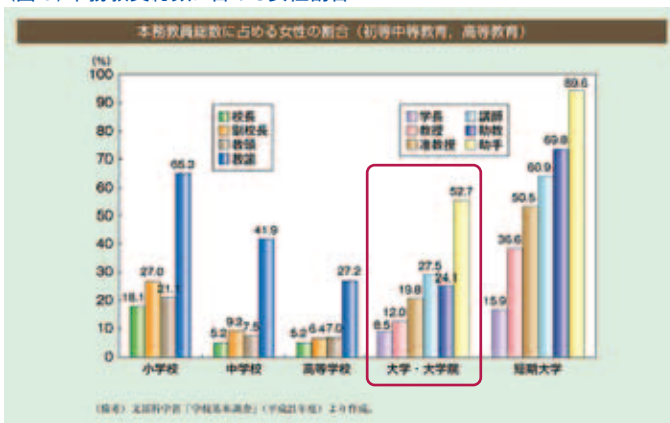
「国立大学法人 大分大学パフォーマンスレポート2010」より作成

(図4) 本務教員総数に占める女性割合



「国立大学法人 大分大学パフォーマンスレポート2010」より作成

(図5) 本務教員総数に占める女性割合



(出展) 内閣府 男女共同参画白書 平成22年版 図表第1部第8章

大分大学の目指すところ

女性教員の比率を20%に引き上げる。

修士および博士課程学生の女性比率を35%以上にする。

“研究者”って誰のこと?

いろいろな定義があります。
大学の教員、公的研究機関や企業の研究員、博物館の学芸員、大学の研究生や博士課程の学生まで含む場合があります。
文部科学省では「大学の課程を修了した者で特定の研究テーマを持って研究している者をいう」と定義されています(注1)。

注1: 研究者は、「大学(短期大学を除く。)の課程を修了した者(又はこれと同等以上の専門知識を有する者)で、特定の研究テーマを持って研究している者をいう」(文部科学省 平成19年版科学技術白書第2部第2章第1節)と定義されています。

研究者とは、



“研究”ってどういうことをするの?

ある物事について、実験、観察、調査、分析などを通して詳しく調べたり、深く考えたりして事実や真理を明らかにすることです。

“研究者”って白衣で実験している人だけじゃないのね?

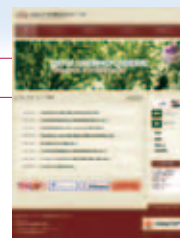
そうです。フラスコや試験管を振っている人だけが研究者ではないのです。
文系、理系問いません。研究成果は論文にまとめて発表しています。

女性研究者サポート室では、上記定義による「研究者」だけでなく、女性である、教員、大学院生、研究に関わる技術職員、研究補助員、看護師等すべての職員を支援すべき対象と考えています。(個々の支援内容によってその対象者を限定する場合があります)

■ホームページをリニューアルしました

サポート室のホームページをリニューアルしました。

- ブログを始めました(トップ画面からご覧ください)。
名前はFABログです。サポート室メンバーが交代でいろいろなことを綴っていきます。
- サポート室の日々の活動記録を載せています。メニュー「FABについて」からご覧ください。
- 休憩室の閉室日をお知らせします(トップ画面をご覧ください)。



URL: <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

大分大学の輝く女性研究者(1)

Female Academics at Bundai

大分大学で研究に取り組んでいる女性は現在284名(教員90名、大学院生191名)(平成22年5月現在)です。でも実際の研究者がどのような研究生活を送っているか意外と知られていません。このコーナーでは大分大学で活躍する女性研究者を紹介していきます。第1回目は、平成22年度女性研究者奨励賞受賞者のうち、医学部および工学部から1名ずつ紹介します。



医学部 臨床検査診断学
診療教授 中川幹子さん

【略歴】

北九州市生まれ。熊本大学医学部卒業後、大学及び関連病院勤務を経て、S58年に大分へ。大分医科大学(現大分大学)内科第一及び臨床検査医学講座・検査部に勤務。

取材日 平成23年1月26日

仕事の内容は?

仕事の配分としては、診療50%、教育20%、研究20%、その他10%の比率です。循環器内科が専門で、診療は循環器系生理検査を主体に女性外来も担当しています。研究では不整脈や心電現象に関する臨床研究を行っています。

後輩へのアドバイスは?

人生の一時期に、何らかの研究に携わってみましょう。将来、研究者の道に進まなくても、研究の過程で学んだ事は、必ず貴重な財産になると思います。

ワークライフバランスについて

仕事と家庭をうまく両立させるために、どちらも100%の完璧をめざさなくても良いという考えでやってきました。ただし、オンオフのメリハリをつけ、仕事の時は集中して密度濃くやるようにしています。家庭では手抜きだらけですが、必要最低限のことを短時間で効率良くこなすように努めています。また同僚や家族に助けてもらうことも多いと思いますが、感謝の気持ちを言葉に出して伝えることを心掛けています。

進路決定のきっかけは?

私の場合は、仕事の主体が研究というわけではありませんが、日常診療の中で疑問に感じたことや不思議に思ったことを調べていくうちに、いろいろな発見があり、研究が楽しくなりました。具体的にいうと、不整脈や心臓の電気生理学的現象における性差、特に性ホルモンの役割についてです。幸運にも自分の興味ある研究テーマに巡り合えたこと、自分のいる職場環境が研究の遂行に最適だったことが、研究を続けられた最大の要因だと思います。

研究の魅力は?

自分の予想通りの研究結果が出れば嬉しいのは当然ですが、予想外の結果が出た時に、その理由を探っていく過程で、さらに新しい重要な事実を発見することがあります。私の場合は臨床研究ですので、その成果や研究の過程で習得した知識を、直接診療に役立てることが出来る場合もあり、少しでも医学の役に立っていると考えると、益々モチベーションが上がります。



工学部
知能情報システム工学科
准教授 和泉志津恵さん

【略歴】

山口県下関生まれ。米国ワシントン大学大学院修士課程修了、広島大学大学院医学系研究科博士課程修了。研究所及び大学での勤務を経て、平成17年に大分大学工学部へ赴任、現在に至る。

取材日 平成23年2月14日

仕事の内容は?

教育では、学部生と大学院生の統計関連科目を担当しています。研究内容は、交通事故データの統計的解析、分子疫学研究における統計的手法の開発、発がん数理機構モデルの検証、統計教育の方法論を含みます。日本計量生物学会の理事、大分県交通安全協会の評議員などの社会活動も行っています。

後輩へのアドバイスは?

研究を始めるきっかけは、ちょっとした好奇心からかもしれません。何か興味があることを見つけたら、まず一歩前へ進んでみましょう。一歩進めばさらに次の一歩が見えてくるような気がします。あなたも、科学の謎解きに参加してみませんか。

ワークライフバランスについて

家族を含めた周りの人たちが私の仕事を理解し応援してくれることに、いつも感謝しています。研究に夢中になると、家族のことが後回しになりがちかもしれません。家族と過ごす時間を大切に、自分と家族の健康を上手に管理することが、ワークライフバランスをとるうえで一番のカギだと思います。

進路決定のきっかけは?

社会において実用できる知識を学びたい思いから、学部では数理統計学の研究室を希望しました。卒業後に就職した研究所において、放射線影響を調査するプロジェクトに加わり、統計ソフトウェアのプログラミングを学び、上司やスタッフとの英会話に奮闘しました。その後、より高度な知識を活かした仕事がしたいと思い、休職して生物統計学の専門教育を受けました。目の前にある課題をひとつひとつ完了していくうちに、あまり迷うことなく、進路を素直に決めました。熱中できる研究やすばらしい国内外の共同研究者にめぐり会えたことに、とても感謝しています。

研究の魅力は?

統計科学は、科研費では総合領域の情報学に含まれ、工学など他の分野に広く応用できる学術分野です。観察研究や実験研究におけるデータを活用するために、統計的な道具を創り出し、新たな科学的証拠を見つけ出すことに、やりがいや魅力を感じています。

■編集後記

ニュースレターNo.2発行にあたり、どのような情報を発信すれば女性研究者支援を理解してもらえるかを考え、まずは日本そして大分大学の現状を知ってもらうことにしました。

また、大分大学の各学部、各研究科の女性研究者を毎号紹介していきたいと思います。

大分大学 女性研究者サポート室

News Letter

編集・発行元 / 発行日 2011.3月

国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 “FAB” Female academics at Bundai
〒870-1192 大分県大分市大字旦原700番地 TEL(097)554-8573 FAX(097)554-6039
E-mail:fsupport@oita-u.ac.jp http://www.fab.oita-u.ac.jp/

Female academics at Bundai FAB

男女共同参画セミナーを開催しました

平成23年6月8日(木)に工学部男女共同参画セミナー(工学部第1会議室)および大分大学男女共同参画セミナー(事務局棟第2会議室)を開催しました。

男女共同参画推進の取組みで先行する熊本大学の、前理事・副学長(人事・労務・男女共同参画等担当)である森光昭 氏(現:同大学名誉教授)を両セミナー講師としてお迎えし、ご講演いただきました。

“工学部男女共同参画セミナー”では工学部教授会出席者約70名を対象に、松浦恵子 女性研究者サポート室長がサポート室の支援活動内容を紹介した後、『女性教員を増やす方策』の演題で、「男女共同参画社会基本法や第3期科学技術基本計画の内容に触れながら、今や男女共同参画の推進は、大学の業務実績の評価対象にも組み込まれていること」を説明され、熊本大学での具体的な取組み内容についてお話いただきました。

“大分大学男女共同参画セミナー”では管理職員中心に約40名を対象に、『熊本大学の男女共同参画推進の取組み』の演題で講演されました。講演では、「男女共同参画や女性研究者支援を推進するために全学的推進体制の確立やコーディネーター制度を創設したこと、意識改革・制度改革・保育支援・チャレンジ支援の具体的活動の説明および採択事業終了後の継続策」などについてお話いただきました。



意識啓発

自己啓発セミナー『アサーティブなコミュニケーションスキルを学ぼう』を開催しました

平成23年3月17日(木)、自己啓発セミナー「アサーティブなコミュニケーションスキルを学ぼう」を開催しました。講師として、NPO法人アサーティブジャパン代表理事の森田夕生 氏をお招きし、参加者全員による実践や代表者によるロールプレイを交えながら、2時間のセミナーを行いました。

講演では、「自分の気持ちに誠実になり、相手にも誠実に気持ちを表現することなど、アサーティブなコミュニケーションを実践するための重要なポイントを、講師の体験談を織り交ぜながらお話いただきました。

* 本セミナーを収録したDVDを貸出します。



『医学部新入生を対象とした男女共同参画教育』が行われました

大分大学では、平成22年10月に男女共同参画行動計画が策定されました。その行動計画に掲げられた「男女共同参画に関する教育の推進」の最初の取組みとして、平成23年4月7日に医学部新入生(医学科101名、看護学科70名)を対象に男女共同参画教育が行われ、教育福祉学部 山岸治男 教授は、ご自身の経験やエピソードを織り交ぜながら、「男女共同参画を基にして、今後のキャリア形成・ライフコースの形成を図っていくことが大切である」と話をされました。

参加した新入生からは、「自分で納得のいく、自分の創った人生を歩んでいきたいと思った」や「今後の人生設計の参考になった」など多くの感想や意見を頂きました。



特集

出産・育児に係る勤務時間、休日、休暇についてご存じですか？

大分大学では教職員が出産・育児の際に利用できるさまざまな制度があります。

男性教職員が利用できる制度も多くあります。

いろいろな休暇を使いこなし、仕事と生活の調和を図りましょう。

適用条件等は大分大学の就業規則等をご覧ください。

不明な点などがあれば総務部人事課にお問い合わせください。



	妊娠	産前休暇開始	出産	産後休暇終了	こども1歳	3歳	小学校就学
女性教職員		産前休暇(特別休暇)	産後休暇(特別休暇)		育児休業 無給		
					育児部分休業 無給		
	保健指導または健康診査 (職務専念義務免除)						
	通勤緩和、休憩・補食 (職務専念義務免除)						
	休日勤務の免除						
	時間外勤務の免除						
	深夜勤務の免除						
	危険有害業務免除						
	業務軽減						
					授乳時間(特別休暇)		
男性教職員					託児所送迎(特別休暇)		
					子の看護・予防接種・健康診断(特別休暇)		
				育児休業 無給			
				育児部分休業 無給			
				時間外勤務の免除			
				時間外勤務の制限			
				深夜勤務の免除			
			配偶者出産休暇 (特別休暇)				
				託児所送迎(特別休暇)			
				子の看護・予防接種・健康診断(特別休暇)			

枠内は育児休業の取得期間外に適用されます。

枠内は育児休業の取得期間外に適用されます。

三二情報

裁量労働制適用者は、勤務日の一部について勤務しない場合は休暇の手続きは必要なく、終日勤務しない場合のみ休暇の手続きが必要になります。

参照

国立大学法人大分大学職員就業規則(平成16年4月1日制定)

国立大学法人大分大学に勤務する職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規程(平成16年4月1日制定)

国立大学法人大分大学職員の育児休業等に関する規程(平成16年4月1日制定)

第1回 FABキャリア交流会を開催しました。

～女性研究者サポート室では、企業や研究の現場で現在活躍されている先輩方を招いて、ご自身のキャリアなどについて語っていただき、気軽に意見交換を行える“FABキャリア交流会”を企画します。さまざまなキャリアをお持ちの方々の仕事への姿勢や考え方に触れることで、参加された方が自身のキャリア形成を考えるきっかけを掴み、スキルアップできるような会にしていきます～

第1回目は、(株)白石中央研究所事務課の當真瑞代さんと工学部の堤紀子先生を囲み、総勢32名(学生22名)で昼食をとりながらの開催となりました。

當真さんはご自身の経歴を述べられる中で、人生の岐路で何を考え、何を選択してきたか、どのような働き方をしてきたかについてお話いただきました。

工学部の堤先生は、研究者の道を選んだ経緯や女性研究者として心がけていることなど、学生へのアドバイスを織り込みながら話をされました。

参加した学生のアンケートからは、自分の進路を考える新たな視点を持てたことやスキルアップを図ることの必要性を感じたとの感想が寄せられました。

(平成23年7月1日 11時30分から13時 工学部事務棟3階第3会議室)



情報交換

FAB交流会を開催しました

学内の女性研究者のネットワーク構築の一環として、他学部・他学科の女性教員との交流を目的に5月20日に第1回目の“FAB交流会”を開催しました。

今回は教育福祉科学部の教員2名、経済学部の教員2名、医学部教員1名およびサポート室スタッフ3名が参加し、昼食をとりながら情報交換を行いました。

これまで、同じ学部の女性教員でもあまり交流がなく、他の学部にはいったてはどのような女性教員がいるのかさえ知らないという状況でした。

今回のような交流会を開催するによって、女性研究者(女性教員および女子大学院生)の学部・研究科を超えたネットワークを構築するとともに、情報交換の中で女性研究者の悩みや問題、要望などを把握することで、今後の活動に役立てていきます。



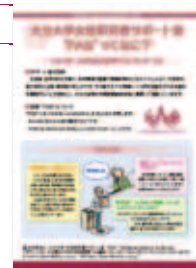
■おしらせ

●新スタッフの紹介

協力教員として山崎栄一准教授(教育福祉科学部)が、室員として丸山あや(看護師・コーディネーター)が新たに加わりました。

●サポート室“FAB”の紹介リーフレットができました。

サポート室ホームページの右側メニュー「発行物」からダウンロードできます。



「女性研究者と語ろう」開催(平成23年8月10日)

大分大学オープンキャンパスの開催に合わせ、女性研究者サポート室“FAB”では女性研究者との懇談や研究室見学等の行事を行います。

巨野原キャンパス

教養教育棟 1階 多目的スペース(入退室自由)

- 「女性研究者と語ろう」開催 (11:00～14:00)
- 女性研究者サポート室の紹介 (9:30～15:30)

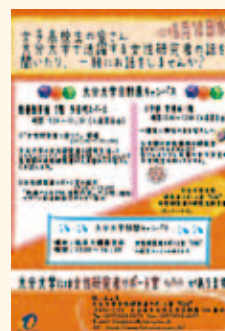
工学部管理棟1階(入退室自由)

- 工学系の女性教授の研究室を見学できます (12:00～13:00)

挾間キャンパス

臨床大講義室前

- 女性研究者サポート室“FAB”の紹介コーナーを設けます(13:00～16:00)



大分大学の輝く女性研究者(2)

Female Academics at Bundai

大分大学で研究に取り組んでいる女性は現在263名(教員90名、大学院生173名)(平成23年5月1日現在)です。でも実際の研究者がどのような研究生生活を送っているか意外と知られていません。このコーナーでは大分大学で活躍する女性研究者を紹介していきます。第2回目は、教育福祉科学部 鄭敬娥 准教授と経済学部 本谷るり 准教授を紹介します。



教育福祉科学部
社会認識教育講座
准教授 鄭 敬娥さん
じょん きょんあ

【略歴】

韓国光州市生まれ。九州大学大学院比較社会文化研究科博士課程修了。2003年大分大学教育福祉科学部着任。現在に至る。

仕事の内容は?

国際関係論、なかでも東アジア地域主義や日本の対アジア外交を研究しています。教育では、政治学や国際関係論を中心に今日の日本と国際社会を分析する枠組みを提示しながら、皆さんと楽しく議論できるような工夫を重ねる毎日です。

進路決定のきっかけは?

ジャーナリストを目指して大学新聞社などで活動するうち、自分の専門分野を持つ必要性を痛感しました。ときは、韓国民主主義運動の最中、政治学の道に進むことに迷いはありませんでした。昔も今も、大学での就職は難しいといわれる分野ですが、何とか周りの方々のおかげで研究を続けることができました。

研究の魅力は?

膨大な数の外交文書や先行研究の分析など、地味な仕事の連続ですが、昨日まで知らなかった事実が分かってくたり、その点と点を結んで自分なりの論理が展開できたときは、やはり喜びを感じます。

後輩へのアドバイスは?

研究への魅力を感じていても、就職などへの不安から別の道を選ぶ人をたくさん見てきました。特に社会科学系は、大学院まで行ってしまうと、その先の道は狭くなる一方。しかし、今のご時世、どこに進もうとリスクはつきもの。半分、諦めてしまえば案外楽になったりするものです。しばらく人並みの生活は置いておいて、自分のテーマにとことん向き合ひましょう。その先に道はきっと広がります。もし広がらなかったら…。その時はその時で、それまでやったことを活かす道を考えましょう。多少回り道になるかもしれませんが、道は続くことでしょう。

ワークライフバランスについて

特にバランスを意識しながら生活するわけではありませんが、週末はなるべく散歩をしたり映画を観るなど、仕事以外の自分の時間を大切にしています。



経済学部
経営システム学科
准教授 本谷 るりさん

【略歴】

石川県生まれ。九州大学大学院経済学研究科博士後期課程を単位取得退学し、1999年大分大学経済学部へ赴任。専門は経営組織論。

仕事の内容は?

経営システム学科で専門科目としては組織論(科目名は組織革新論)を、その他ゼミや教養教育科目なども担当しています。自身の研究では、設立からの歴史が長い長寿企業や老舗企業の組織について研究しています。

進路決定のきっかけは?

学部2年次にゼミを決定する際に、ある先生がとても楽しそうに講義をしている姿や講義内容に興味をおぼえ、その先生のゼミに所属し大学院進学を決めました。また、家族が自営業を営んでいたことも経営学を学ぼうと思ったきっかけになったように思います。大学院生の頃は就職するのか大学で研究職に就くのか、の選択でさんざん迷いましたが、やはり研究することの楽しさに惹かれました。

後輩へのアドバイスは?

私自身、ふとした疑問や不思議に思うことが、気になったことなどを、大切にしようという心がけています。何でもよいようなことから研究の芽が出てくるような気がするのです。そして、当たり前と思っていることは本当にそうなのか、ということを確認することが研究の第一歩ではないかと考えています。

研究の魅力は?

企業にしるそれ以外の組織体にしる、複数の人がいて成り立っています。組織もまた個性を持ち、それぞれに違います。組織を研究していると、まるで生き物のように感じられることがあります。一体どうなっているのだろうかという興味はつきません。実際に経営に携わる方々からお話を伺ったり組織で働く様子を見学させていただいたりして組織というもの、その有り様を考える時、そのことを言葉に表現できた時などに、充実感や楽しさ、やりがいを感じます。

ワークライフバランスについて

没頭するとそれ以外は見えなくなってしまうことがあるので、何事にもメリハリをつけて取り組むようにしています。そして何をするにしても健康でなければならないと感じるようになってきました。健康維持や体力を落とさないようにすることもこれからの課題と思っています。

■編集後記

本格的な夏を迎え、“節電、いかに快適に乗り切るか”がこの夏最大の関心事ではないでしょうか?大分大学事務局棟では緑のカーテンが成長し、涼しげな影を落としています。さて平成22年度に活動を開始したサポート室ですが、今年度も女性研究者支援の意義やサポート室の活動内容をさらに多くの人に理解していただくような取り組みを積極的に行っていきます。

大分大学 女性研究者サポート室

News Letter

編集・発行元 / 発行日 2011年7月

国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 “FAB” Female academics at Bundai
〒870-1192 大分県大分市大字旦原700番地 TEL(097)554-8573 FAX(097)554-6039
E-mail:fsupport@oita-u.ac.jp http://www.fab.oita-u.ac.jp/

Female academics at Bundai FAB



新学長ご挨拶

北野 正剛 学長

10月から学長に就任しました北野正剛です。男女共同参画推進本部長として、本学の重要課題の一つである男女共同参画社会の実現に向け携わって参ります。

大分大学は、他国立大学等と比べ具体的な取組みは遅れ、平成22年度文部科学省科学技術振興調整費(女性研究者支援モデル育成)「地域社会で育む『輝く女性研究者』支援」に申請・採択されたことを機に、同年7月大分大学女性研究者サポート室と大分大学男女共同参画推進本部が設置されました。そして、同年10月大分大学男女共同参画推進宣言がなされ、男女共同参画行動計画が策定されました。これらに基づき、女性研究者サポート室FABと男女共同参画推進本部との連携により、教育・研究・就業の場における男女共同参画

の推進、家庭生活と教育・研究・就業との両立支援、大学運営における意志決定への男女共同参画の推進、地域社会との連携を通じた男女共同参画の推進、啓発活動と教育研究の推進等に取り組んでいます。現在、内閣府による第3次男女共同参画基本計画に「科学技術・学術分野における男女共同参画」が重点分野と位置づけられ、文部科学省による第4期科学技術基本計画に科学技術を担う人材の育成として、女性研究者の活躍を促進することがあげられました。

大分大学では、地域社会における「知の拠点」としての役割を果たしつつ、有為な人材の育成と教育研究の発展を目指し、国際的競争力をもった研究者を育てるためにも、男女共同参画と女性研究者支援のさらなる充実を大学一丸となって推進し、女性・男性にかかわらず活躍できるような環境づくりと意識改革につとめていきます。

11月から『研究サポーター事業』を始めます

研究サポーター事業について

この事業は、育児(妊娠中を含む)・介護に携わる研究者に対し、研究補助業務に従事する研究サポーターを配置することで、研究者のワーク・ライフ・バランスを支援し、研究活動の活性化を促進することを目的とします。なお、女性研究者に限らず、男性研究者も対象とします。

研究サポーター事業概要

研究補助を希望するもの(利用者)

(利用資格)

- ・妊娠中(産休中を除く)
- ・小学校6年生までの児童を養育している者
- ・家族に要介護者または要看護者がいる者

②研究サポーター利用申請

女性研究者サポート室

人材データバンク

③利用が決定した場合

研究サポーター(サポート室付)を利用者のもとへ派遣

①登録

研究サポーターの取扱いについて

【研究サポーターの業務】

研究活動に必要な実験補助、研究データ分析、統計処理、資料作成、文献調査等の研究補助

【支援期間】

当該年度6ヵ月以内、月72時間以内、週20時間以内

【勤務時間】

利用者の勤務中に、利用者の指示のもと業務を行う。

研究サポーターになることを希望するもの

- ・本学の在学生
- ・卒業生
- ・外部の希望者

詳細は女性研究者サポート室のホームページでお知らせします。 URL: <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

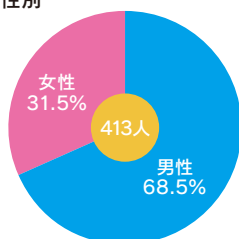
特集 女性研究者を増やすには ～研究者の意識調査より～

女性研究者サポート室“FAB”では、平成23年2月に大分大学に在籍する教員および職員(研究に直接携わる技術系職員)823人と大学院生676人の計1499人を対象に、「国立大学法人大分大学における『女性研究者支援モデル育成』事業に係る研究者の意識調査」と題した女性研究者支援をメインテーマに、男女共同参画や両立支援に関する意識調査を行いました。結果として、教職員の38.0%(313人)、大学院生の14.8%(100人)から回答をいただきました(調査期間が大学院生の卒業式、授業休講期間と重なったため大学院生からの回収率が非常に低い結果となりました)。

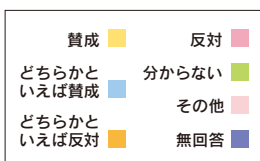
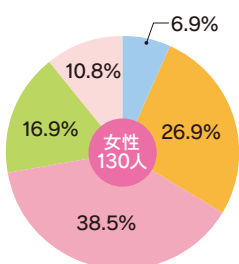
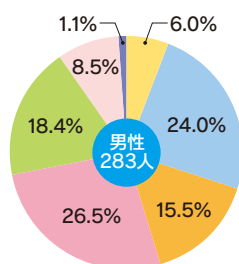
今回は、『女性研究者を増やすには』どうすればよいと思うか、大分大学の研究者の意見を紹介します。

■回答したのはどのような人たち?

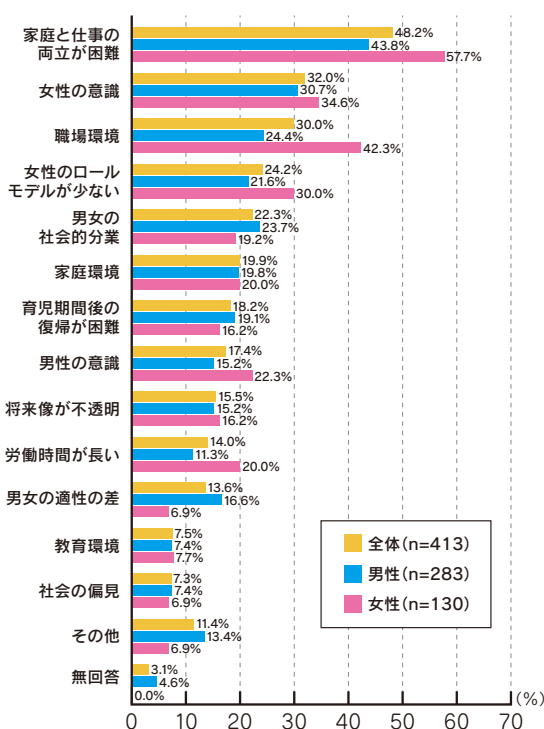
◇性別



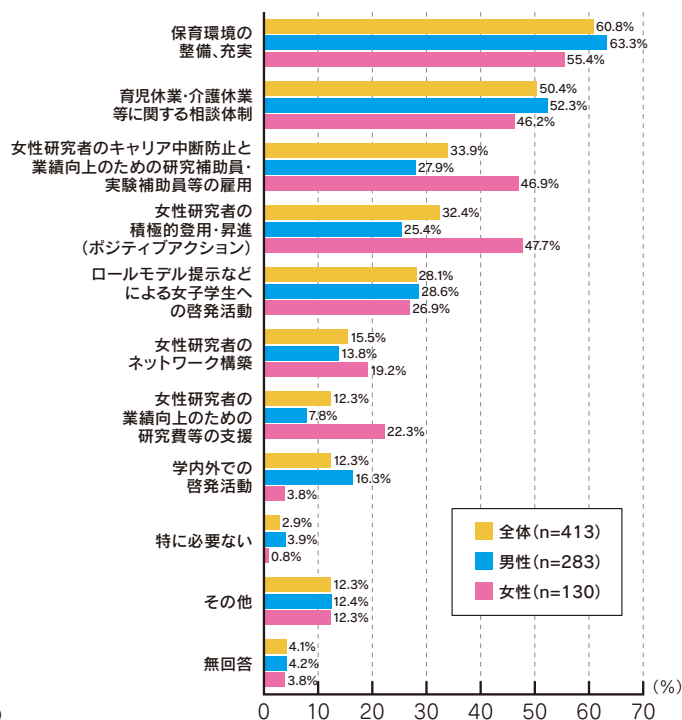
■夫は外で働き妻は家庭を守るべきだと思いますか?



■大分大学においてどうして女性研究者が少ないと思いますか? (複数回答)



■女性研究者を増やすためには何が必要だと思いますか? (複数回答)



大分大学において女性研究者の比率が少ない理由としては、「家庭と仕事の両立が困難」、「女性の意識」、「職場環境」などが男女とも上位にあります。女性では「家庭の仕事の両立が困難」と「職場環境」をあげる割合が男性よりもかなり高くなっています。

女性研究者を増やすために必要なこととしては、男女とも「保育環境の整備、充実」や「育児休業・介護休業等に関する相談体制」が多くなっていますが、女性では「女性研究者のキャリア中断防止と業績向上のための研究補助員・実験補助員等の雇用」や「女性研究者の積極的登用・昇進(ポジティブアクション)」をあげる人も多くなっています。

自由な回答を求めた『女性が研究を続けていく上での問題点やサポートを必要とする点』、『女性研究者サポート室の活動について』および『大分大学の男女共同参画の推進について』の設問ではさまざまな意見が寄せられました。詳細は、冊子体『平成22年度研究者の意識調査報告書』をご覧ください。

(サポート室ホームページ【URL: <http://www.fab.oita-u.ac.jp>】のメニュー『発行物』からもPDFをダウンロードできます)

情報交換 FAB交流会 “学内の女性研究者のネットワーク構築のために”

第2回目(教員&研究者の卵)

全学研究推進機構の一二三教授、教室員1名、大学院3名、学部学生5名および松浦恵子女性研究者サポート室長の計11名の女性研究者が参加し、昼食をとりながら情報交換を行いました(9月16日)。

特に、学会発表のスキルアップの重要性や、研究者として大学に残ること、博士課程に進むこと、研究と育児等との両立をすることなどについて話しました。



第3回目(両キャンパスの教職員&大学院生)

女性研究者奨励賞授賞式に出席した女性研究者と松浦室長による“FAB交流会”を行いました(9月20日)。

授賞式での学長を前にしての緊張した面持ちとは異なり、同じ研究者同士リラックスした様子で、他の研究者へ質問するなど情報交換しました。



第4回目(医学科&看護学科)

9月20日の奨励賞授与式に参加できなかった医学部所属の女性研究者への松浦室長からの奨励賞と学会参加通知書の授与式に合わせ、医学部では初めての“FAB交流会”を6名で行いました(9月27日)。交流会では、普段なかなか接する機会がない医学科と看護学科所属の研究者が情報交換を行い、それぞれの研究内容やワークライフバランスについて、また研究と臨床や教育との両立や将来のキャリアについて意見交換を行いました。



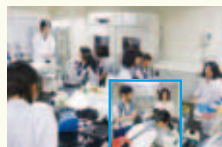
次世代育成のための活動 「女性研究者と語ろう」を開催しました

8月10日のオープンキャンパス当日、旦野原キャンパスで「女性研究者と語ろう」および「女性教授の研究室を覗こう」を開催しました。また挟間キャンパスでは、医学科と看護学科で女性研究者サポート室紹介コーナーを設けました。「女性研究者と語ろう」では、サポート室活動紹介動画の視聴後、教育福祉科学部、経済学部、工学部の女性研究者と語り合いました。

女性研究者は、自身が研究者になったきっかけや、研究の楽しさ、ワークライフバランス等について語り、女子高校生からは進路目標に対してどう歩んでいくべきかなどといった具体的な質問が寄せられました。

また、「女性教授の研究室を覗こう」では全学研究推進機構の一二三恵美教授の研究室を多くの女子高校生が訪れました。研究室所属の学生や大学院生から研究内容の説明や研究のおもしろさについて話を聞き、顕微鏡で細胞を観察するなどの体験をしました。

挟間キャンパスの医学科紹介コーナーでは、松浦室長が多くの女子高校生を前に、医学研究の大切さや大分大学における女性研究者支援体制について説明しました。また看護学科でも丸山サポート室コーディネーターが看護学研究の大切さなどについて説明を行いました。



研究活動支援

女性研究者奨励賞授賞式を行いました

9月20日、学長室において第2回女性研究者奨励賞授賞式が行われ、学長より奨励賞受賞者に表彰状が授与されました。併せて平成23年度春季および秋季の学会派遣支援の採択者には採択決定の通知書が渡されました。

学長は出席者12名を前に、「大学は意欲ある女性研究者を応援するために、奨励賞と学会派遣の支援を行なっています。積極的にこのような賞に応募していただくことは喜ばしいことです。今後これを機にますます活躍してください」とあいさつされました。授賞式の後、出席者と学長との懇談会が行われました。



■今年度の奨励賞受賞者および学会派遣支援採択者数は次のとおりです。

第2回女性研究者奨励賞	6名(教員4名、大学院生2名)
平成23年度春季学会派遣	国際学会 3名、国内学会 1名
平成23年度秋季学会派遣	国際学会 3名、国内学会 8名



意識啓発

大分大学医学部セミナー「女性医療人のキャリア継続のために」を開催しました



7月15日(金)、医学部臨床中講義室にて「女性医療人のキャリア継続のために」を開催しました。

九州大学大学院医学研究院 保健学部 榎木 晶子教授を講師としてお招きし、同大学で取り組まれている、「九州大学病院きらめきプロジェクト」について、大分大学医学部の教職員及び大学院生・学生を含めた約40名を対象にご講演いただきました。

九州大学では、平成19年度に女性医療人のキャリア継続、復職を目的とした文部科学省の支援事業に採択され、3年間の取り組みを経て、事業終了後は九州大学病院の自己予算で事業の継続を行っており、それらの具体的な取り組みや現状についてお話ししていただきました。

経済学部1年生を対象に男女共同参画教育を行いました

経済学部では、新入生319人を対象に、基礎演習共通プログラムを実施しています。これは、経済学部に入学者として、当然知っておくべき基礎知識を学習させるもので、今回は「大学生の今から「男女共同参画」を自覚しよう」というテーマで、7月20日(水)に実施され、教育福祉科学部の山岸治男教授が講師を務めました。



大分大学の輝く女性研究者(3)

Female Academics at Bundai

大分大学で研究に取り組んでいる女性は現在263名(教員90名、大学院生173名)(平成23年5月1日現在)です。でも実際の研究者がどのような研究生生活を送っているか意外と知られていません。このコーナーでは大分大学で活躍する女性研究者を紹介していきます。第3回目は、医学部法医学講座の岸田哲子 教授と医学部看護学科の井手知恵子 教授を紹介します。



医学部
法医学講座
教授 岸田 哲子さん

【略歴】

神戸市生まれ。大阪医科大学卒業後、3箇月の大阪府監察医事務所勤務を経て、昭和55年に大分医科大学(現大分大学医学部)法医学講座着任。現在に至る。

仕事の内容は?

大学教員の仕事は教育、実務(私の場合は解剖や鑑定)、研究の三つですが、年々実務の比重が増え、研究時間を脅かすようになったのは困ったものです。教室開設以来、血液型の研究を続け、現在のテーマはDNA 多型の実務的応用(親子鑑定等)です。

進路決定のきっかけは?

医師になりたいという抽象的な希望が、岩波新書の「法医学の話」(古畑種基著、絶版)に出会ったことで、ぜひ医学部で法医学を学びたいという具体的な希望に変わりました。学生時代は病理学か法医学か迷ったこともありましたが、最終的に遠い九州の地で新しい教室を作るという夢に惹かれ、こちらに赴任しました。

研究の魅力は?

法医学の研究は「何をどう検出するか?」に尽きます。自分で工夫した方法が実際の鑑定—たとえば混合試料からのDNA型判定—に応用できたとき、法医学をやっているよかったですと感じます。

後輩へのアドバイスは?

研究は難しい特別なことではありません。ふとした疑問や気になる事象を明らかにしてみたい、そんな好奇心から始まります。初めは失敗ばかりだった実験がおもしろくて時間を忘れるようになったら、あなたはもう立派な研究者です。独り立ちして前に進んでいきましょう。

ワークライフバランスについて

もともと朝型人間なので、できるだけ仕事の重心を一日の前半に持ってくるよう心がけています。司法解剖のため休日出勤も稀ではないので、休めるときに休み、生活にメリハリをつけるのが大切と思っています。



医学部
看護学科
教授 井手知恵子さん

【略歴】

千葉大学看護学部卒業後、同大学院修士課程を修了し、東京・北海道で保健師として勤務。短大専攻科(保健師教育)の教員、大学院博士課程を経て、平成9年から大分医科大学(現大分大学)に赴任、現在に至る。

仕事の内容は?

学部・修士課程で、地域看護学関連の6科目の他、家族看護学、看護コンサルテーション論、看護研究等を担当。地域看護活動のうち特に保健所・市町村保健師の活動方法や活動体制、保健師の現任教職、地域看護管理、地域看護学・家族看護学の教育方法に関する研究などを手がけています。

進路決定のきっかけは?

修士課程修了後、保健師として楽しくやりがいをもって看護活動をしていました。そこで実習指導を担当した際、自分たちの実践から学生が学び感動する様子をみていて、同じように多くの後輩たちに伝えられると期待して、看護教育にたずさわりました。しかし、実習指導で実践そのものを伝えている立場と異なり、基礎教育では理論を精選し、かつ実践と結びつけ発展させる能力が必要で、実証に基づく説明性を示すために必然的に研究能力を高める必要に迫られました。

研究の魅力は?

看護の実践で経験的に曖昧になされていることを理論的に整理して実証して、それによって看護の質の向上につながる手ごたえが魅力だと感じています。看護の奥深さを追究するやりがいと、人々に役立つよさがあると思います。

後輩へのアドバイスは?

看護学の研究者を目指すには、まず看護そのものにきちんと向き合うことが大事です。実践をとおして疑問や証明したいことを考え、実践家としての力もつけて、社会に貢献する看護学の発展を考えてほしいと思います。

ワークライフバランスについて

仕事と家庭・自分の趣味・時間の使い方やメリハリ、家族の協力、周囲のサポート、「良い加減」を考え「ころあい」をみる...いろいろありますが、どれも自分にとって大事だということを忘れずに、その時々状況に応じてバランスをとってほしいと思います。

■編集後記

前号は青々としたゴーヤを眺めながらの編集作業でしたが、すでに枯れ葉が舞い落ちる季節となりました。さて、平成23年11月からサポート室の新たな支援活動「研究サポーター事業」がスタートします。この事業が研究活動の活性化に役立つことを期待します。



大分大学 女性研究者サポート室

News Letter

編集・発行元 / 発行日 2011年10月
国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 “FAB” Female academics at Bundai
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 TEL(097)554-8573 FAX(097)554-6039
E-mail:fsupport@oita-u.ac.jp http://www.fab.oita-u.ac.jp/

Female academics at Bundai FAB



理事ご挨拶 男女共同参画と本学の使命の達成

嘉目 克彦 理事(総務担当)

本学では、平成22年度より文部科学省科学技術振興調整費による「女性研究者支援モデル育成事業」として「地域社会で育む『輝く女性研究者支援』」プログラムがスタートし、同年7月に開設された大分大学女性研究者サポート室を中心に各種の支援活動が鋭意進められています。スタッフを陣頭指揮する室長、松浦学長補佐の熱意とエネルギッシュな行動力でこのプログラムが今後着実に進捗することは確実です。もとより本プログラムは大学における幅広い男女共同参画推進事業の主要な一環として推進すべきもので、他にも例えば大学運営における意思決定や地域との

連携活動における男女共同参画、あるいは男女共同参画に関する啓発活動なども重要であり、またこうした各種の事業を推進する実施体制の整備も不可欠です。平成22年10月に制定・発表した男女共同参画推進宣言と行動計画において、本学はこうした課題を明記し、その達成に対する決意を国民に向けて表明しました。大分大学憲章で謳われた本学の基本理念と目標及び運営方針はいずれも男女共同参画の基盤を前提とするものであることを、遅まきながら高らかに宣言したのです。同時に設置された学長を本部長とする大分大学男女共同参画推進本部の方針を踏まえ、本学のすべての構成員が、この決意を胸にわれわれのミッションの達成に向けて今後の一層の努力を続けることを願ってやみません。

「1月19日」大分大学男女共同参画公開講座 『女性研究者の活躍とワークライフバランス』を開催しました

大分全日空ホテルにおいて、大分大学男女共同参画公開講座「女性研究者の活躍とワークライフバランス」を開催し、県内の自治体や団体、本学および他大学関係者、一般市民が参加しました。

松浦恵子女性研究者サポート室長による、大分大学の女性研究者支援事業についての説明の後、中川幹子診療教授(医学部)と都甲由紀子講師(教育福祉科学部)が、奨励賞等受賞の対象となった研究について発表を行いました。

特別講演では、国際ジャーナリスト・キャスターであり明治大学国際日本学部教授・学部長でもある蟹瀬誠一氏が「幸せはワークライフバランスから」と題し、講演されました。蟹瀬氏は、夫婦で働きながら子育てした経験を織り交ぜながら、「育児」ではなく「育自」、「共働き」ではなく「共育て」と、視点を変えて言葉を捉えることで人間は意識や考え方が変わる。言葉は非常に重要であると強調されました。



特集 介護に係る勤務時間、休業についてご存知ですか？

大分大学では、要介護状態にある家族を介護する職員が利用できる制度に以下のものがあります。

【要介護状態とは】

負傷、疾病または身体上若しくは精神上の障害により、2週間以上にわたり常時介護を必要とする状態

「介護休業」

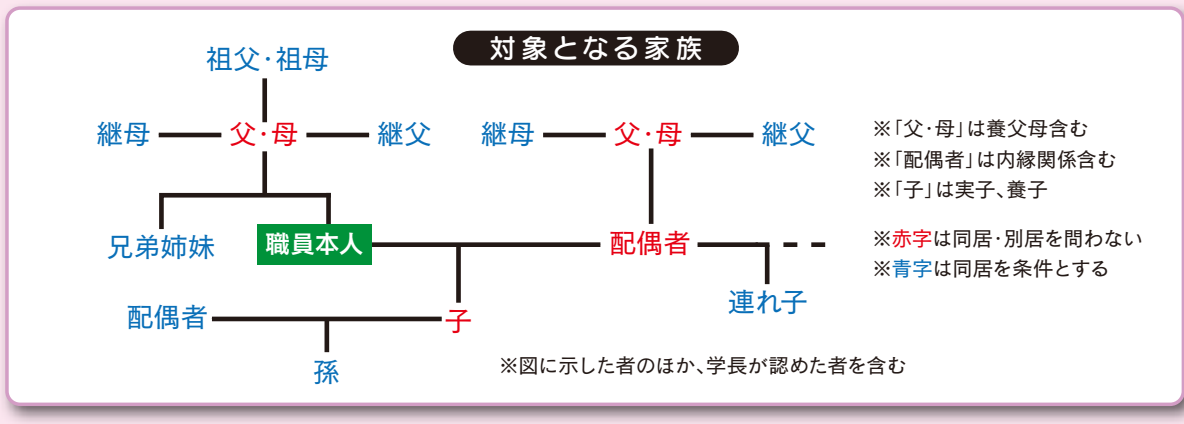
期間は対象家族一人につき、一の介護状態に至るごとに1回、連続する186日の範囲内(当該対象家族に対し、介護部分休業取得者はそれと通算して186日まで)。

「介護部分休業」

連続した4時間の範囲内で1時間単位で取る休業である。期間は、対象家族一人につき、一の介護状態に至るごとに1回、連続する186日の範囲内(当該対象家族に対し、介護休業取得者はそれと通算して186日まで)

「時間外勤務の制限」 1月について24時間、1年について150時間までの制限

「深夜勤務の制限」 午後10時から翌日午前5時までの勤務の制限

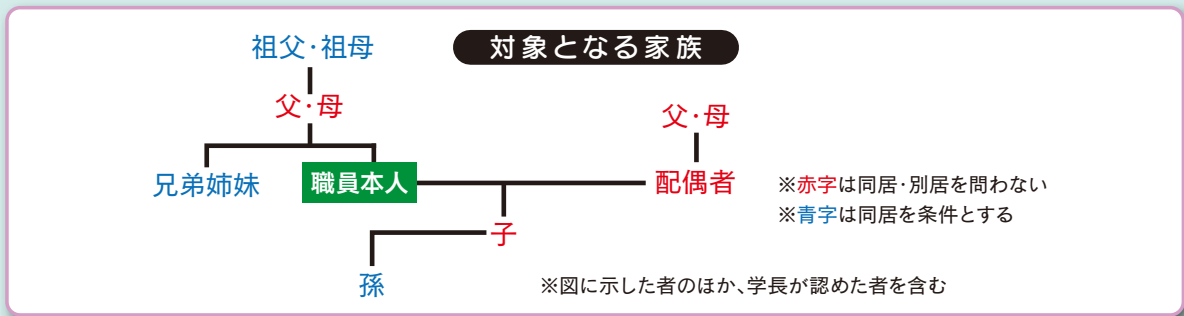


「特別休暇」

介護、通院等の付き添い、介護サービスの提供を受けるために必要な手続きの代行その他の必要な世話を行う場合にとる休暇である。

【休暇期間】

要介護状態にある家族が、
 1人の場合：一の年において5日の範囲内の期間
 2人以上の場合：一の年において10日の範囲内の期間



詳細については大分大学の就業規則等をご覧ください。
 不明な点があれば総務部人事課までお問い合わせください。

※ここに挙げた制度は、大分大学常勤教職員に係るものです。
 非常勤職員については就業規則等をご覧ください。

参照

国立大学法人大分大学職員就業規則(平成16年4月1日制定)

国立大学法人大分大学職員の介護休業等に関する規程(平成16年4月1日制定)

国立大学法人大分大学に勤務する職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規程(平成16年4月1日制定)

国立大学法人大分大学職員の育児又は介護を行う職員の時間外勤務の免除および制限に関する規程(平成16年4月1日制定)

国立大学法人大分大学職員の育児又は介護を行う職員の深夜勤務の制限に関する規程(平成16年4月1日制定)

意識啓発

「12月6日」男女共同参画トップセミナーを開催しました



管理職を対象に、長崎大学の大井久美子 副学長・男女共同参画推進センター長による「男女共同参画のすすめ―推進する力とたちはだかる壁―」と題した講演が行われました。

長崎大学は平成21年度に文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択されており、大井氏は最終年度となる今年度までの活動を総括して話されました。事業推進体制の構築やポジティブアクションの策定、さらにはテクニカルスタッフ雇用制度や育児支援等の具体的な活動に触れながら、活動の成果やいまだ残る課題について詳しく説明していただき、立ちをはだかる壁に対しいかに推し進めていったかということを力強く述べられました。

「1月11日」経済学部での第2回目学部別セミナーを行いました

経済学部の教員を対象に学部別セミナーを開催、講師として、大分労働局の松永涼子雇用均等室長をお迎えし、「ポジティブアクションのすすめ」と題してご講演いただきました。

松永室長は、ポジティブアクションの必要性や企業の取組み状況について説明された上で、他大学での取組みを紹介し、本学でも積極的な取組みが行われることを期待していると述べられました。



「1月18日」教育福祉科学部で女性研究者支援に関するセミナーを開催しました



教育福祉科学部の教員を対象に女性研究者支援に関するセミナーを開催し、松浦恵子女性研究者サポート室長が講師を務めました。

まず、日本における女性研究者の状況や女性研究者が少ない理由を説明しました。さらに、本学における女性研究者支援事業の背景には国の方針および当大学の掲げた目標があり、この支援事業によって女性研究者が活躍することは大学にとってプラスになると述べ、さらなる支援活動への協力を求めました。

「2月1日」教養教育科目で、男女共同参画の講義を行いました

全学共通科目「職業とキャリア開発」に、下郡恵美子キャリア・コンサルタントを講師に迎え、「少しずつ歩みよりの協働～未来志向の男女共同参画～」という題目で講義が行われました。

下郡氏は、約160名の全学年の学生を対象に、「おおいた若者サポートセンター」等での就職支援業務の経験を踏まえた具体的な内容で、これからの社会を背負う学生たちに、性別や世代にこだわらない生き方の重要性を訴えました。



情報交換 「12月6日」第2回FABキャリア交流会を開催しました

男女共同参画トップセミナーの後、講師の大井久美子 氏を囲んで、第2回FABキャリア交流会を開催しました。

長崎大学での女性研究者支援や男女共同参画推進の取組みを参考にしながら、大分大学でもどのように展開していけるかをメインテーマに話し合い、参加した理事や協力教員、大学院生が率直な感想を述べるなどして、有意義な交流会となりました。



キャリアアップ

【2月17日】

医学部臨床大講義室において、「英語論文の書き方セミナー」を開催しました。医学部の教職員と大学院生を中心に約40名が参加しました。

エダズグループジャパン(株)のWarren Raye講師が、「エディターからの英語論文に関するアドバイス」と題して、Session1、Session2、Workshopの項目に分けて、具体的かつ実践的な英語論文の書き方について説明を行いました。



INFORMATION

「1月24日」

ロールモデル誌「大分大学の輝く女性研究者」を発行しました

この冊子では、大分大学で活躍する女性研究者90名の中から、19人の方を紹介しています。

研究の内容や、進路選択のきっかけ、後輩へのメッセージなどを掲載しています。



大分大学の輝く女性研究者(4)

Female Academics at Bundai

大分大学で研究に取り組んでいる女性は現在263名(教員90名、大学院生173名)(平成23年5月1日現在)です。でも実際の研究者がどのような研究生生活を送っているか意外と知られていません。このコーナーでは大分大学で活躍する女性研究者を紹介していきます。第4回目は、教育福祉科学部の栗栖由美子 教授と経済学部松岡輝美 准教授を紹介します。



教育福祉科学部
教授 栗栖由美子さん

【略歴】

島根県出身。東京芸術大学音楽学部大学院後期博士課程修了。オランダ・スウェーリンク音楽院で2年間研鑽を積み、平成10年、大分大学教育学部へ赴任、現在に至る。

研究の内容は？

声楽、声種はソプラノです。バロック(1600～1750年頃)時代の歌唱法について研究しています。学部、大学院においては、声楽一般、合唱の授業を担当し、身体の構造に着目しながら、発声法を模索するとともに、声による表現の可能性を追求しています。

進路決定のきっかけは？

大学院入学直後、バロック時代の声楽作品を、オリジナル楽器で演奏するというプロジェクトに関わりました。その当時は、まだバロック・声楽に関しての資料や音源が少なく、研究途上の段階でしたが、プロジェクトで音楽監督を務めていらした先生の、バロック時代の文献をひも解きながら、その時代の音像を再現しようとする研究スタイルに魅了されました。

研究の魅力は？

バロック時代の声楽に関しては、楽器のような物として伝わる資料がないとともに、当時の歌唱技術の伝統が1度途切れてしまっているため、その歌唱技術を探るには、当時の文献に頼らざるをえません。文章は難解ですし、楽譜も、現代のようなト音記号で書かれているのではなく、作曲家の自筆譜や、判で押された楽譜のため、大変読みづらいのですが、埋もれた美しい作品を発見し、その音を再現することは、とても楽しいことです。

後輩へのアドバイスは？

「おおいに回り道をしなさい!」この言葉は、博士課程に入学して間もなく、指導教授であった音楽学の先生から頂いた言葉です。研究結果を早急に求めるのではなく、時間をかけて、様々なアプローチをする中から、答えを導き出していくことの大切さを学びました。研究者のみならず、どのような方向に進んでも、重要なことかと思えます。

ワークライフバランスについて

自分自身が歌い、声楽を指導するという立場上、年間を通じて風邪をひくことができません。日々、体調管理には気を付けています。まとまったお休みがいただけると、日本、海外を問わず、旅行に出かけますが、仕事で行き詰った時など、次の旅行のプランを立てて気分転換をしています。



経済学部
経営システム学科
准教授 松岡輝美さん

【略歴】

1988年3月に西南学院大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得満期退学、同年4月から岡山商科大学商学部にて財務管理論・オフィスオートメーション論・演習を担当し、2000年から大分大学経済学部経営システム学科所属。

研究の内容は？

学部・大学院共に経営情報論を担当しています。ICT(情報通信技術)を活用した企業経営の分析と現実的で実効的なモデルを構築することを目的に研究しています。

進路決定のきっかけは？

学部時代に教授に大学院に進学しないかと何度か勧誘を受けました。いったんは就職しましたが、就職後も勧誘を受け、自分でも改めてもっと勉強したいと言う思いが湧き、マスターに入学しました。マスター修了後は外資系企業の研究所に再就職しようと考えていましたが、教授にドクターに進学してはとさらに勧誘を受け、とうとう5年間大学院で勉強することになりました。

研究の魅力は？

自分の心をピュアにして、観察し、思考分析し、創意工夫するクリエイティブなプロセスが魅力です。「人生で苦しい時ほどたくさん勉強しなさい。学問はうらぎらないから。」という言葉は主任教授からいただき、その通りだと思っています。人生でいろんな困難に遭遇しましたが、心身が疲れきっているときも、研究活動が理性や倫理や知的好奇心や創造力を呼び覚まして、心を浄化してくれます。

後輩へのアドバイスは？

研究には資金が必要です。奨学金や民間企業からの研究助成金を得て、院生時代はアルバイトに時間を取られず、勉強だけに打ち込める環境を作ることです。次に自分の研究分野のトレンドを見極め、目標を定めて学会発表や学会誌への論文投稿をして研究業績を積み重ねることです。

ワークライフバランスについて

結婚後、仕事をしながら子育てと病気の義父母や実父の介護をして、30代の10年間は実に忙しく過ごしました。夫も残業が多く忙しい年代でしたが、家事や育児を当たり前のごとして、ごく自然に分担してくれました。また困った時に友人が助けてくれたことも救いでした。時間を有効に使うことを意識し、夫や妻のどちらか一方が過剰に無理を抱え込みすぎないように夫婦ともに気遣い、パートナーとお互いに思いやり助け合える関係を築いていくことが何よりも大切です。

「女性研究者サポート室のキャラクターが誕生しました」

イメージキャラクターの名前は「FAB子(ふあぶこ)」ちゃんです。研究職に憧れ、女性研究者についていろいろな知識を持っている中学生です。進学を考える中・高校生に、女性研究者について広く知ってもらうため、頑張ってもらいたいと思います。



編集・発行元 / 発行日 2012年3月
国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 “FAB” Female Academics at Bundai
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 TEL(097)554-8573 FAX(097)554-6039
E-mail: fsupport@oita-u.ac.jp http://www.fab.oita-u.ac.jp/



国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室“FAB”

E-mail fsupport@oita-u.ac.jp

URL <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

大分大学男女共同参画公開セミナーを開催しました

5月18日(木)、「大分大学男女共同参画推進本部棟」の開所を記念して、大分大学男女共同参画公開セミナー「先進的男女共同参画を学ぶ」を開催しました。

北野正剛大分大学長による開会挨拶、松浦恵子女性研究者サポート室長による本学の女性研究者支援事業の説明の後、本学の女性研究者2名が発表を行いました。

平成23年度春季学会派遣支援に採択された川田菜穂子講師(教育福祉科学部)は、「若者の自立・家族形成と住まい」の演題で、岸田哲子教授(医学部)は、「9時5時のすすめ、若い研究者へ」の演題で発表を行いました。

特別講演は、株式会社資生堂の取締役である岩田喜美枝氏を講師としてお招きし、「女性はもっと活躍できる」の演題でご講演いただきました。岩田氏は人生の三本柱とする「キャリアをつくる」、「家族をつくる」および「社会と関わる」について、ご自身の人生を振り返りながら話されました。また、資生堂における女性活躍支援の制度づくりやワークライフバランスのための業務改革など企業の先進的な男女共同参画の取組みについてお話しいただきました。

最後に嘉目克彦理事が閉会の挨拶を行い、セミナーを終了しました。



科研費獲得セミナーを開催しました

6月1日(金)、旦野原および挾間の両キャンパスにおいて久留米大学分子生命科学研究所の児島将康教授を講師に招き、科研費獲得セミナー「書き方次第でこんなに違う!」を開催しました。

児島氏は、ご自分の科研費獲得履歴を含めた自己紹介の後、科研費獲得の厳しい現状を大分大学を例に挙げながら説明されました。

採択される重要なポイントとして、「1. 分かりやすく、読みやすい申請書」、「2. 業績(論文発表)」の2つを挙げ、申請書作成の具体的な方法(研究目的をはっきり書く、これまでの自分の研究成果を十分にアピールする等)について、実際の申請書をもとに説明されました。

セミナー終了後は、参加者からの質問に丁寧に答えていただきました。

参加者からは、「毎年の動向も踏まえて、このようなセミナーを定期的で開催して欲しい」、「科研費申請書の書き方を学ぶ機会がないので、非常に勉強になった」等の意見が聴かれ、大変有意義なセミナーになりました。

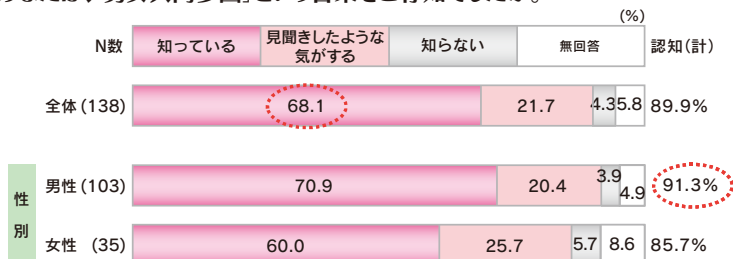
※旦野原キャンパスでのセミナーを収録し、DVDを作成しました。
希望者には貸出しますので、サポート室までお問い合わせください。



特集 女性研究者を増やすには ～平成23年度卒業予定者の意識調査～

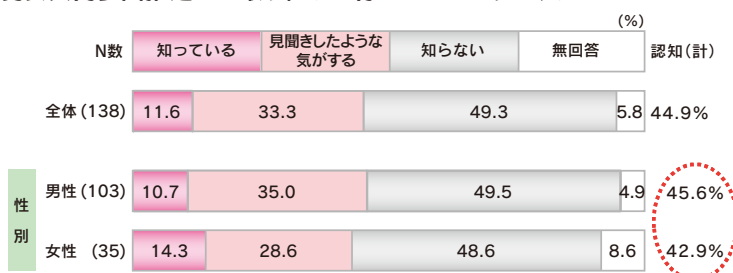
大分大学で女性研究者支援事業の施策に関する参考資料を得るために、平成23年度末に本学の卒業予定の学生（138名（男性103名、女性35名））の男女共同参画に対する意識や研究者に対する認識などについて調査を行いました。ここに一部を紹介します。本調査の詳細はサポート室HPの発行物に掲載しておりますのでご覧ください。

Q1:あなたは、「男女共同参画」という言葉をご存知でしたか。



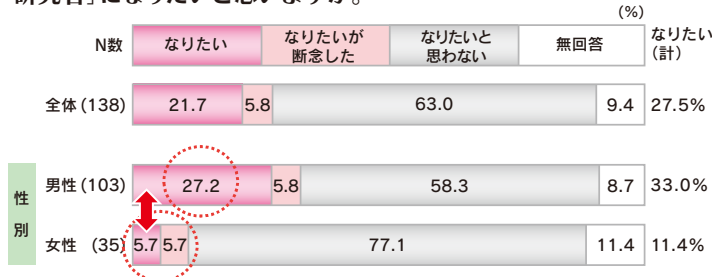
●「男女共同参画」という言葉の認知率は9割に達している。

Q2:大分大学においても平成22年7月に男女共同参画推進本部が設置され、教育・研究や大学運営等、様々な面での男女共同参画推進への取り組みが行われていますが、あなたはこのことをご存知でしたか。



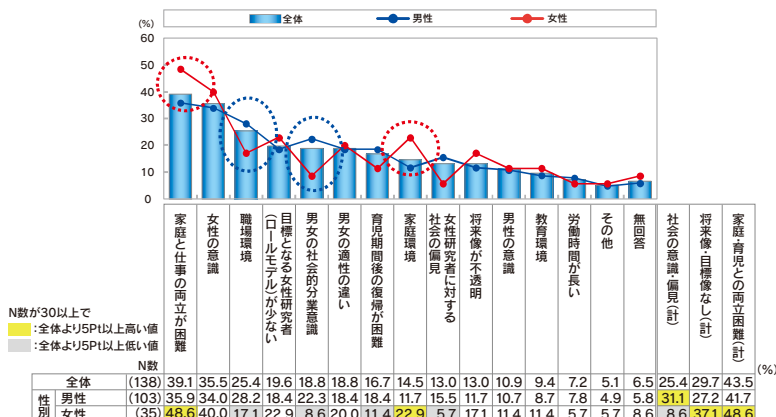
●「大分大学での男女共同参画推進への取り組み」認知率は45%と、半数以下に留まる。

Q3:「研究者」になりたいと思いますか。



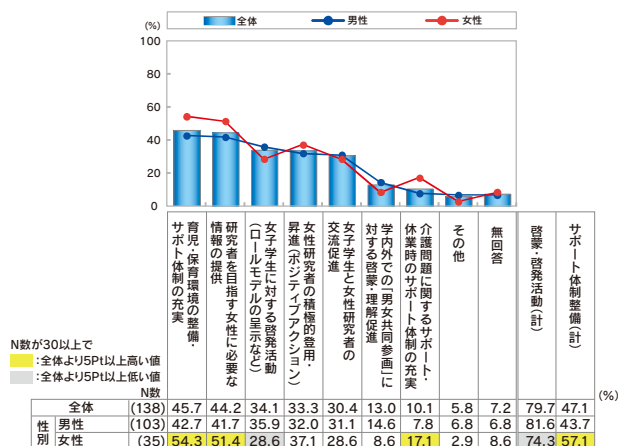
●「研究者になりたい」人は男性27%に対し、女性は6%と、圧倒的に男性の方が多い。

Q4:女性研究者が少ない理由は何だと思われますか。主なものを3つまで選んでください。



●「家庭と仕事の両立が困難」が最大の理由。女性は特に「家庭と仕事の両立」や「将来像・目標像の不明確さ」を要因と考える傾向が強く、「社会の意識・偏見」はむしろ男性の方が強く意識している。

Q5:女性研究者を増やすためには何が必要だと思いますか。主なものを3つまで選んでください。



●「育児・保育環境の整備・サポート体制の充実」と「必要な情報の提供」が最も必要と捉えられている。

(株)電通マーケティングインサイトによる企画・集計・解析

研究活動支援 詳しくはサポート室HPをご覧ください

研究サポーター事業利用申請受付します(平成24年度後期)

[申請期間]7月17日(火)~8月16日(木) [利用期間]10月1日~3月31日 [募集人数]若干名

詳しくはサポート室HPをご覧ください

女性研究者に係るメンター制度の実施について

本学の女性研究者が、研究と生活との調和を図りつつ、研究力を磨きキャリアを築き続けるために、より経験を積んだ先輩研究者に気軽に相談できる体制を提供することを通して、女性研究者の科研費等の採択率を向上させるとともに、本学全体の研究力及び競争力の向上を図ることを目的として、メンター制度を実施します。詳しくはサポート室HPをご覧ください。

情報交換 FAB交流会を開催しました

●旦野原キャンパス

第5回FAB交流会

4月5日(木)、工学部の堤紀子助教、大学院生および学部生が参加して、情報交換を行い、理系女子の率直な気持ちや考えを聞くことができました。

第8回、第9回&第10回FAB交流会

5月14日(月)、15日(火)および17日(木)に、旦野原の異なる学部・センター等の女性研究者が参加して開催し、所属による女性研究者の状況の違いを知ることができました。

●挟間キャンパス

第6回、第7回FAB交流会

4月19日(木)および20日(金)に、医学部の女性教員、技術補佐員および研修医等の方が参加して、交流会を開催し、いろいろな立場の方を知ることができました。



意識啓発

新入生対象の男女共同参画講義を行いました

各学部の平成24年度入学の新入生を対象として、山岸治男前教育福祉科学部教授が男女共同参画講義を下記の演題で行いました。

医学部:「医学生のキャリア形成と男女共同参画」【4月6日(金)】

教育福祉科学部:「男女共同参画社会を実現するには」【6月7日(木)】

経済学部:「学生のキャリア形成と男女共同参画」【6月25日(月)】

「二十歳からのキャリア形成と男女共同参画」【6月28日(月)】



大分大学の輝く女性研究者(5)

Female Academics at Bundai

大分大学で研究に取り組んでいる女性は現在263名(教員91名、大学院生172名)(平成24年5月1日現在)です。でも実際の研究者がどのような研究生生活を送っているか意外と知られていません。このコーナーでは大分大学で活躍する女性研究者を紹介していきます。第5回目は、医学部看護学科の河村奈美子 准教授と医学部附属病院の川野由紀枝 助教を紹介します。



医学部看護学科
精神看護学

准教授 河村奈美子さん

【略歴】

北海道医療大学卒業。札幌医科大学大学院修了。看護師として勤務。旭川医科大学・札幌市立大学にて精神看護学の助手・助教となる。奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了。平成24年に大分大学に着任。

研究の内容は？

教育では、精神看護学領域を担当しています。精神看護学の講義や実習、研究を担当しています。学生とともに講義や実習を通して、発達段階とこのころの健康について理解を深め、看護ケアを考えていきます。研究は、コミュニケーション上の障害を持つ認知症高齢者や子どもに対して、動物(犬や馬)がいることによって人と人のコミュニケーションがどう発展するのか(アニマル・セラピー)について研究しています。

進路決定のきっかけは？

修士課程修了後、大学病院で看護師として勤務していました。その時、卒業した大学の先生からお声をかけていただいたのがきっかけです。精神看護についてもっと深く学ぶ機会にしたいと思いました。

研究の魅力は？

自分が興味・関心をもっているテーマについて、疑問をもって一生懸命考え、その疑問が少しずつ明らかになっていく過程がとても面白いと思います。更に、その過程や結果を論文として発表したものが、他の研究者の参考文献にしてもらえたことを発見すると、自分の研究成果が世の中に還元できた気持ちを感じ、とても嬉しいです。

後輩へのアドバイスは？

仕事の継続と結婚・出産・育児の両立は難しいという考えが、私自身にもありました。しかし、海外に子どもを連れて単身赴任して研究を継続する、障害をもった子どもを連れて留学を考えているゼミの仲間を目の当たりにして、生活と両立しながらできることはたくさんあるということに気づくことができました。私自身、学会でママ友もできました。そんな時代に変わりつつあるのです。ぜひ、色んなことをあきらめずに頑張ってください。

ワークライフバランスについて

この仕事を続けられているのは、2人の子どもと夫、両親の協力がとても大きく、家族の力に感謝しています。自分が子どもの時間に合わせるのか、子どもに自分の時間に合わせてもらうのかということを考えた時期もありましたが、「家族メンバーの心と身体の健康は大事にしたい」と思い、それ以外は何とか頑張る、できないことは助けてもらうことにしました。今は職場の理解と地域のサポートに支えられています。将来は支援する立場になりたいと思っています。



医学部附属病院
産科婦人科

助教 川野由紀枝さん

【略歴】

大分県生まれ。長崎大学医学部卒業。大分医科大学(現大分大学医学部)産婦人科学教室に入局。大学、および関連病院の勤務を経て、大分大学医学部大学院博士課程を卒業。現在に至る。

研究の内容は？

子宮内膜症は近年増加傾向にあり、月経困難症や不妊症の原因となります。発症原因は分かっておらず、多くの女性が苦しんでいます。私は子宮内膜症の病因検索と、これまでとは違った機序の新しい薬剤の開発にむけ取り組んでいます。

進路決定のきっかけは？

産婦人科に入局した頃、多くの先輩方が研究をされていました。それを見ていた私は、ある時期になったら研究に携わるのがごく普通のことに感じていました。しかし、その時期はなかなかめぐってきませんでした。もう研究をすることはないのかも知れないと思った時期もありましたが、結婚して出産を終え、研究するなら今しかない!と思いきって研究の生活に飛び込みました。

研究の魅力は？

取り組んでいるテーマについて深く考え、様々な角度から可能性を探っていきます。その中からヒントを自分でみつけ、自分の仮説に基づいて行った実験がうまくいったときはとてもうれしいです。また、実験がうまくいくことももちろんですが、もしかしたらこんなのかも?と考えている過程がとても楽しいものです。

後輩へのアドバイスは？

何かをしたいと思った時、自分ひとりで何もかもすることはできません。やりたいことが見つかったら、周囲の人に頼ってください。感謝の気持ちを常にもっていてください。そして、ゆっくりでもいいので自分の目指した道を進んでいくことができればハッピーですよ。

ワークライフバランスについて

仕事と家庭を行ったり来たりで時間の余裕は全くありませんが、それでも人生を楽しみたいと思っています。研究がうまくいくとうれしいし、家族と一緒にいると楽しい。楽しいうちは忙しくても続けていけると思います。毎日がつらくなるような状況に追い込まないこと、「まっいいか」と切り替えることが重要だと思います。

編集後記

旦野原キャンパスのサポート室は昨年度末に新築された男女共同参画本部棟へ引っ越ししました。広い室内で、ミーティングや研究者同士の交流会も出来るようになりました。休憩室も併設しています。是非お立ち寄りください。

大分大学 男女共同参画セミナーを開催しました(10月9日)

10月9日(火)、大分大学男女共同参画公開セミナーを開催し、本学関係者、行政関係、一般市民の方など約100名が参加しました。

嘉目克彦理事による開会挨拶の後、松浦恵子女性研究者サポート室長が大分大学における女性研究者支援事業についての説明を行いました。

続いて本学の女性研究者2名が発表を行いました。平成23年度研究奨励賞の最優秀賞を受賞した荻野千砂子講師(教育福祉科学部)は、「琉球語に残る日本の古語」と題した発表を行いました。「琉球語は、現代日本では使われなくなった日本古語と、用語や文法における共通点が多く存在するため、さらに琉球語を研究することで日本古語の文法の解明に繋がりたい」と話されました。

平成24年度秋季国際学会派遣支援を受けた寺町芳子教授(医学部)は、「看護実践の質を高めるための研究へのチャレンジ」と題し、「インフォームドコンセントにおける患者・医師・看護師の協働モデル」を、ご自身の看護師としての経験を織り交ぜながら発表され、「医療の場面で三者が協働する必要性だけでなく、研究・教育をとあして、看護の質向上に貢献していきたい」と話されました。この発表は派遣支援により参加した国際学会で、ポスター賞を受賞されました。

特別講演には、脳機能開発分野の第一人者である東北大学加齢医学研究所教授の川島隆太氏をお招きし、「脳を知り、脳を育み、脳を鍛える ～脳科学から見る男女共同参画の意義～」との題で講演していただきました。川島講師は、「生活習慣が脳の発達に影響する。男女ともにワークライフバランスを大事にすることは、未来に育つ子どもたちのきちんとした人生をつくることに繋がる」と、睡眠や朝食などの生活習慣が脳に与える影響と男女共同参画との関係について詳しく話されました。



女性研究者奨励賞授賞式を行いました

10月18日、学長室において第3回女性研究者奨励賞授賞式が行われ、北野正剛学長より奨励賞受賞者に表彰状が授与されました。併せて、平成24年度春季および秋季学会派遣支援採択者に、決定通知書が渡されました。

北野学長は、出席者18名を前に、「今後、ますます研究活動に活躍し、大分大学を盛り立ててください」とあいさつされました。

今年度の研究奨励賞受賞者および学会派遣支援採択者数は次のとおりです。

- ・第3回女性研究者奨励賞 9名(教員6名、大学院生3名)
- ・平成24年度春季学会派遣 国内学会 4名(教員3名、大学院生1名)
- ・平成24年度秋季学会派遣 国際学会 3名 国内学会5名(教員2名、大学院生6名)



学長と女性研究者との懇談会を行いました

北野正剛学長と女性研究者(女性研究者奨励賞等授賞式出席者)との懇談会が授賞式後に行われました。

初めに、出席者が自身の研究内容を説明し、北野学長が一人一人に向けてコメントされました。次に出席者が、女性研究者の現状課題や支援に対する要望などについて述べました。現在行われている奨励賞・学会派遣支援や研究サポーター制度などの支援の来年度以降の継続や、病児保育の早期実現、院内保育園の定数増加などについての要望が出ました。

北野学長は、「皆さんの意見を参考にし、大分大学をあげて支援体制を整備していきたい。優秀な研究者が大分大学を目指し、研究活動が活性化されるよう頑張りたい」と話されました。



女性研究者支援に関する学部長からのメッセージをいただきました。

教育福祉科学部長 柳井 智彦



教育福祉科学部の女性教員の比率は18%であり、大学全体の平均16%をやや上回っている。また、大学院生の女性比率は46%とかなり高いといえる。さらに、学部学生では71%が女子学生である。すなわち、本学部は女性が研究・教育する場、女性が学習する場としてある程度の期待には応えていると思われるが、特に女性教員の採用については今後も「男女共同参画社会基本法」の趣旨に則って積極的な採用を進めたい。

私の専門である外国語教育・言語研究の分野では、特に外国の研究者に女性で世界的業績を上げている人が多い。私が最近参照している論文の著者も半数近くが女性である。また、我が国においてもこの分野の学会では女性による発表件数が多数ある。次世代を担う女性大学院生の発表も多い。しかし、家庭・家族を持ちつつ研究を進めていくことは、男女を問わず、時間的に苦勞、苦心の連続であろう。私の場合も子供が小学校から高校まで野球をやり、その保護者会長もやったことがあるので、家族のための時間と研究の実行とのやりくりで苦心した。研究者によっては、このような例とは比べられないほどのご苦勞をされている方もいらっしゃるであろう。

女性研究者の研究・教育を支援するために何ができるのか、これを機にさらに考えていきたい。まずは、教授会をはじめとする会議を効率的に進めて、研究に費やせる時間、男女が共に家事や育児にかかわれる時間をより多く確保するといった努力から始めたいと思う。

経済学部長 市原 宏一



経済学部における、男女共同はこの間、質的にも量的にも変化してきました。教員について言えば、20数年前には、教員総数の差異もありますが、女性教員は助手ポストに2人のみでした。その後、1980年代末から女性教員の採用が増加していくようになります。ただし当初は語学等の教養教育を中心としていました。1990年代に入り、教養教育の改組、地域システム学科開設等の学部改組の展開もあって、専門教育課程、すなわち社会科学系の分野にも女性の採用が増加していきます。現在では、社会科学分野の中でもとりわけ経営学、法律学分野で複数の女性教員が勤務し、教員総数59人中9人と1割を上回り、教授等の職位も多様になってきています。

そもそも、国立大の社会科学分野の教員における女性比率は助手でこそ8割を超えていますが、それ以外の職名では多くても3割、教授では1割を切っています(2012年国大協調査)。とりわけ商学・経済学関係学部教員(助手を除く)の女性比率は、社会科学系の中でもっとも低く、講師で1割、教授でようやく1%を上回るという状態でした(2007年国大協調査)。これらを踏まえると、残念ながら、本学経済学部も全国的な商学・経済学系における傾向と大きく異なるという状況ではありません。学生についても、経済学経営学は女子学生比率26.4%(2007年国大協調査)と低い分野です。ただし、本学経済学部の場合、上野から旦野原への移転の頃を期に、次第に女子学生比率が増加していきました。現在では大学院・学部とも学生総数の4割を超える状況に至っています。

他大学に比して低くはない女子学生比率を踏まえると、上述した教員比率も他大学並み・社会科学系一般並びに高まっているとはいえ、なお課題を持つものと考えられます。そうした中で、今回、本研究院院生に「女性研究者支援のための学会派遣支援」が措置されたことは、多面的な支援のあり方として重要な契機となったといえましょう。全学的な共同参画の展開と支援を背景としながら、本学部における取組の一層の展開を検討していきたいと考えています。

「女性研究者と語ろう」を開催しました【8月8日(水)】

大分大学オープンキャンパス開催当日、旦野原および挾間キャンパスにおいて、「女性研究者と語ろう」を開催しました。

旦野原キャンパスでは、教育福祉科学部、経済学部および工学部の女性教員に加え、工学部の女性大学院生も加わり、研究の魅力、大学で研究するという進路があることや自身の進路決定のきっかけなどについて語りました。また、「女性教授の研究室を覗こう」も開催しました。理系女子(リケジョ)に興味のある高校生が一二恵美教授の研究室を訪れ、学生から研究内容の説明や研究の面白さについて話を聞き、顕微鏡で細胞を観察するなどの体験をしました。

挾間キャンパスでは、医学科と看護学科にそれぞれブースを設け、森島真幸助教、サポート室の松浦室長および丸山コーディネーターから、研究者という進路や研究の大切さ、仕事と家庭の両立、大分大学での女性研究者支援体制などについての説明を行いました。



大分大学における各学部の学部長に女性研究者支援に関するお考えを伺いました。質問項目は以下の2点です。

- 1) 貴学部での男女共同参画、特に女性研究者支援に対する意気込み
- 2) 貴学部での具体的取組と課題(女性研究者採用・昇進、両立支援、次世代育成等に関して)

医学部長 大橋 京一



医学部の学生で女性が占める割合は、医学科で40%前後であり、看護学科では90%以上になります。医師、看護師を含めて大学病院における医療を支えるためには女性医師、看護師の活躍が不可欠です。しかしながら女性研究員となるとまだ少ないのが現状です。医学部・附属病院の役割の一つとして、新しい治療につながる基礎並びに臨床研究を推進して行く事だと思っています。全国的に研究医が減少傾向にあり、医学部が社会の要請に応えるためには研究医の養成が求められています。研究能力や医学の技術習得には性差はありません。女性研究医が増加することに医学部として力を尽くしたいと思っています。女性研究者が継続して基礎あるいは臨床研究を遂行するためには環境整備が必要です。医学部では子供を持つ女性医師、看護師、研究者のために、現在設置している保育園の拡充を進めています。また、病児保育室を新設予定で、安心して研究や業務に取り組める環境整備を進めています。私は研究や医療の分野では、女性医師、看護師、研究者が社会進出する障壁は比較的少ないと思っています。しかしながら、特に研究の領域で昇進するためには業績が必要になります。医学部では女性研究者の研究を支援するために、研究補助員を雇用し、メンター制度を導入し、科研費などの外部資金獲得を推進しています。これらの取り組みを通して、女性研究員の昇進を促し、女性研究者が増加してくれることが、医学部の活性化につながるものと思っています。今後、世界的な女性研究者が育つ事を望んでいます。

工学部長 井上 正文



現在、工学部での女性教員比率は6.7%です。国立大学工学系学部の中ではトップクラスの数値であるといえます。この数値でトップクラスというのは、とりもおさず全国的に工学分野において、女性研究者あるいは女性研究者予備軍が極めて少数であることを示しているともいえます。しかし、男女共同参画社会の実現という観点からいうと、本学工学部のこの数値をもってしても女性教員比率として十分なものではないことも事実です。

男女を問わず全国的にも学部受験生の理系離れ、とりわけ工学系離れが顕在化しており、いずれの工学系学部もその対応に苦慮しているのが現状です。このままでは技術立国を自認するわが国の技術力基盤を揺るがしかねないとの強い危惧の声も政府・産業界を中心に上がっています。このような状況の中、優秀な女子の学部受験生の増加はとりわけ重要との認識です。女子入学者の増加は入学者のレベルアップにもつながるものと確信しており、このことは過去の入試結果からもみてとれます。これまでの女子入学者の学習の様子から女子受験生の中にもくものづくり>に強い興味をもつ多くの学生がいることを我々も経験的に認識しており、ホームページ・広報パンフレット・出前講義等を通じてこれらの女子受験生への呼びかけを一層強めていきたいと思っています。

また、現在の大学院(博士前期課程)への進学率において女子学部生のそれは男子学部のそれを下回っている現状から女子学部生の大学院進学率の向上も喫緊の課題でしょう。

女子学部生の大学院進学率の増加・女性教員増加に対する一連の取組は、女子学生・女子受験生へのロールモデルともなりえると考えています。これら一連の取組の短期的な達成は容易ではないにしても長期的視点にたてば、必ずや実を結ぶものと確信しています。学部内では、数少ない女性研究者及びその予備軍の発掘や目配りの努力を呼びかけているところです。また、採用・昇進についても男女間の取り扱いとはまったく同列であり、教員公募で男女同レベルの候補者が出た場合は女性優先とすることも十分にコンセンサスが得られているとの認識です。

工学分野全体では、女性研究者数が他分野に比して少ないにしろ、女性研究者数に凸凹が存在することも事実です。一定数の女性教員及びその候補者が存在する工学専門分野での女性研究者発掘の集中的取組も効果的との認識です。今後は、短期的取組と中期的取組とを車の両輪として、女性教員増加に向けての一層の努力を行っていく所存です。

女性研究者によるサイエンスセミナーを開催しました【7月27日(金)】

本学を卒業した、(独)放射線医学総合研究所 研究基盤センター 研究基盤技術部室長の荒木 良子氏を講師としてお招きし、「人工多能性幹細胞(iPS細胞)の医学応用に向けた基礎的研究 ～点突然変異と免疫原性～」と題して、サイエンスセミナーを開催しました。セミナーには、本学の教職員や学生以外に、科学系人材の育成を目指す「大分スーパーサイエンスコンソーシアム」の中心となって活動している大分舞鶴高校の生徒の皆さん25名も参加しました。荒木講師は、iPS細胞の医学応用が期待されている中、安全性を今後基礎的研究で解明していかなければならないことなど、高校生にもわかりやすく説明され、研究とはどういうものか、研究の楽しさや厳しさを教えていただきました。



九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin大分 開催のお知らせ

九州・沖縄アイランド 女性研究者支援シンポジウム in大分

つづけること、つながること 九州・沖縄の絆のちから

～ 研究者が能力を発揮して輝くために ～

特別講演

地域社会で育む女性研究者支援のための特別講演

「銀座のママから学ぶ人間力」

講演者：白坂 亜紀氏（大分県竹田市出身）

開催日時

平成24年12月15日（土） 13:00～17:00

※事前申込み制、定員100名、入場無料

※託児あり

開催場所

レンブラントホテル大分 久住の間

対 象

一般及び大学関係者

申し込み方法

電話、FAXまたはEメールにて女性研究者サポート室まで下記問い合わせ先にお申し込みください。



ロールモデル誌「大分大学の輝く女性研究者Vol.2」を 発行しました

ロールモデル誌の2冊目を発行いたしました。この冊子では、25人の女性研究者を紹介しています。1冊目とあわせると、大分大学の女性研究者を44人紹介できたことになります。

ロールモデル誌をご希望の方は、女性研究者サポート室までお問い合わせください。



■編集後記

今年も残すところあと少しですが、12月15日の九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムの準備のほかに、いろいろな業務が重なってサポート室員は慌ただしい日々を過ごしています。みなさま、よいお年をお迎えください。



編集・発行元 / 発行日 2012年12月
国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 “FAB” Female Academics at Bundai
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 TEL (097) 554-8573 FAX (097) 554-6039
E-mail: fsupport@oita-u.ac.jp http://www.fab.oita-u.ac.jp/



次世代育成のための特別講演会を開催しました(2月7日)

平成25年2月7日(木)、大分文化会館にて、大分県立大分舞鶴高等学校平成24年度スーパーサイエンスハイスクール(SSH)成果発表会が3部構成で行われました。

第2部は、大分大学主催で、学長挨拶の後、女性宇宙飛行士の山崎直子氏をお迎えし、「宇宙、人、夢をつなぐ～未来へはばたく皆さんへ～」をテーマに特別講演会を開催しました。

山崎氏は、天体に興味を持った幼少時代のことや、宇宙飛行士と認定されてからの厳しい訓練のこと、実際に滞在した宇宙ステーションでの生活についてなど様々な内容を講演されました。

宇宙飛行士として、実際に宇宙に行くまでには11年間という時間がかかりましたが、「宇宙に行けることを信じて、毎日訓練を重ねました。何事も日々の積み重ねが大切です。」と、話されました。

質疑応答の時間では、山崎氏は壇上から降りて高校生と向かい合いながらお話していただきました。高校生からは「宇宙をはじめに見たときの感想は？宇宙人はいると思いますか？」など様々な質問があり、山崎氏からは、「宇宙人はいてほしい。地球は生きていますと思いました。」など神秘的な話を聞くことができました。

講演後、高校生からは「目標をもって努力を続けることの素晴らしさを聞けてよかった」との、感想があり大変有意義な講演会となりました。



男女共同参画トップセミナーを開催しました(1月29日)

平成25年1月29日、国立大学法人北海道大学の副理事で女性研究者支援室長の有賀早苗先生を講師にお招きし、トップセミナーを開催しました。

北海道大学は、文部科学省の補助事業である「女性研究者支援モデル育成」事業を平成18年度に採択された、いわば、本事業の第1期校であり、現在は「女性研究者養成システム改革加速」事業の採択を得て、女性研究者の増員等に取組んでおられます。

有賀先生は、平成18年度の事業採択当初から、女性研究者支援室長として活動されており、そのパワフルな活躍は、全国的にも傑出されています。

当日は、北野学長以下全理事、全学部長、そして、女性研究者サポート室推進委員会委員の出席も得て、学長挨拶の後、講師の具体的な活動に基づいた講演「大学における男女共同参画、なぜ必要？何が必要？」を聴講しました。

講師は、最後に、北海道大学女性研究者支援室のノベルティを参加者全員に提供し、事業を推進するためにはいろいろなアイデアも必要と述べられるとともに、男女共同参画に関する取組の推進について、役職者の理解を求めました。



特集

高校生意識調査

～高校生からみた大分大学、

男女共同参画社会について～

大分大学では、次世代育成のため、地域の高校生からみた『大学に対する意識や大分大学のイメージ』『男女共同参画社会についての考え』などを調査し、今後目指すべき方向性のヒントを得るため、大分舞鶴高校の1年生・2年生を対象に意識調査を行いました。ここに一部を紹介します。

本調査の詳細はサポート室HPの発行物に掲載しておりますのでご覧ください。

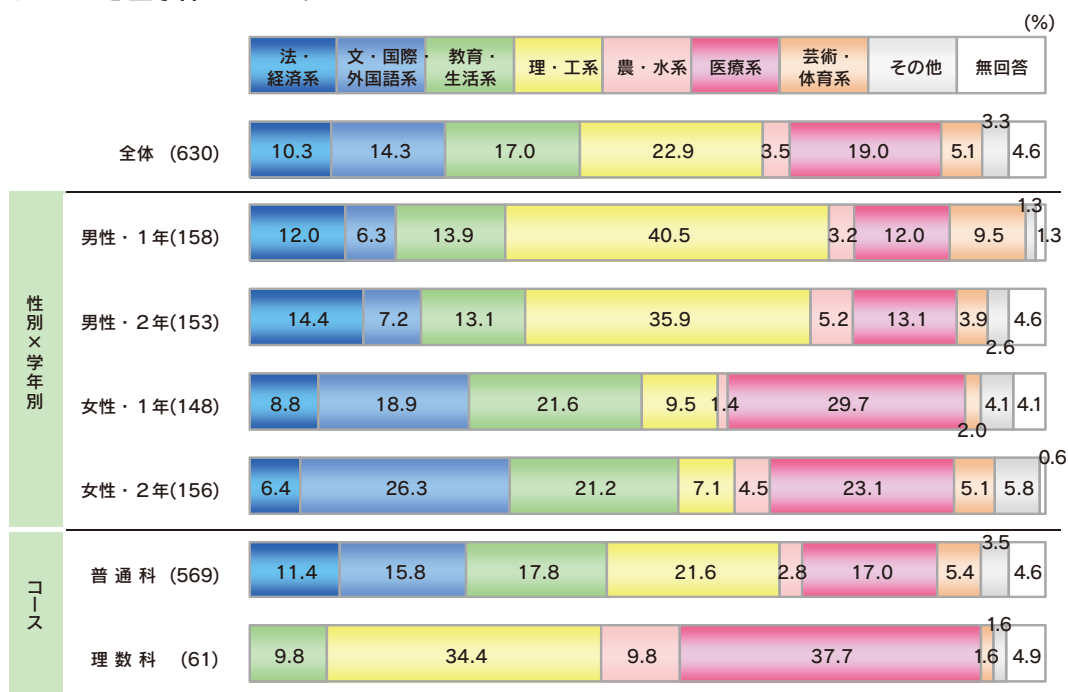
【基本情報】

回答数：630

学年：1年（315）、2年（315）

性別：男性（311）、女性（304）、無回答（15）

Q1：あなたの志望学部はどこですか？



Q2：「大学卒業後、大学内に研究者として残る」という考え方についてどう思いますか？



Q3:「大分大学」について、受験・進学の対象として考えた時にどれくらい興味がありますか？

		(%)						興味がある 計	興味がない 計
N数		とても 興味がある	やや 興味がある	どちらとも いえない わからない	あまり 興味がない	まったく 興味がない	無回答		
性別	全体 (630)	8.3	20.6	24.4	30.5	15.4	0.8	28.9%	45.9%
	男性 (311)	3.2	19.3	25.1	32.5	18.3	1.6	22.5%	50.8%
	女性 (304)	13.2	22.4	23.0	28.3	13.2		35.5%	41.4%

Q4:「男女共同参画」という言葉は知っていましたか？

		(%)				認知 計
N数		知っている	見聞きしたような 気がする	知らない	無回答	
性別	全体 (630)	88.1	8.6	0.3	3.0	96.7%
	男性 (311)	86.8	11.3	0.3	1.6	98.1%
	女性 (304)	92.8	6.3	0.3	0.7	99.0%

Q5:下記(1)～(3)の考え方について、「賛成」・「反対」のどちらの立場ですか？

		(%)									
		賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答	賛成 計	反対 計		
(1)「夫は外で働き、 妻は家庭を守るべきである」 という考え方											
全体 (630)		2.1	17.8	29.0	37.9		1.9	19.8%	67.0%		
男 性 (311)		2.9	23.5	28.3	28.6		16.7	26.4%	56.9%		
女 性 (304)		1.3	12.5	31.3	48.7		6.3	13.8%	79.9%		
(2)「女性が社会で活躍する のは良いことだ」 という考え方											
全体 (630)		71.0					21.7	4.0	1.9	92.7%	1.4%
男 性 (311)		65.3					26.7	1.1	0.3	92.0%	2.3%
女 性 (304)		79.9					17.1	0.3	2.3	97.0%	0.7%
(3)「女性は、結婚しても 働き続けるのが良い」 という考え方											
全体 (630)		18.4	39.5	12.5	0.8	26.7	2.1	57.9%	13.3%		
男 性 (311)		10.6	37.6	18.3	1.0	32.2	0.3	48.2%	19.3%		
女 性 (304)		27.0	43.1	6.9	0.7	22.4		70.1%	7.6%		

「第4回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin大分」を開催しました(12月15日)

「つづけること、つながること 九州・沖縄の絆のちから ～研究者が能力を発揮して輝くために～」をメインテーマに、九州・沖縄の8国立大学法人の共催によるシンポジウムを大分市のホテルで開催しました。

主催者を代表して北野正剛大分大学長による開会挨拶、来賓紹介、そして来賓を代表して二日市具正大分県副知事にご挨拶をいただきました。

次に、斉藤尚樹文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長による基調講演が行われました。斉藤課長は、「女性研究者の現状と九州・沖縄地区大学への期待」と題して、国際比較による日本の女性研究者の現状を説明したうえで、今後の科学技術の発展に女性研究者の力が必須であること、そのために男性教員の意識改革や他大学のモデル事業を積極的に取り入れていくことを提案されました。

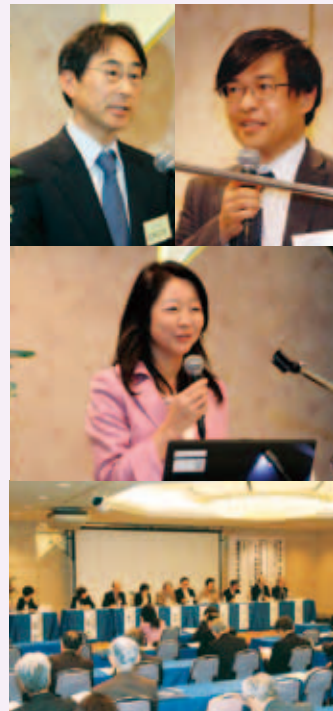
引き続いての特別講演では、大分県竹田市出身で現在は東京銀座で経営者として活躍中の白坂亜紀氏に「銀座のママから学ぶ人間力」と題して、ご講演いただきました。白坂氏は、仕事と家庭の両立が認められなかった職場風土の中で、両立のために経営者の道を選んだことなど、ご自分の経歴を踏まえながら、女性の能力はすばらしく、それを生かさないと勿体ないこと、男性対女性という対立構図ではなく、お互いに補い合って活力ある地域をつくっていかねばならないと話されました。

休憩の15分間にサポート室が作成した広報用DVD(平成22年度作成)などをスクリーンに放映しました。

次に、松浦室長から大分大学の3年間の取組と今後の展望を紹介しました。広報用DVD第2弾となる「輝け、明日に！ 一大分大学女性研究者編」も放映されました。

その後、JSTの山村康子氏をコメンテーターに迎え、8大学の理事・副学長・学長特別補佐によるパネルディスカッションを行いました。「女性研究者支援を『続ける』ために必要なこと」をテーマに、各大学の取組を紹介しながら、課題等について率直に意見を出し合いました。

最後に「大分宣言」を採択して、シンポジウムを終了しました。



【大分宣言】

すべての研究者が研究機関において、男女を問わず等しくその能力を発揮し、多様かつ独創的資質を最大限に活かしてさらなる飛躍ができるために、第4回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム参加者一同が、九州・沖縄の女性研究者支援の絆を、これからも持続的により広くより強くしていくことをここに宣言します。

- 1、わたしたちは、女性研究者支援の絆をひろげ、より強い結びつきを持ち続けるために、ネットワーク強化をさらに推進します。
- 2、わたしたちは、男女共同参画に基づき、その能力を最大限に発揮できる研究機関の環境やしきづくりをさらに推進します。

女性研究者支援から、男女共同参画推進へ

平成24年度で、文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)が終了します。平成25年度以降は、女性研究者支援から更にステップアップして、大分大学での男女共同参画推進に取り組んで参ります。今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

■編集後記

女性研究者サポート室“FAB”は事業採択後3年間、ニュースレターの発行をはじめとして様々な活動に取り組んできました。たくさんのご協力本当にありがとうございました。

4月から名称新たに、さらなる活動を行っていききたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

November
2012

News Letter

Female Academics at Bundai FAB

号外

国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室“FAB”

E-mail fsupport@oita-u.ac.jp

URL http://www.fab.oita-u.ac.jp/

「サポート室の取り組みが新聞で紹介されました」

大分県医師会男女共同参画委員会主催の 「先輩と語ろう！男女共同参画シンポジウム」に 参加しました

大分合同新聞にその内容が掲載されました。

女性医師の力を生かすために、勤務時間の短縮や育児サポートの充実、職場の理解など働き続けることができる環境をつくるのが大切と話し、「女性医師が生涯にわたって働き続けることができれば、医師不足の解消や地域医療の強化にもつながる」と述べた。

女性研究者が研究活動と出産、育児などを両立できるのは「仕方ない」とアドバースした。

女性医師の力を生かすために、勤務時間の短縮や育児サポートの充実、職場の理解など働き続けることができる環境をつくるのが大切と話し、「女性医師が生涯にわたって働き続けることができれば、医師不足の解消や地域医療の強化にもつながる」と述べた。

女性研究者が研究活動と出産、育児などを両立できるのは「仕方ない」とアドバースした。

育児中の女性医師ら 仕事と家庭の両立語る 大分大でシンポジウム



体験を語る平下有香医師（左）と山本まり医師

10月13日（土）朝刊



大分合同新聞トップ面のコラム「東西南北」に取り上げられました。

東西南北

先日、大分大学挟間キャンパスで開かれた県医師会男女共同参画委員会のシンポジウムで、大分大女性研究者サポート室の松浦恵子室長の講演を聴き、驚いた。日本の臨床医に占める女性医師の割合は約15%だが、20代の医師では小児科の49%、産婦人科の68%が女性という。医療現場での女性医師の存在はかくも大きくなっている▼一方で、仕事と家庭の両立に苦慮して現場を離れる女性医師も増えているという。このことは「地域医療の崩壊に関連している」と松浦室長は指摘する。地域医療の危機の背景には、医師不足だけでなく、地域や診療科による医師の偏在、過酷な勤務状況などの要因がある。

そのような中で女性医師が離職すれば現場に及ぼす影響は小さくない▼「女性医師の力を生かすことができれば、男性医師も助かるし、地域医療全体が救われる」と松浦室長。そのため、家庭との両立を望む女性医師が安心して働き続けることができる環境づくりが欠かせない▼大分大の医師ら女性研究者を対象にした意識調査では、病児保育の実施、育児と仕事を両立できるような勤務体制の整備、保育施設の充実などを求める声が上がった。それに応えて来春、挟間キャンパスに病児保育施設が開設される▼大分県としても、もっと女性医師の支援策を講じてほしい。

育児をしながら働く女性の多くが子育てサポートを必要としているのだから、地域医療を守り、県民の命と健康につながるのならば、女性医師を優先しても構わないと思う。

2012.10.18

10月18日（木）朝刊



「四重奏」
 ◇…本年度、大分大学から研究費や学会派遣費の支援を受ける学内の女性研究者計21人が決まり、18日、且野原キヤンパスで授賞式があった。受賞者は北野正剛学長と懇談し、参加者が現状を訴えた。(写真)

◇…結婚や出産で離職する女性研究者が多い中、大学が研究費を助成し、研究を続けやすい環境をサポートするのが目的。懇談では女性研究者支援の継続や拡充を求める声が続出した。
 ◇…「ママさん」研究者からは「産休・育休中の代わりの講師を探るのが難しい」「医学部の保育園の定員が少ない」など切実な声も。北野学長は「女性が働きやすい環境を整え、優秀な研究者が大学に集まるようにしたい」と応じた。

第3回女性研究者奨励賞授賞式を行いました

北野正剛学長から奨励賞受賞者に表彰状の授与、学会派遣支援採択者へ通知書が渡されました。その後、北野学長と懇談会を行いました。その様子が、10月19日(金)の大分合同新聞朝刊の「四重奏」に掲載されました。

《第3回女性研究者奨励賞》

最優秀賞：信岡かおる(工・院)、山岡真美(医・院)
 優秀賞：和泉志津恵(工)、川野由紀枝(医)、小橋川新子(医)、佐々木隆子(医)、森島真幸(医)、具志堅温子(工・院)、野口香緒里(医・院)

《平成24年度春季学会派遣支援採択者》

国内学会：池辺詠美(医)、鈴木留美子(医)、永松いずみ(医)、生野うらら(工・院)

《平成24年度秋季学会派遣支援採択者》

国際学会：寺町芳子(医)、NASHIRAH BINTIABU BAKAR(経・院)、三好清子(工・院)
 国内学会：大下晴美(医)、植島智美(工・院)、田口惇美(医・院)、橋本怜耶(教・院)、樋田真理子(医・院)

「サポート室の取り組みの一部を、HPから抜粋して紹介します」

各学部長から「男女共同参画」についてご意見を伺いました

9月6日から10日にかけて、井上工学部長との面談を皮切りに、大橋医学部長、市原経済学部長、柳井教育福祉科学部長を、松浦室長や各学部選出の推進委員会委員が各学部長室に訪ねて、学部での男女共同参画や女性研究者支援の推進の重要性について議論しました。

学部における女性研究者支援の意気込みや課題、具体的な取り組みについての詳細は、次回のNews Letterでお知らせする予定です。

なお、併せて、これから実施予定の在校生意識調査や各種行事等への協力をお願いしました。



「アイネス男女共同参画ウィーク2012」に参加しました



大分県消費生活・男女共同参画プラザ(通称アイネス)で開催された「アイネス男女共同参画ウィーク2012」に、本学も昨年度に引き続き、一部行事に参加しました(6月23日~26日)。

活動パネル展には、ポスターによる参加、そして、24日の映画講座第2部のトークセッションには、パネラーとして、医学部の森島真幸助教が登壇し、県内で活躍する女性の消防士や大工棟梁とともに、女性が少ないという職場環境の中での家庭との両立の苦労や研究のやりがいを率直に語り、会場の参加者に感動を与えました。

FM大分BUNDAI Radio ACADEMY

1月19日に松浦恵子室長が出演し、サポート室の紹介を行いました。
 8月9日には女性研究者である医学部の森島真幸助教が出演し、自身の研究や進路決定などについて話され、高校生に向けてメッセージを発信されました。

■編集後記

これまでのNews LetterやFABレポートでは紹介しきれなかったサポート室の活動を、今回初めてNews Letterの号外という形で紹介しました。今後も、サポート室の新鮮な話題をお届けしていきたいと思います。

「サポート室の取組の一部を、HPから抜粋して紹介します」

女性研究者が学会などにおいて賞を受賞されました

○寺町芳子教授(医学部看護学科)が国際学会で受賞されました

平成24年度秋季国際学会派遣支援を受けた寺町芳子教授(医学部看護学科)が、チェコ共和国プラハで開催された第17回国際がん看護学会学術集会(9/9～13)において、ポスターセッションの部で受賞されました。

寺町教授は、がん看護を専門にされており、今回の学会では“インフォームドコンセントにおける患者・医師・看護師の協働モデル”について発表されました。

受賞名: People's Choice Poster Award

受賞演題: Promotive interaction between medical personnel and cancer patients spanning the process from the breaking of bad news to decision-making



○荻野千砂子講師(教育福祉科学部)が新村出研究奨励賞を受賞されました

平成24年11月23日、「第31回新村出賞贈呈式」が京都市内で開催されました。

昨年度、本学が実施した「女性枠研究奨励賞」の最優秀賞を受賞された荻野千砂子講師(教育福祉科学部)が、新村出研究奨励賞を受賞され、贈呈式に臨みました。

新村出研究奨励賞は、京都大学において言語研究を進め、言語学の発展に貢献され、京都名誉市民になられた新村出博士の功績を讃えて設けられた賞です。言語学・日本語学に関する研究を奨励・促進するため、研究業績の著しい研究者に贈呈されます。



『文部科学教育通信』に大分大学の女性研究者支援事業の紹介が掲載されました



地域社会で育む『輝く女性研究者支援』—大分大学での女性研究者支援事業—の題で、事業の背景、目的と体制、事業の内容、課題と展望について、4回シリーズで松浦恵子サポート室長がお伝えしました。その内容を4回に分けて紹介いたします。

第1回『その時大分大学は?』/第2回『知の拠点』をめざすためにできること』/第3回『知ってもらうために』/第4回『つなげるために必要なこと』

※サポート室のホームページにて、閲覧することができます。



『第35回日本分子生物学会「男女共同参画企画」』に参加しました

日本分子生物学会は、これまで男女共同参画に積極的に取り組んで様々な活動を行ってきた学会の一つです。学会では、男女共同参画企画「全員参加の生命科学研究を目指して『パートII: 生の声を聞こう!』」として、講演会、ラウンドテーブルディスカッションがありました。2013年には女性理事長(大隅典子先生)が誕生し、今後もキャリア支援などを積極的に行っていく方針とのことです。

大分市 第2回男女共同参画推進関係団体懇談会において講演を行いました

平成25年1月9日大分市役所8階大会議室において平成24年度第2回男女共同参画推進関係団体懇談会が開催され、松浦恵子サポート室長が「大学における女性研究者支援の取組みについて」と題して講演を行いました。大分大学における女性研究者の現状や、これまでの取組み支援活動について具体的に説明し、今後は地域貢献できる大学をめざして男女共同参画を推進し地域自治体・企業などと連携を深めていきたいと述べました。参加された関係団体のみならず、大分大学を含め地域一丸となってこの男女共同参画の推進に取り組んでいきたいという意見が交わされました。



■編集後記

11月の号外に続いて、2回目の号外発行となりました。今後も様々な取組や活動を行っていききたいと思います。今年一年もサポート室一同よろしくお願いいたします。



編集・発行元 / 発行日 2013年1月
国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 “FAB” Female Academics at Bundai
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 TEL(097)554-8573 FAX(097)554-6039
〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 TEL/FAX(097)586-6347
E-mail: fsupport@oita-u.ac.jp http://www.fab.oita-u.ac.jp/



鹿児島大学男女共同参画「muse篤姫」シンポジウム参加速報

女性研究者サポート室 副室長 安岡 正義

去る11月26日(金)に鹿児島大学稲盛会館にて、標記のシンポジウムが開催されました。吉田浩己学長の開会挨拶ののち、板東久美子氏(文部科学省生涯学習政策局長)により、「大学における男女共同参画の実現を目指して」と題する特別講演が行われました。

我が国における男女共同参画の課題と取組について、

- ①国際的に見て低い水準の女性の社会への参画
- ②仕事と家庭生活の両立の困難な状況
- ③非正規雇用の拡大と処遇格差
- ④根強い固定的性別役割分担意識

などの指摘がされたのち、「多様な人材が育ち、活躍できる環境づくりを」を目指しての提言が行われました。



大分でも下記のキックオフ・シンポジウムで板東久美子氏による特別講演が予定されています。
どうか奮ってご参加ください(入場無料)。

大分大学女性研究者支援モデル育成 キックオフ・シンポジウム

特別講演「地域における男女共同参画の推進について」

12月16日(木) 13:30~16:30

大分全日空ホテル 孔雀の間 (事前申込み制)

九州地区国立大学における組織的取組状況は以下のとおりです。

04年度	男女共同参画室(九州大学)
06年度	男女共同参画推進室(熊本大学)
07年度	女性研究者キャリア支援センター(九州大学)
08年度	清花Athenaサポート室(宮崎大学)
09年度	女性研究者支援室(佐賀大学)
	男女共同参画推進センター(長崎大学)
	男女共同参画推進室(鹿児島大学)
	男女共同参画室(琉球大学)
10年度	男女共同参画推進本部・女性研究者サポート室(大分大学)

FABレポート

No2
2011.2.23
発行

～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

『休憩室』を開室しました。

このたび、女性研究者サポート室の『休憩室』が1月24日に開室しました。こちらでは、勤務中の体調不良時や妊娠・産後などで体調のすぐれない方にご利用いただけます！

両キャンパスの休憩室には、リクライニングチェアをご用意しており、旦野原キャンパスには、マッサージチェアもございます。ゆったりとすごしていただけるスペースをご準備していますので、ぜひ一度お立ち寄りください♪

ご利用方法はホームページをご覧ください。

ブログを始めました！サポート室の室員によるFABブログは、日常の事やなにげない記事を書き進めたいと思っています。要チェックです！ホームページからご覧になれます。

セミナー開催のお知らせ

『アサーティブなコミュニケーションスキルを学ぼう』

アサーティブとは…一人ひとりが自分を大切に思える

自分の権利も相手の権利も尊重できる

多様な価値観の人と対等な関係を築ける

…そんなコミュニケーション能力です

講師：森田 汐生氏 (NPO法人アサーティブジャパン代表)

日時：平成23年3月17日(木) 13:30～15:30

場所：旦野原キャンパス(事務局棟2会議室)

挟間キャンパス(多目的会議室・映像配信)

対象：全教職員・全学生

申込：女性研究者サポート室(内線8573)まで

(電話・FAX・Eメールにてお申込みください)

ブログにちなんでですが、『女性研究者ブログ』と検索をしてみると、理系・文系を問わず女性研究者の日々の様子や、仕事と家庭の両立に奮闘する姿などを知ることができます。より研究者の日常を身近に感じ、参考にいただけるとおもいます！こちらもぜひチェックしてみてください(o^o^)/

Pick up

大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事やこれまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

経済学部 教授 安岡 正義さん



『私の育児体験』

私はかつて、ふたりの娘の通う小学校で6年間にわたり朝の読み聞かせ活動に参加していました。当時の生徒たちも中学生、高校生になりましたが、通学の車内などで私の顔を見ると今でも「おはようございます。」と声をかけてきます。低学年の生徒たちは反応が生き生きとしていて、熊本方言で採集された「腰折れすずめ(＝舌切り雀)」の結びにある「とうとう、欲ふかばあさんを殺してしまいましたとさ。」を読んだ時にはかさず「そんなことをしたら、わりいんで！」という声が上がったほどで、これも楽しい思い出のひとつとなりました。また、上の娘との間に無言のシグナルがあり、勉強の途中で娘が目をぱちくりさせながら私に微笑みかけてくると、これは「肩を揉んでほしい」という意味です。娘は「普通の家と反対だね。」と言いながら私に揉ませています。育児を「できれば手抜きしたい雑事」と捉えていては失敗するでしょう。男女共同参画社会の推進については、父親の育児(育児「参加」でも育児「協力」でもなく、端的に「育児」)も大きなテーマと思っています。



発行：大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挟間キャンパス)

E-mail: fsupport@oita-u.ac.jp HP: <http://www.fab.oita-u.ac.jp>



振興調整費

F A B レポ ート

No3
2011.3.25
発行

～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

自己啓発セミナー

『アサーティブなコミュニケーションスキルを学ぼう』を開催しました。

平成23年3月17日、森田 汐生氏（NPO法人アサーティブジャパン代表理事）を講師とした自己啓発セミナーを開催し、旦野原・挾間キャンパスを合わせ、多くの参加をいただきました。セミナーでは、自分の気持ちや要求を、相手の権利を尊重しながら率直に、誠実に、対等に伝えるコミュニケーション法をロールプレイを交えながら分かりやすく講演していただきました。変えるのは他人ではなく、まず自分自身であること。自分自身を振り返る良い機会になったのではないのでしょうか。

今回このセミナーへお越しいただけなかった方やもう一度視聴したいという方のためにDVDを制作中です。ご希望の方には貸出しいたします。貸出可能となりましたらホームページにてお知らせいたします♪
<http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

月刊トピックス

女性支援に関する事や
情報などをご紹介します

母性健康管理指導事項連絡カードを
ご存じですか？

これは、働く女性が安心して妊娠・出産を迎えるためのサポートの一つです。勤務時間の短縮・時差通勤・休憩時間の延長等が必要と医師等から指導を受けた妊婦さんが、その指導内容を事業主の方に的確に伝える事を目的としたカードです。上司に直接話しにくい内容や体調について、誤解なくこのカードで報告することができます。

カードの詳細については、下記ホームページをご覧ください。また、女性研究者サポート室の両休憩室にも資料がございますのでお気軽にお立ち寄りください。

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>
財団法人女性労働協会 <http://www.jaaww.or.jp/>

P i c k u p

大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事やこれまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……福祉社会科学研究科 准教授 高島 拓哉さん

『私の視点』

私は社会学研究科の出身であるが、社会福祉や家族論などの分野を中心に、女子院生の数が大変多かった。研究については女性の先輩院生の方々から厳しくご指導いただいたのを覚えている。研究能力の高い女性たちの存在を身にしみて感じてきたところである。

現在の私の研究テーマは「地域社会レベルのアンペイドワーク」というものである。アンペイドワークとはフェミニズム理論の中で発展させられてきたもので、無償労働などと訳されている。先進国では、家事、育児、介護など家庭で無償で行われている家事労働を指している。アンペイドワークに縛られて雇用の上で不利な地位におかれてしまう問題や、アンペイドワークそのものが正当に評価されないことが、女性の地位を押し下げてきたメカニズムだといわれる。また、家事労働と雇用労働の二重負担も注目されており、私の研究はこれに加えて町内会やPTAなど地域社会での負担との重複に注目するものである。研究者にもこれらの重複の問題はあろう。夜間の大学院授業が多い中でPTAの役員をしている私の現状もそうであるが、女性であれば家事負担がさらに重なったところであろう。そういう視点で問題を見ているところである。



発行：大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挾間キャンパス)

E-mail : fsupport@oita-u.ac.jp HP : <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>



振興調整費

FABレポート

№4
2011.5.11
発行

～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

ホームページをリニューアルしました！

内容の一部を、リニューアルしました。詳しくは、以下のとおりです。

■大分大学における各学部ごとの教員・学生の男女の比率を掲載しています。

[TOP](#) → [資料・データ](#) → [数字で見る男女共同参画](#)

■女性研究者サポート室の取り組みについて説明した動画を掲載しました。『動画で見るFAB活動内容』と題して、2年後そしてもっと将来の大分大学における女性研究者支援の将来像をご覧いただけます。

[TOP](#) → [FABについて](#) → [『動画で見るFAB活動内容』](#)

■FABログが、FABコラムに生まれ変わり、より皆様にとって有益な情報をお届けしていくことになりました。たくさんのお知らせやメッセージを発信していきたいと思っています。 [TOP画面右下](#) → [FABコラム](#)

月刊ピックアップ

女性支援に関する事や
情報などをご紹介します

女性研究者の研究活動支援について

「大分大学男女共同参画行動計画」に掲げられた『女性研究者の研究活動支援』として、女性研究者サポート室では、女性研究者奨励賞および学会派遣支援を行っています。国内外で活躍する女性研究者の支援を行うことにより、女性研究者の研究へのモチベーションの向上や研究の活性化を目的としています。昨年度実施した「研究者奨励賞・学会参加費」に続き、今年度、「春季学会派遣支援」を行いました。

また、今年度の秋季に公募を行う予定となっておりますので、女性研究者の方はぜひ応募してください。詳細が決まり次第ホームページ等でお知らせします。

お知らせ：「アサーティブなコミュニケーションスキルを学ぼう」のDVDと関連書籍が貸出可能となりました！
貸出方法等についてはホームページをご覧ください(^_^)

[TOP](#) → [サポート室図書](#)

Pick up

大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

教育福祉科学部 講師 荻野 千砂子さん

『学位授与式の思い出』

うらかな陽の光が溢れる3月の学位授与式。私は指導教員のもとへ博士論文指導のお礼に伺った。袴姿で正装した私を見て、いつもは厳しい先生が「よく頑張りました。」と微笑まれた。そして「この調子で論文を書き続ければ、あなたはいい研究者になるんじゃないかな。」とおっしゃった。私は驚いた。このスピードで論文を書く？思わず言った。「先生！この調子で論文を書いていたら、私、結婚する時間がありません！」。すると先生は、微笑んで「学問と結婚しなさい。」とおっしゃった。衝撃だった。先生の判断は、「女性は、家事と育児と介護に多くの時間を費やす。研究と家庭の両立は困難だ。加えて結婚が就職に不利になる可能性もある。」というものだった。後日、「男性の幸せより女性の幸せは複雑で難しいですね。」と語った先生は、女子学生を研究者として育てる心労を日頃から抱えておいでだったのだろうと、今にして思う。もし当時、女性研究者サポートの取り組みがあったなら先生の判断は違っていただろうかと、この委員を引き受けてから、時折考えている。

発行：大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挾間キャンパス)

E-mail : fsupport@oita-u.ac.jp HP : <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

FABレポート

No5
2011.6.13
発行

～サポート室便り～



サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

男性も育児休業を取得しましょう！

大分大学では、次世代育成支援対策推進法に基づく第2期行動計画の中で、男性職員の育児休業の取得を推進しています。より一層充実したワークライフバランスを実現していくために男性職員も育児休業を取得し、積極的に子育てに参加しましょう！詳細については、人事課へお尋ねください。

FABキャリアカフェ開催のお知らせ

㈱白石中央研究所事務課の當真瑞代さんを囲んで、昼食をとりながらの”FABキャリアカフェ”を開催します。企業における女性の働き方などについてお話を伺いながら、気軽にお話しませんか？**（学生さん歓迎!!）**
昼食は各自持ち寄りで、途中参加も可能です。
参加ご希望の方は、サポート室までご連絡ください。
日時：平成23年7月1日（金）11時半～13時前（予定）
場所：工学部事務棟 2階 第2会議室



大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

医学部 教授 井上 亮さん

『 Bill for being unconcerned 』

尖閣諸島沖での漁船衝突事件において、船長釈放という措置を講じた日本国政府の対応に評論家諸氏が非難をあげたことはまだ記憶に新しいことと思います。日本と中国はお互いの存在無しに経済が成り立たないことは周知の事実にも関わらず、いざ外交となるといざとなるところで齟齬が生じ、良好な国交関係が構築されていないと感じさせられ、私のような政治からは遠く離れた者にとっても歯がゆく思うことしばしばです。そんな感想をいただきつつ、先日本屋である本が目にとまり、歴史に疎い自分も興味を持って読破しました。それによると、日本は極端なノン・イデオロギー（主義主張）国家であって、中国は欧米と肩を並べるイデオロギー国家であるが、日本は中国のその歴史を理解しようとせずにこれまで外交を行ってきたツケが回ってきていると述べられています。日中関係という個々では解決できないような例を挙げてまいりましたが、これは女性研究者支援にとっても大切な視点と考えられます。今後、国策として女性研究者を増加させる必要性において、これまでの日本のいわゆる男性社会（私の所属している組織は極端な女性社会で例外ですが）を覆す職場環境を整える必要があると思われます。女性研究者ひいては女性達のイデオロギーとまでは言わないまでも、職場における女性の本質（本音）を考えてみるのもいいかもしれません。別のある書によると、女性は、職務満足感も高いが、ストレスも多く感じている。また、仕事上での多くの友人や仲間もいるが、一緒にはやっつけられない者も多くいると報告し、女性は、男性よりも大きな社会的ネットワークで働いているようであると述べています。管理職にある女性の場合、詳細は割愛しますが、さらに諸々のファクターがストレスの原因になると述べています。備えあれば憂いなし。同じ目標に向かって男女共同参画事業・研究を効率よく推進するために、時にはお互いの特性・本質を考える時間が必要ではないでしょうか。さもないと、将来、女性研究者支援室が“女性研究者対策室”という想定外なものに変貌するというツケを払わされるかも……。

発行：大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挾間キャンパス)

E-mail : fsupport@oita-u.ac.jp HP : <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

FABレポート

No5
2011.6.13
発行

～サポート室便り～



サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

男性も育児休業を取得しましょう！

大分大学では、次世代育成支援対策推進法に基づく第2期行動計画の中で、男性職員の育児休業の取得を推進しています。より一層充実したワークライフバランスを実現していくために男性職員も育児休業を取得し、積極的に子育てに参加しましょう！詳細については、人事課へお尋ねください。

～セミナー開催のお知らせ～

演題：『女性医療人のキャリア継続のために』
～九州大学病院きらめきプロジェクトの紹介～

講師：九州大学大学院医学研究院 保健学部門
榑木 晶子 教授

日時：平成23年7月15日（金）17時30分～18時30分

申込：女性研究者サポート室（内線6347）まで
※詳しくはホームページをご覧ください



大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

医学部 教授 井上 亮さん

『 Bill for being unconcerned 』

尖閣諸島沖での漁船衝突事件において、船長釈放という措置を講じた日本国政府の対応に評論家諸氏が非難をあげたことはまだ記憶に新しいことと思います。日本と中国はお互いの存在無しに経済が成り立たないことは周知の事実にも関わらず、いざ外交となるといざとなるところで齟齬が生じ、良好な国交関係が構築されていないと感じさせられ、私のような政治からは遠く離れた者にとっても歯がゆく思うことしばしばです。そんな感想をいただきつつ、先日本屋である本が目にとまり、歴史に疎い自分も興味を持って読破しました。それによると、日本は極端なノン・イデオロギー（主義主張）国家であって、中国は欧米と肩を並べるイデオロギー国家であるが、日本は中国のその歴史を理解しようとせずにこれまで外交を行ってきたツケが回ってきていると述べられています。日中関係という個々では解決できないような例を挙げてまいりましたが、これは女性研究者支援にとっても大切な視点と考えられます。今後、国策として女性研究者を増加させる必要性において、これまでの日本のいわゆる男性社会（私の所属している組織は極端な女性社会で例外ですが）を覆す職場環境を整える必要があると思われます。女性研究者ひいては女性達のイデオロギーとまでは言わないまでも、職場における女性の本質（本音）を考えてみるのもいいかもしれません。別のある書によると、女性は、職務満足感も高いが、ストレスも多く感じている。また、仕事上での多くの友人や仲間もいるが、一緒にはやっつけられない者も多くいると報告し、女性は、男性よりも大きな社会的ネットワークで働いているようであると述べています。管理職にある女性の場合、詳細は割愛しますが、さらに諸々のファクターがストレスの原因になると述べています。備えあれば憂いなし。同じ目標に向かって男女共同参画事業・研究を効率よく推進するために、時にはお互いの特性・本質を考える時間が必要ではないでしょうか。さもないと、将来、女性研究者支援室が“女性研究者対策室”という想定外なものに変貌するというツケを払わされるかも…。

発行：大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挾間キャンパス)

E-mail : fsupport@oita-u.ac.jp HP : <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

F A B レポート

No6
2011.7.21
発行

～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

8/10女性研究者サポート室のご紹介

当学のオープンキャンパス開催に合わせて、女性研究者サポート室の紹介を下記の場所で行います。

旦野原：教養教育棟1階 多目的スペース（9：30～15：30）

挟間：臨床大講義室前（13：00～16：00）

教職員のみなさまも、この機会にお立ち寄りください。

月刊トピックス

実はこうだった！熱中症対策

効果のある熱中症対策をご紹介します。

- ・塩分補給の真実 → 大量の汗をかいた場合に補給する
- ・暑さに強くなるウラ技 → 運動後に牛乳などを飲むこと
- ・効率的に涼になれる方法 → 首を冷やすこと

NHKためしてガッテンより。詳細はこちらへ<http://www.nhk.or.jp/gatten/>



大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

工学部 准教授 園井 千音さん

『 研究者のライフスタイル 』

大学や研究機関における研究者のライフスタイルには概ね三つの側面があることを自覚しています。第一は研究を持続させる知的体力を維持する苦勞です。研究生活は、一つの成果を達成するために長い忍耐が続きますが、結果が出た時の喜びも束の間、また新たな課題に取り組む苦勞が始まることの繰り返しです。常に複数の研究課題を抱えているために解決までの見通しが立たず精神的に苦しくなる場合もあり得ます。さらに、研究姿勢として、課題を大所高所から見る俯瞰的視野と、問題点を絞りそれを深く検証する視点が求められます。これらマクロとミクロの見方は絡んでいることが必要です。また特に人文科学分野の研究課題選択においては、実利的結果や時流に左右されることなく、その学問分野における普遍的問題の解明に収斂するものでなくてはなりません。日常の研究において以上のような意識を持続させる緊張感も研究者の苦勞を増す要因となります。

研究者の生活に見られる第二の側面は、これはおそらく研究分野の性質にかかわらず望ましいことですが、その道で人間としても尊敬することができる良き師や友を持つことといえましょう。知的刺激や学問的議論のみならず、ものの考え方や、生き方等について、あるべき姿を示唆してくれる師や友の存在は悩みの多い研究生活における精神的支えとなってくれます。

第三に、これがあるいは現実的に最も肝要な心得かもしれませんが、コンスタントな研究続行の姿勢を自分のライフスタイルとして容認することができ、日常的、非日常的葛藤も克服し、あるいはそれらをしなやかに「流す」精神力を養成しておくことが必要に思われます。特に女性の場合は、出産や育児、その他女性に固有の諸々の社会的事象が、研究生活と同時に起こってくる場合があります。それらを、それはそれ、これはこれ、すなわち“business as usual”の精神により、切り抜ける覚悟が必須のように思われます。

最後に、大分大学が以上の3つの点を備えた女性研究者を今後も多数輩出する知的空間となることを強く願っております。

発行：大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挟間キャンパス)

E-mail : fsupport@oita-u.ac.jp HP : <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

FABレポート

No7
2011.9.20
発行

～サポート室便り～ 

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

月刊トピックス

女性支援に関する事や
情報などをご紹介します

科研費の一部基金化について

科研費はH23年度予算から、研究費の年度制約をなくすため、一部を基金化する制度改革が行われました。これにより、研究費が以下のように使い易くなりました。

- 研究の進展に合わせた研究費の前倒し使用が可能になります。
- 事前の繰越手続きなく、今年度未使用の研究費を次年度に使用することが可能になります。
- 年度をまたぐ物品調達が可能になります。
- 研究期間中であっても、育児休業等(産前産後の休暇・育児休業)の取得に伴い、研究を中断することができます。また、育児休業等の取得に応じて研究期間の延長も可能になります。

詳細は、

日本学術振興会の科研費ホームページをご覧ください。

<http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>

くるみんマークとは？

くるみんマークとは、子育て支援などに積極的に取り組む「子育てサポート企業」とであると、厚生労働大臣から認定を受けた企業・団体だけが、商品や広告につけることができるマークです。

このマークをつけることで、仕事と子育ての両立を支援する企業であることをアピールすることができます。大分大学は、今年7月15日に「子育てサポート企業」の認定を受け、この**くるみんマーク**をHP等に掲載しています。

くるみんの名前の由来……

一般公募により、赤ちゃんが大事に包まれる「おくるみ」、あるいは子供が優しく「くるまれている」というあたたかい印象と、「職場ぐるみ・会社ぐるみ」で子どもの育成や仕事と子育ての両立支援に取り組もうという意味から決定されました。



大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

全学研究推進機構 助教 福田 昌子さん

『 女性の時代到来!? 』

私が大学を卒業したのは、男女雇用機会均等法制定以前の、超氷河期という言葉すらない女子学生就職難の時代でした。大卒女性が職に就けるのは公務員か一部の専門職くらいで、ましてや大学院進学を希望しても歓迎されるはずもありません。幸いにも私の同級生(大部分が女性)のほとんどは、学部卒業後就職できました。大学の研究職に就いた人もいます。ですが、能力があっても、多くが結婚や子育てで仕事を辞めざるを得なくなりました。家庭は勿論大事ですが、女性の力を社会で活用できないなんてなんともったいないことかと当時よく思ったものです。

時は流れて21世紀の今、やっと女性の時代がやって来たと感じています。東日本大震災が発生し、政治の低迷が続くなか、否が応でも誰しも今後の日本のあり方や個人の生き方について考えたのではないのでしょうか。少子高齢化の時代、女性が活躍できなければ日本は成り立たないと思います。法的には、女性が働き続けるための整備が以前より進みました。あとは実行あるのみです。その後私の同級生達は、これまたほとんどが仕事に復帰し、子育て(なぜか子沢山が多い)しながら、自分の実情に合わせて逞しく働いています。意志と柔軟性があればできないことはありません。近い将来、気付いたら男女ともに生きやすい日本になっていたという風景が出現することを期待します。その時には女性研究者の環境も大きく変わっていることでしょう。

発行：大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挾間キャンパス)

E-mail : fsupport@oita-u.ac.jp HP : <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

FABレポート

№8
2011.11.18
発行

～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

研究サポーターの利用申請を 随時受け付けています

サポート室では、研究補助業務に従事する研究サポーターの配置を11月から開始しました。
利用対象は、以下に該当する本学の**常勤研究者**です。
男性研究者も利用できます。

- ・妊娠中の者
- ・小学校6年生までの児童を養育している者
- ・家族に要介護者または要介護者がいる者

その他支援内容や利用方法などの詳細については
ホームページまたはサポート室にてご確認ください。

月刊トピックス

女性支援に関する事や
情報などをご紹介します

学会派遣支援について

今年度は、15名の女性研究者へ学会派遣支援を行いました。【国際学会 6名、国内学会 9名】

来年度も、春季および秋季の2回に分けて、女性研究者学会派遣支援を行う予定です。
詳細が決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。

第2回FAB キャリア交流会を行います

日 時：H23年12月6日（火） 15:10～16:00

場 所：事務局棟 第2会議室（旦野原キャンパス）

対 象：本学の学生、教職員

長崎大学の大井久美子副学長を迎え交流会を行います。



大分大学の教職員の方に登場していただき、
女性研究者支援について、ご自身の事、
これまでに経験してきたことなどを
お話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

教育福祉科学部 准教授 山崎 栄一さん

『女性と防災』

今回は、「女性と防災」というテーマで書かせていただくことにした。自然災害に際して、女性は二つの側面を持っている。一つは、災害に対して脆弱性を有しているという側面であり、もう一つは、災害復興の場面においてキーパーソンとしての役割が期待されているという側面である。それゆえに、災害時要援護者としてのきめ細かい配慮が必要であると同時に、災害復興の場面において発言をし、活躍をする場を設けることが要請される。

筆者は2006年度に「大分県女性の視点による防災指針作成検討会議」のアドバイザーを務めたことがあった。メンバーは、県内で防災活動にあたっている女性によって構成され、男性は筆者1人というものであった。お話を伺う中で、防災が男女分業の顕著な領域であることを認識させられたが、何回かの検討会と現地見学を経て、「女性の視点からの防災対策のススメ」というパンフレットを作成することができた。当時の検討会議の活動内容に関する記事や成果物については、<http://www.eiichiyamasaki.com/area.html>において、論文（「防災分野における男女共同参画—大分県における取り組みを中心に」大分大学大学院福祉社会科学部研究科紀要第9号）は<http://www.eiichiyamasaki.com/achievements1.html>において、ダウンロードできるのでご参考いただければ幸いである。

発行：大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挾間キャンパス)

E-mail : fsupport@oita-u.ac.jp HP : <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

FABレポート

No9

2012.2.6
発行

～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

ロールモデル誌を発行しました

女性研究者支援の一環として、大分大学で活躍する女性研究者を紹介する「**ロールモデル誌**」を発行しました。多くの研究者が大分大学で活躍していますが、女性研究者の数はまだまだ少ない状況です。国際比でみても日本の女性研究者の割合は13.6%で、先進国では最下位レベルとなっています。女性研究者が少ない要因の一つとして、女子学生にとってお手本となるロールモデルを知る機会が少ないということがあげられています。そこで、このような冊子を発行し、研究の魅力や研究生生活について紹介することで、進路選択の参考にしていただきたいと思います。

※ロールモデル誌をご希望の方は、サポート室までお問い合わせください。

月刊トピックス

女性支援に関する事や情報などをご紹介します

イメージキャラクターFAB子ちゃん誕生

サポート室のイメージキャラクター

「FAB(ふあぶ)子」ちゃんが誕生しました。

研究職に憧れ、女性研究者について

いろいろな知識をもっている中学生です。

サポート室の活動をPRするため、このFAB子ちゃんが登場するコマーシャルが、2月1日から1ヶ月間、TOSとOABのいろいろな時間帯に放送されます！



◆**研究サポーター事業**◆ 現在のサポーター利用状況は、医学部の4名の先生方が承認されています。今年度の利用申請については、**2月15日**まで随時受付となっています。来年度も、サポーター利用申請の受付を行う予定です。詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。



大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

工学部 助教 堀 紀子さん

『 機械工学と私 』

「なぜ機械工学の研究者になろうと思ったのですか？」

と、よく尋ねられます。私自身も、面白そうな方を選んできただけ、としか言いようがありません。

子供の頃に機械いじり大好きだったという訳でもなく、ただ、高校で力学が少し得意だったので、大学受験では将来つぶしが利きそうな機械系学科を選びました。大学に入学してからも、特に研究職に就こうとかは考えていませんでした。転機になったのは、大学3年の時のJR九州へのインターンシップです。インターンシップでは車両の分解、検査、組立の様々な保守管理の工程を体験し、保守管理の難しさと重要性を実感しました。

私の今の研究分野でもある「金属疲労」は機械・構造物の長期的な安全性に関して必要不可欠な分野ですが、まだまだ多くの解決すべき問題が残っています。研究では、金属の加工、実験、観察といろいろな手間もかかりますが、その分いろいろな発見もあり、とても興味深く、面白い分野です。機械工学は女性が入りにくいイメージがあるのか、工学部の中でも女子学生が少ない傾向にありますが、こんなに面白い分野なのに入ってきて来ないなんてもったいない！と感じています。

発行：大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挾間キャンパス)

E-mail : fsupport@oita-u.ac.jp HP : <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>



No.10
2012.4.20
発行

～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

旦野原の女性研究者サポート室が移転しました

旦野原キャンパスの事務棟内に設置していた女性研究者サポート室が、今年度4月に新設された男女共同参画推進本部棟へ移転しました。保健管理センター内に設置していた休憩室についてもサポート室内へ移動しております。より充実した設備となっておりますのでご利用ください。

不明な点は、サポート室までお問い合わせください。

春季学会派遣支援者が決定しました

平成24年度女性研究者支援 春季学会派遣支援は4名の方が採択されました。詳しくは、ホームページをご覧ください。

今年度、秋季も女性研究者の学会派遣支援を行う予定となっております。詳細が決まり次第、ポスターまたはホームページ等でお知らせを行います。

セミナーの開催のお知らせ

男女共同参画公開セミナー

『先進的男女共同参画を学ぶ』

日時:平成24年5月18日(金) 14:00～16:00

会場:レンブラントホテル大分(旧東洋ホテル) 2F 久住の間

参加者:大学関係者及び一般(事前申し込み制 定員100名)

【特別講演】

講師:岩田 喜美枝氏(株式会社資生堂 取締役)

演題:「資生堂のすすめる男女共同参画(仮題)」

『科研費獲得セミナー』

～書き方次第でこんなに違う～

講師:久留米大学分子生命科学研究所長 児島 将康氏

《旦野原キャンパス》

日時:平成24年6月1日(金)

14:00～16:00

場所:産学官連携推進機構研修室

《挾間キャンパス》

日時:平成24年6月1日(金)

17:30～19:30

場所:臨床大講義室

※参加希望者は事前にお申込みください



大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

経済学部 講師 秋山 智恵子さん

『私のロール・モデル』

私の専攻する分野は、まだ女性研究者が少ないため、学生時代、身近な「ロール・モデル」となる女性には残念ながら出会うことができませんでした。しかし、幸運なことに私は、特に「育児」について良き手本となる男性研究者に指導を受けることができました。

今から20年以上前、まだ男性には一般的ではなかった時代に「必死で」育児をされた先生の体験を聴き、子供の就寝後に研究室に通う先生、育児休暇を取得した先生などの様子を身近で拝見するなかで、事情の異なる複数の先生が、それぞれに工夫しながら「育児」をされている様子から、数多くの事を学びました。

「研究」と「育児(家庭)」を両立するということは、おそらく想像以上に大変だと思います。ただ、どの先生も、忙しく充実した日々には輝く表情が、とても魅力的でした。確かに、「出産」は女性にしかできませんが、「育児」は男性でも「ロール・モデル」になり得ると確信しています。

現在、私が所属する経済学部には、「育児」だけではなく、様々な面において「ロール・モデル」となる研究者が沢山在籍しています。この恵まれた環境から沢山のことを学び、将来に活かしたいと考えています。

発行:大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挾間キャンパス)

E-mail: fsupport@oita-u.ac.jp HP: <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

F A B レポ ート



No.11
2012.6.19
発行

～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

秋季学会派遣・奨励賞の募集を行います

平成24年度女性研究者 秋季学会派遣支援及び奨励賞の募集を行います。申請期間は以下です。

【学会派遣】平成24年7月2日(月)～7月17日(火)

【奨励賞】平成24年7月2日(月)～7月23日(月)

その他詳細は、後日HP等でお知らせいたします。

月刊トピックス

女性支援に関する事や
情報などをご紹介します

アイネス男女共同参画ウィーク2012

2012年6月23日(土)～26日(火)までの間

大分県消費生活・男女共同参画プラザ(アイネス)にて「アイネス男女共同参画ウィーク2012」が開催されます。

大分大学女性研究者サポート室も、活動パネル展にポスター出展をします。さらに、6月24日(日)13時～16時の映画講座の第二部トークセッションにおいて、医学部病態生理学の森島真幸先生が「なりたい自分をあきらめない」というテーマのトークセッションに参加されます。詳細については下記までお問い合わせください。

【アイネス】電話097-534-2039 FAX097-534-2057

下記のDVDが貸出可能です。

セミナーDVD貸出について

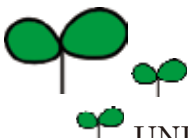
・5月18日男女共同参画セミナー・6月1日科研費獲得セミナー
ご利用の方はサポート室までお問い合わせください。



大分大学の教職員の方に登場していただき、
女性研究者支援について、ご自身の事、
これまでに経験してきたことなどを
お話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

医学部 助教 花田 克浩さん



『子供幸福度第1位の国の子育てって？(その1)』



UNICEFの調査で、オランダが子供の幸福度の分野で第1位を獲得しました。今回はそのオランダの子育てと研究事情について紹介しようと思います。オランダの大学でも、日本と同様、正規職員は大学の教職員など一部に限られており、研究員(ポスドクやテクニシャン)の大部分は、外部資金による雇用非正規職員です。ただし、オランダでは同じ作業をしている者の「労働の価値」を差別することが禁じられているため、正規職員と非正規職員の給与や社会保証に差がありません。分かりやすく言うと、同じ「研究」を業務とするのであれば、正規、非正規に関わらず時給や社会保障が同等ということです。正規と非正規の待遇に2倍近くの差がある日本の国立大学とはかなり異なります。「労働の価値」が保証されていることで労働者のニーズに応じた勤務形態が可能になります。‘育休’に関しても、単純に休暇を申請する(日本型)だけでなく、勤務時間を8割や5割に減らすことも可能です。労働の時間帯を変更することも可能です。1週間分の労働時間を週4日で消化すれば週休3日が可能となり、これを夫婦で実行すれば、週4日保護者の在宅が可能になります。さらに、夫婦で勤務時間帯を調整しているケースもあり。私の同僚の場合は、女性研究者の方が午前6時に出勤し午後2時には帰宅という形態を選択していました。労働の報酬システムを変えるのは難しいですが、勤務時間帯の自由度を高めるぐらいのことは本学でもできると思うのですが、みなさんはどう思いますか？

発行:大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挾間キャンパス)

E-mail: fsupport@oita-u.ac.jp HP: <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>



No.12
2012.9.18

～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

文部科学省が発表した学校基本調査によると、大学女性教員の割合が21.2%となり、過去最高を更新しました。国公立別で見ると、国立14%、公立26.9%、私立25%の割合となっています。

(8月27日毎日新聞より)

大分大学の現在の女性教員の割合は、16.1%ですが、本学が目指す20%以上となるように、これからもサポートを充実したものにしていきたいと思えます。

平成24年度女性研究者支援の採択者が決定しました。

【秋季学会派遣】 国際学会 3名 国内学会 5名
【第3回研究奨励賞】 研究者部門(最優秀賞 1名 優秀賞 5名)
大学院生部門(最優秀賞 1名 優秀賞 2名)

セミナー開催のお知らせ

『男女共同参画公開セミナー』

日時：平成24年10月9日(火) 14:00～16:10

会場：大分オアシスタワーホテル 3階 紅梅の間

参加者：大学関係者及び一般(事前申込制 先着100名)

【特別講演】

講師：川島 隆太氏 (東北大学加齢医学研究所教授)

演題：「脳を知り、脳を育み、脳を鍛える」

～脳科学から見た男女共同参画の意義～



大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

医学部 助教 花田 克浩さん

『子供幸福度第1位の国の子育てって？(その2)』



日本各地で『いじめ』が問題になっている。そのほとんどは学校で起きている。あるいは、学校での人間関係が関係している。では、オランダではどうか？多種多様な人種が住んでいるロッテルダム市では、「子供の個性」や「集団力学」を原因としたいじめだけでなく、人種、宗教、国籍、習慣の違いなど、様々な原因で「差別」や「いじめ」が発生する。しかし、実際は日本より「いじめ」は少ない。その要因を考察してみる。

オランダは5歳になる誕生月の翌月から小学校に入学する。バラバラに入学するので児童たちは「集団」というより「個人」という意識が高い。この点で「1人を集団でいじめる」といういじめの構図ができにくい。さらに、市内ならこの学校に通っても良く、転校も自由である。気をつけるべき点は、各学校の教育方針が全く異なることである。自然環境を尊重する教育、ハイテク／エリート教育、運動・実技重視の教育、国際感覚を磨く教育など、教育方針は校長先生の次第と言ってもいい。児童生徒たちは、自身の興味に応じて転校することもできれば、人間関係を原因として転校もできる。この自由度こそが、適性や個性を伸ばすだけでなく、いじめを受けている児童生徒が容易に避難できる環境を与えている。多種多様な価値観の現代社会、我が国でもこのような自由な選択が取り入れられる必要があるのかもしれない。最後に、多種多様な人種が暮らすロッテルダムでは、小学校の頃から教育の現場で「いじめ」や「差別」に対する指導が日本以上に真剣に取り組まれているということも加筆しておく。

発行：大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挾間キャンパス)

E-mail : fsupport@oita-u.ac.jp HP : <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

F A B レポ ート



No.13
2012.11.19
発行

～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

平成24年度後期研究サポーター利用者が決定しました。

サポーター利用者は4名(育児理由:3名 介護理由:1名)です。
平成24年度後期の利用申請受付は終了しましたが、不測の事態が生じた場合は、サポート室までご相談ください。

女性が日本を救う？

IMFのレポートによると、女性の社会参加が、日本の再生の鍵になるそうです。日本は、どの国よりも急速な高齢化が進みさらに少子化で働く人の数や生産年齢人口は激減すると予測されており、2050年にはピーク時の4割落ち込み、GDPは、他のアジア諸国を下回るという見方もあるそうです。

労働力の縮小を食い止める手段が埋もれた潜在力、女性の活躍を促すことだそうです。それを実現するには2つのハードルの解消が重要で、1つは、国際的にも極端に少ない女性管理職や役員を増やすこと。2つ目は、家庭と仕事の両立支援の充実で、柔軟な働き方や保育サービスが整えば、出産後に仕事を辞める女性を減少することができるといわれています。

2012年10月17日放送のNHKクローズアップ現代より

セミナー開催のお知らせ

『第4回九州・沖縄アイランド』

女性研究者支援シンポジウムin大分

つづけること、つながること九州・沖縄の絆のちから
～研究者が能力を発揮して輝くために～

【日 時】：平成24年12月15日(土) 13:00～17:00

【会 場】：レンブラントホテル大分 久住の間

【参加者】：一般及び大学関係者 入場無料、託児あり
(事前申込み制 定員100名)

【特別講演】

地域社会で育む女性研究者支援のための特別講演

演題：「銀座のママから学ぶ人間力」

講師：白坂 亜紀氏(大分県竹田市出身)



大分大学の教職員の方に登場していただき、
女性研究者支援について、ご自身の事、
これまでに経験してきたことなどを
お話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

経済学部 准教授 大呂 興平さん

『女性の社会進出と男性』



この10月から、女性研究者サポート室の研究サポーター制度を利用させて頂くことになった。男性研究者である私が、女性研究者を念頭に置いている(であろう)サポーター制度を利用するのはためらわれたが、背に腹は代えられない。

妻は市内で私以上に忙しく働いている。4才になる子どもの保育園の送迎は主に自分の役割である。毎日18時前には大学を出なければならず、5限の終わりにもなると学生より自分がソワソワしてくる。保育園に迎えにいくと、子どもが飛びついてくる。一日中保育園にいななければならない子どもにとって、親にはとても甘えたいはずだ。それから22時までは子どもとの時間となる。原稿の締切に追われている時は、18時からの中断は特にキツイ。中断後、執筆に頭を戻すのは至難の業である。

女性の社会進出は、社会進出した妻を持つ夫の仕事に、大きな時間的制約がかかることも意味している。女性と比べて、男性は等しくバリバリ仕事をする前提で世の中が回っているぶん、正直なかな難しい。サポーター制度を有り難く使わせて頂こうと思う。



発行:大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挾間キャンパス)

E-mail: fsupport@oita-u.ac.jp HP: <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

F A B レ ポ ー ト



No.14
2013.2.4
発行

～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

図書とDVD貸出について

サポート室では、男女共同参画等に関する書籍と、これまで開催したシンポジウムやセミナーのDVDを用意しています。

本学の教職員および学生に貸出ししていますので、ご興味等ある方はサポート室へお問い合わせください。書籍・DVD名については、サポート室のホームページからご確認ください。

貸出しを希望される方は、サポート室にお越しいただくか、メールあるいは電話にて希望の書籍・DVD名および学内便送付先をお知らせいただければ学内便にてお届けいたします。

また、希望する書籍(男女共同参画に関連するもの)等があれば、要望をサポート室までお知らせください。購入を検討したいと思います。

お知らせとお願い

●平成25年度の研究サポーター事業と女性研究者学会派遣支援事業については、詳細が決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。

●現在配付しております研究者の意識調査アンケートへのご協力をお願いいたします。アンケートの結果については、まとまり次第ホームページ等で報告いたします。

●平成25年度開室予定であります、病児保育室に関するアンケート調査を、昨年10月に挟間キャンパスにて実施いたしました。その結果について、報告書を作成いたしました。サポート室のホームページよりご覧いただけます。報告書が必要な方は、サポート室までお問い合わせください。



大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

医学部 准教授 脇 幸子さん

『 私の元気の源 』



私は、今の自分が一番好きである(ナルシストではないです)。もし、生まれ変わるとしたならば、また私でいたいと思う。一人では決して、創ることのできない、私らしさであるからだ。子どもたちが小学生の時、“父”と“母である私”に、偶然にも同じようなメッセージをくれた。「いつもありがとう。お仕事がんばってね」・私の人生を認めてくれていると感謝した。悲しいことも、辛いことも、苦しいことも、楽しいことも、嬉しいことも、患者さんや家族、友人、同僚、上司、学生、出会った人の中で、結局、全てが私の元気の源になっている。教育も研究も、子育ても介護も、単なる仕事や役割ではなく、私が生きている証のように思う。だから、子育てと仕事のどちらかを選ぶことはできずに、たくさんのエネルギーをもらって私は生かされている。だから私も、私の力になってくれる人たちのために永い時間をかけて、私を創り、何かを生み出そうともがいている。“生きることを学ぶ”ことが看護の本質と考える。だから私は看護の探究がおもしろい。知ることを学ぶ、為すことを学ぶ、共に生きることを学ぶ、人間として生きることを学ぶ、生涯学習に秘められた宝を探し続けたい。



発行：大分大学女性研究者サポート室“FAB” 内線8573(旦野原キャンパス) 内線6347(挟間キャンパス)

E-mail : fsupport@oita-u.ac.jp HP : <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

リーフレット 大分大学における男女共同参画の推進

リーフレット「大分大学における男女共同参画の推進」を発行しました。

- ◆大分大学男女共同参画推進宣言
- ◆大分大学男女共同参画行動計画
 - ・具体的な取り組み
 - ・推進体制
- ◆大分大学男女共同参画推進本部 運営組織図
- ◆女性研究者サポート室



2010年12月
大分大学男女共同参画推進本部

リーフレット 大分大学女性研究者サポート室“FAB”って何？

リーフレット「大分大学女性研究者サポート室"FAB"って何？」を発行しました。



調査報告書

平成22年度 研究者の意識調査報告書

大分大学の研究者(教員・研究に直接携わる技術系職員)および大学院生を対象に、女性研究者支援をメインテーマに、男女共同参画や両立支援に関する意識調査を行い、調査結果を報告書にまとめました。



調査報告書

(別冊)平成22年度 研究者の意識調査報告書

大分大学の研究者を対象にした意識調査に続き、職員を対象に、女性研究者支援をメインテーマとした男女共同参画や両立支援に関する意識調査を行い、調査結果を別冊報告書としてまとめました。



事業報告書 平成23年度事業報告書

平成23年度の活動内容をまとめました。



ロールモデル誌 大分大学の輝く女性研究者

大分大学で活躍する女性研究者90名の中から、44人の方をVo1、Vo2で紹介しています。研究の内容や、進路選択のきっかけ、後輩へのメッセージなどを掲載しています。このロールモデル誌がこれからの未来を描く参考になるとうれしく思います。



啓発絵本 ママの研究室

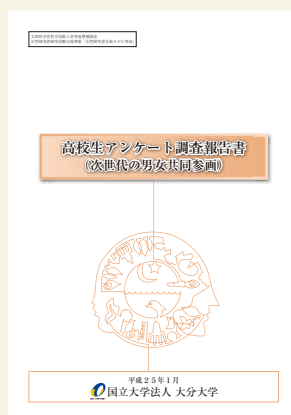
小中高生が研究者を目指すきっかけになるように、物語を通して研究や研究者への理解を深められるような内容になっています。



調査報告書

高校生アンケート調査報告書

大学進学を目指す高校生を対象に、男女共同参画や大分大学に関する意識調査を行い、その結果を報告書にまとめました。



調査報告書

病児保育に関するアンケート調査報告書

2012年10月に挟間キャンパスで実施しました、病児保育に関するアンケート調査の結果について報告書を作成いたしました。



啓発誌

高校生向け啓発誌(アニメ)

研究者という職業があること、誰でも研究者になれることをマンガで紹介しています。



サポート室活動紹介の映像制作

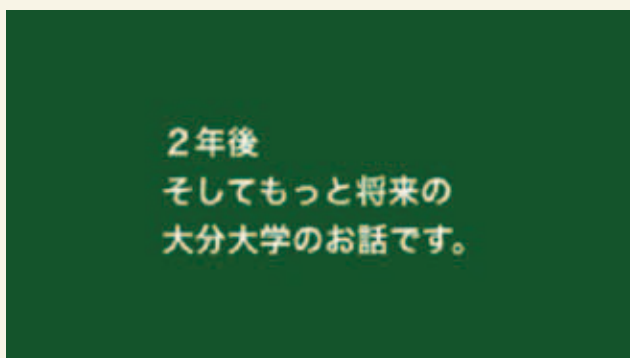
動画で見るFAB活動内容

女性研究者支援への理解を深めてもらうために、女性研究者サポート室“FAB”の活動内容を動画で紹介いたします。



大分大学における女性研究者支援活動についてアニメーション映像で紹介します。

90秒バージョン
平成24年1月作成



大分大学における女性研究者支援の将来像を描きました。

平成22年12月作成



あれから十数年後……

平成24年3月作成

シンポジウム・セミナー収録DVD



女性研究者支援成キック・オフシンポジウム
～地域で育む輝く女性研究者支援～
特別講師：板東久美子氏
(文部科学省生涯学習政策局長)
平成22年12月16日開催



「アサーティブなコミュニケーションスキルを学ぼう」
講師：森田汐生氏
(NPO法人アサーティブジャパン代表理事)
平成23年3月17日開催



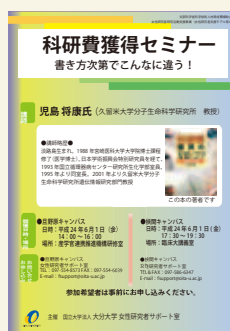
男女共同参画トップセミナー
「推進する力と立ちはたかる壁」
講師：大井久美子氏
(長崎大学男女共同参画推進センター長)
平成23年12月16日開催



男女共同参画公開講座
「女性研究者の活躍とワークライフバランス」
特別講師：蜷瀬誠一氏
(国際ジャーナリスト・キャスト、
明治大学国際日本学部教授・学部長)
平成24年1月19日開催



男女共同参画公開セミナー
「先進的男女共同参画を学ぶ」
特別講師：岩田喜美枝氏
(株式会社資生堂 取締役)
平成24年5月18日開催



科研費獲得セミナー
「書き方次第でこんなに違う！」
講師：児島将泰氏
(久留米大学分子生命科学研究所)
平成24年6月1日開催



男女共同参画公開セミナー
「脳を知り、脳を育み、脳を鍛える」
脳科学からみた男女共同参画の意義
特別講師：川島隆太氏
(東北大学加齢医学研究所教授)
平成24年10月9日開催



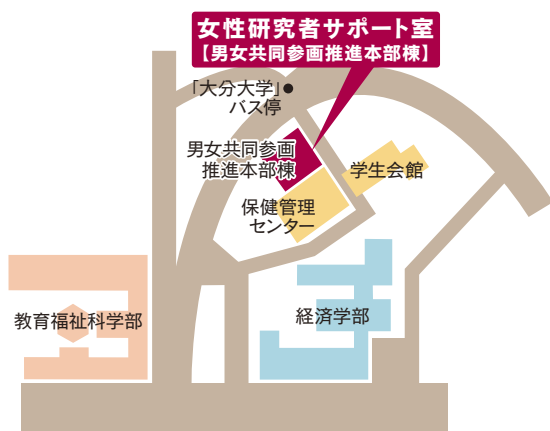
第4回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 大分
平成24年12月15日開催



国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室“FAB”

E-mail fsupport@oita-u.ac.jp

URL <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>



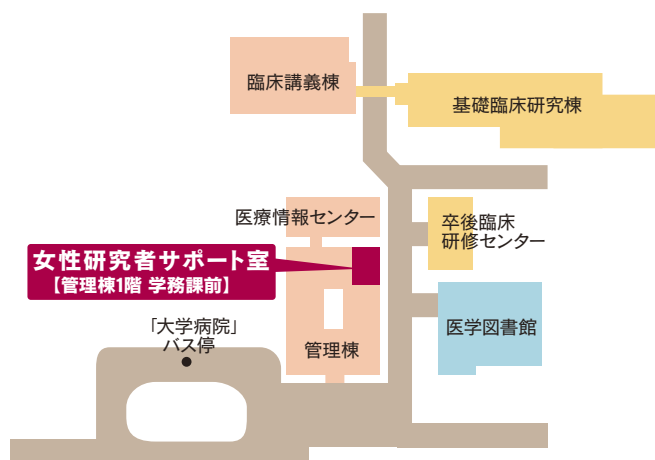
●巨野原キャンパス

〒870-1192

大分県大分市大字巨野原700番地

国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室

TEL:097-554-8573 FAX:097-554-6039



●挾間キャンパス

〒879-5593

大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地

国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室

TEL&FAX:097-586-6347

地域社会で育む『輝く女性研究者』支援 平成22年度～平成24年度

発行日 平成25年3月

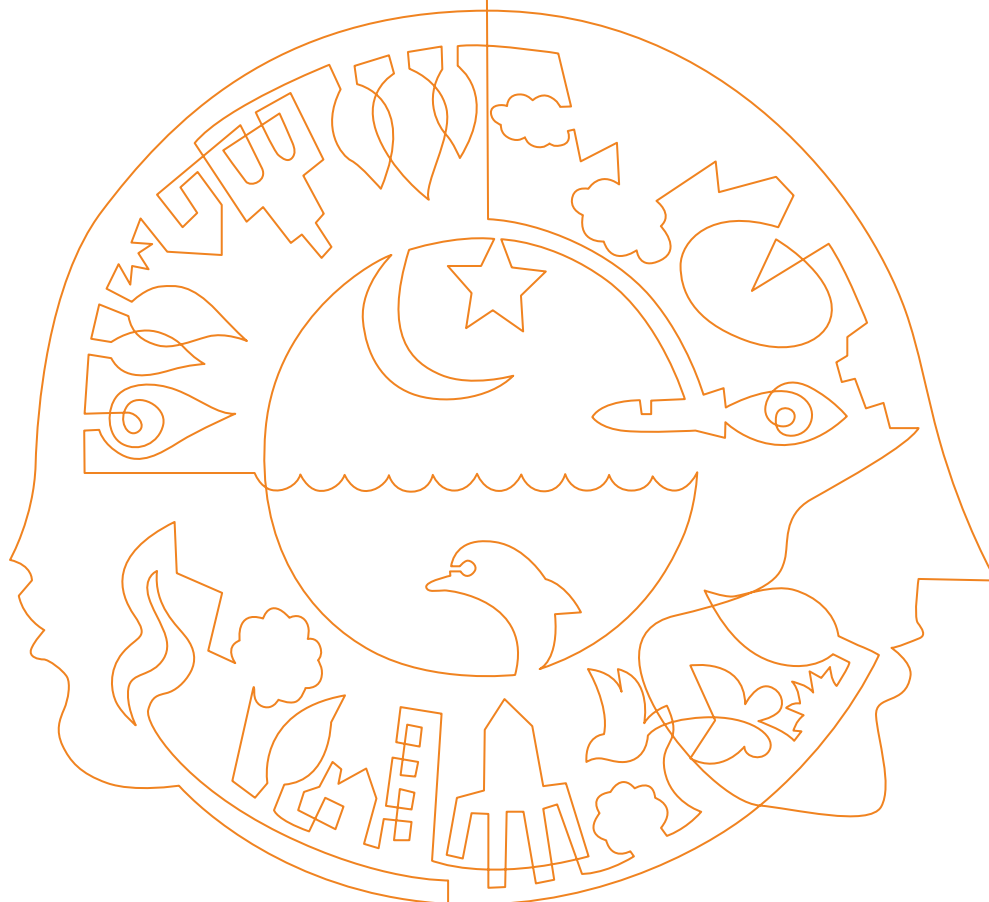
発行元 国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 “FAB” Female academics at Bundai

〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地

TEL (097) 554-8573 / FAX (097) 554-6039

E-mail: fsupport@oita-u.ac.jp

HP: <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>



国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 “FAB”

E-mail fsupport@oita-u.ac.jp URL <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>